

第三次湖南市総合計画(案)

2026 - 2035



目 次

第1部 はじめに

第2部 基本構想

1. 策定にあたって	2
(1) 総合計画策定の趣旨	2
(2) 総合計画の構成と期間	2
(3) 計画の策定体制	3
(4) 目標設定と施策評価	3
(5) 総合戦略との一体的な取組	3
(6) 産官学金労言士の連携による 地域活性化	4
(7) SDGsの理念に基づく 持続可能なまちづくりを推進	4
2. 湖南市の現状	5
(1) 社会潮流	5
(2) 統計からみる湖南市の現状	7
①人口の状況	7
②産業の状況	12
(3) 市民ニーズ	15
①市民意向調査	15
②市民ワークショップ	20

1. まちづくりの理念と将来像	24
まちの将来像	24
湖南市って、こんなまち —湖南市の特徴	26
まちづくりの目標・めざすまちの方向性・ 重要な政策テーマ	28
2. まちづくりの目標	30
まちづくりの目標1 みんなで共に進める仕組みをつくろう	30
まちづくりの目標2 うるおいのあるまちをつくろう	35
まちづくりの目標3 活気あるまちをつくろう	39
まちづくりの目標4 ほっとする暮らしをつくろう	46
まちづくりの目標5 いきいきとした暮らしをつくろう	52
まちづくりの目標6 明日を拓く仕組みをつくろう	57

第3部 基本計画

前期基本計画の基本目標 62

前期基本計画の見方 64

前期基本計画 66

第1章 小規模多機能自治のまちづくり 66
～みんなで共に進める仕組みをつくろう～

第2章 自然を生かし、
自然と共生するまちづくり 80
～うるおいのあるまちをつくろう～

第3章 人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくり 92
～活気あるまちをつくろう～

第4章 こどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり 114
～ほっとする暮らしをつくろう～

第5章 市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり 140
～いきいきとした暮らしをつくろう～

第6章 効率的・効果的な
行政財政システムと人づくり .. 150
～明日を拓く仕組みをつくろう～

第4部 総合戦略

第三期湖南市総合戦略

～まち・ひと・しごとに笑顔があふれる4つのプラン～

1. 策定にあたって 158

(1) 総合戦略策定の趣旨 158

(2) 地方創生の基本的な考え方 159

(3) P D C Aサイクルの見える化
と地域間連携の推進 159

2. 第三次湖南市総合計画と連動した取組 160

3. 人口ビジョンからのアプローチ 161

(1) 人口の見通し 161

(2) 湖南市における将来人口の目標 162

4. 4つのプランと目標指標 163

(1) 働く場の創出プラン 163

(2) ひとの流れの創出プラン 163

(3) こどもまんなかプラン 163

(4) まちづくりプラン 163

5. 7つの政策パッケージ 164

(1) 産業力の強化 165

(2) 多様な雇用・働き方の実現 168

(3) ふるさとづくりの促進 170

(4) 観光と交流による活性化 173

(5) こどもの幸せ、将来の希望の実現 175

(6) 持続可能なまちづくり 178

(7) 安心して暮らせる基盤づくり 181

第1部 はじめに



1. 策定にあたって

1. 策定にあたって

(1) 総合計画策定の趣旨

湘南市では2016年（平成28年）に第二次湘南市総合計画を策定し、基本構想に掲げる将来像『ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湘南』の実現に向け、さまざまな施策に取り組んできました。

第二次湘南市総合計画の計画期間が2025年度（令和7年度）で終了することから、近年の社会経済情勢の変化やまちづくりの進展状況を踏まえ、改めて市民の意向を確認しながら、新たな課題に対応した施策展開を図るため、第三次湘南市総合計画の基本構想および前期基本計画を策定します。

全国では、長期的な人口減少局面に入り、急速な少子高齢化が確実に進行しています。

湘南市においても、これまで以上に厳しい状況が想定されるところです。

一方で、湘南市は交通の要衝として産業や文化が栄え、ものづくりのまちとして発展してきた歴史があります。また、先人たちの努力により、今日までバブル崩壊前の人口を維持し、生産年齢人口の割合も比較的高い水準で維持されてきた点は、一定の評価に値するといえます。さらに、世代を問わず多様な価値観を尊重し、共生をめざす市民のかたが多いことも、地域社会を未来へつなぐ大きな力となっています。

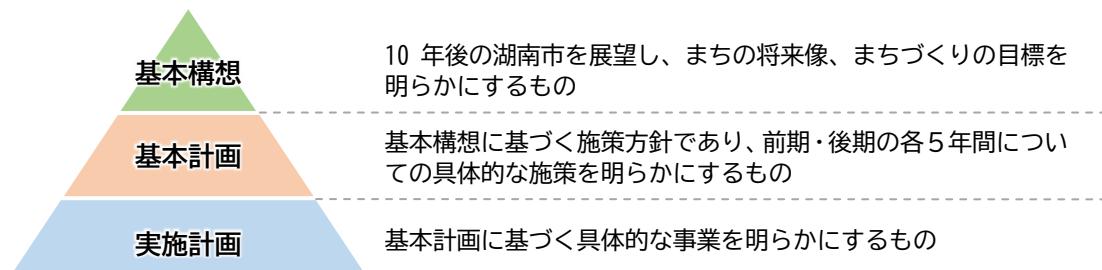
今後の10年間は、社会の大きな変動が予想される中で、地域を支える人々がつながり、公共交通や産業振興などの行政課題について、何が本当に困っているのかを話し合いながら、まちづくりを進めていくことが重要です。また、想定されるリスクに対して優先順位をつけ、施策を講じていくことも必要不可欠です。

これらを第三次湘南市総合計画の座標軸として描くことにより、持続可能で魅力ある湘南市の未来を築いていきます。

(2) 総合計画の構成と期間

①計画の構成

総合計画を一言で表わすと、湘南市におけるまちづくりの最も基本となる計画です。総合計画は、基本構想、基本計画および実施計画により構成します。



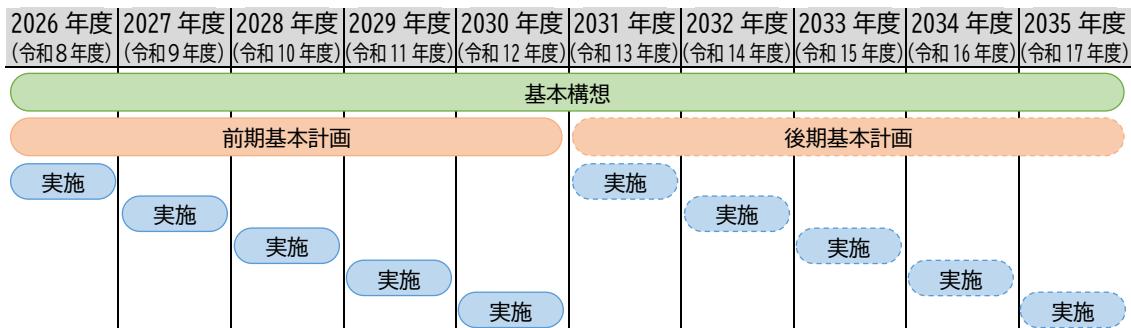


②計画の期間

基本構想は、10年後の湖南市を展望し策定します。

基本計画は、2026～2030年度（令和8～12年度）までを前期基本計画、2031～2035年度（令和13～17年度）までを後期基本計画とし、それぞれ5年間を計画期間として策定します。

実施計画は、毎年見直す方式（ローリング方式）により別途策定します。



（3）計画の策定体制

本計画は、一般公募の市民などで構成する湖南市総合計画審議会が中心となって策定し、審議会については一般公開を行いました。また、18歳以上の市民をはじめ、中学生や高校生を対象とした市民意向調査（アンケート調査）を実施すると共に、計画案を公開した上で市民から意見を求め、これらの結果を計画内容に反映するよう努めました。

（4）目標設定と施策評価

将来像の実現に向けた施策の達成状況を市民にわかりやすくするため、市民意向調査などに基づく目標指標を設定し、進捗状況のチェックによる施策評価を行います。

（5）総合戦略との一体的な取組

現行の湖南市きらめき・ときめき・元気創生総合戦略の計画期間満了に伴い、第三期湖南市総合戦略を本計画と一体的に実行することで、効果的かつ効率的に取組を推進します。



1. 策定にあたって

(6) 産官学金労言士の連携による地域活性化

企業や教育機関、金融機関など、地域を担うそれぞれの主体は、人口減少に加え、G X・D Xなどの時代の変化にも適合しながら、付加価値を高め続けることのできる存在です。

湖南市では、地域社会を担うそれぞれの主体の人財（湖南市にとって人材は貴重な財産であると考えている表現）や資金、ノウハウなどを生かし、政策全般において、地域住民や産官学金労言士などの関係者を巻き込みながら地方創生に取り組みます。

(7) SDGs の理念に基づく持続可能なまちづくりを推進

SDGsとは、Sustainable Development Goals の略であり、2015年（平成27年）9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会の共通目標です。だれ一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、2030年（令和12年）を年限とする17のゴールと169のターゲットから構成されています。

湖南市は、2020年（令和2年）7月にSDGs未来都市として内閣総理大臣から認定を受けており、SDGsの理念に基づき地域課題の解決につなげていきます。





2. 湖南市の現状

(1) 社会潮流

暮らし を取り巻く環境

■人口減少・少子高齢化の進行

- 出生率の低下と平均寿命の延伸により、人口減少・少子高齢化が加速しています。

■自然災害の激甚化・頻発化、防災・減災対策の推進

- 気候変動の影響により、豪雨や台風、洪水、土砂災害、地震などの自然災害がこれまで以上に激しく頻繁に発生しています。
- 防災・減災の取組が社会的に重要視され、排水対策の強化、施設の耐震化などが進められると共に、地域住民や事業者による自主的な防災・減災活動を促進する取組も拡大しています。

■脱炭素化の推進、環境配慮への投資拡大

- 2050年カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）や、脱炭素社会（温室効果ガスの排出を実質ゼロにする社会）の実現をめざすことが宣言され、脱炭素を通じて地域課題を解決し、地方創生に寄与する取組が広がっています。
- ESG投資（環境、社会、企業統治に配慮している企業に行う投資）が拡大しています。

■GXの推進

- 脱炭素社会の実現に向けた取組を通じて、経済や社会システムを変革するGX（グリーントランスマネーション）を推進しています。

■SDGsの推進

- SDGs（持続可能な開発目標）は、国際的な共通目標として、日本でも達成に向けた取組が進められています。
- 経済や社会、環境をめぐる幅広い課題への対応としてさまざまな主体の取組が求められています。

■こども施策の推進

- 全てのこどもや若者が幸せに暮らせるよう、こどもに関する取組や政策を日本の中心に据える社会をめざしています。

■感染症対策（新たな生活様式）の定着

- 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、感染リスク低減のため、リモートワークや非接触・非対面での医療相談・行政手続などが普及しています。

■DXの推進

- コロナ禍を契機としたデジタル技術の進展やポストコロナの時代における人間を中心の社会への機運の高まりを背景として、あらゆる分野でデジタル技術を活用し、地域や社会の課題を解決するDX（デジタルトランスマネーション）の推進が求められています。



2. 湖南省の現状

ひとを取り巻く環境

■多文化共生、多様な価値観の尊重

- グローバル化が進む現代において、多様性（ダイバーシティ）や性別の枠組みにとらわれない（ジェンダーレス）などの考え方が普及し、性別や年齢、国籍、文化などに関わりなく、多様性を尊重しながら個性や能力を十分に発揮することができる社会の構築が求められています。

■Well-being の推進

- 社会的、経済的、環境的に個人の権利や自己実現が保障され、良好な状態にあることを指す Well-being の考え方が普及しています。
- 働き方改革やコロナ禍でライフスタイルの多様化が進み、家庭や職場・学校などとは違う、リラックスできて心地のよい第3の居場所サードプレイスの重要性が高まっています。

自治を取り巻く環境

■地方創生の視点でのまちづくり

- 地方から都市部への人口一極集中を是正するため、地方自治体が主体となり、それぞれの課題を解決しながら、地域独自の魅力を生かし、地方の活性化と持続可能なまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■市民と行政の協働によるまちづくり

- 人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域課題は多様化し、行政だけではきめ細かく対応することが困難になってきています。市民と行政が共に助け合い一体となってまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■民間資本・ノウハウの導入

- 多くの地方自治体では、厳しい財政状況や人口減少、公共施設の老朽化などの問題に直面しており、民間資本やノウハウを取り入れて魅力向上を図りながら公共施設の管理運営を継続していく官民連携事業が全国で検討・実施されています。

■5G社会における情報通信技術の有効活用

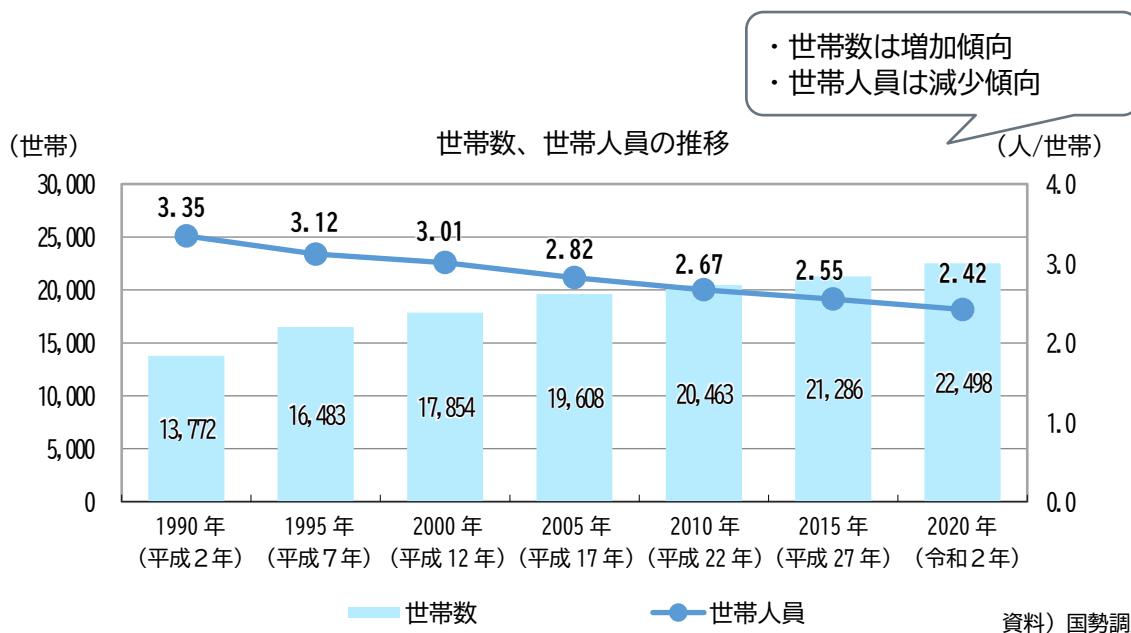
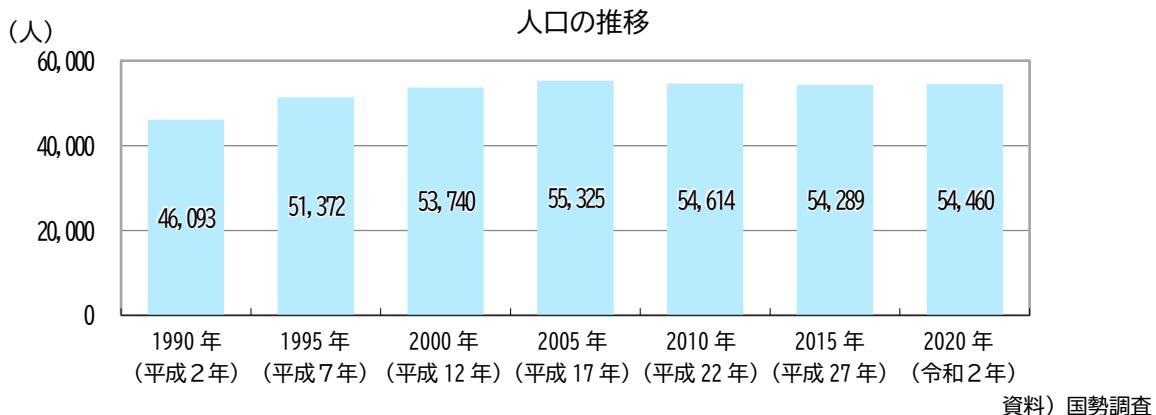
- 第5世代通信（5G）の普及と共に、AI、モノのインターネット（IoT）などの最新のデジタル技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、課題の解決を図りながら、生活の質の向上を図るスマートシティの取組が進められています。



(2) 統計からみる湖南市の現状

①人口の状況

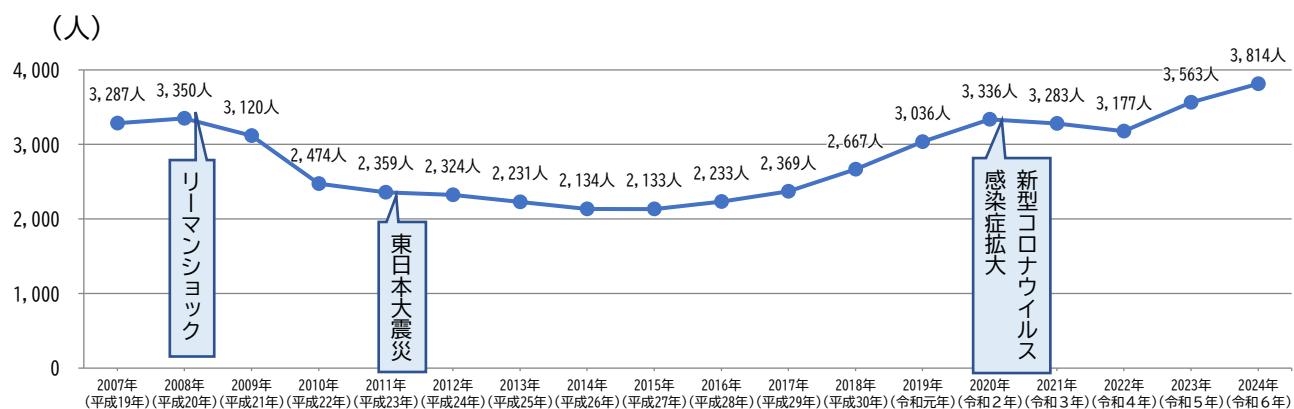
■総人口・世帯数の推移





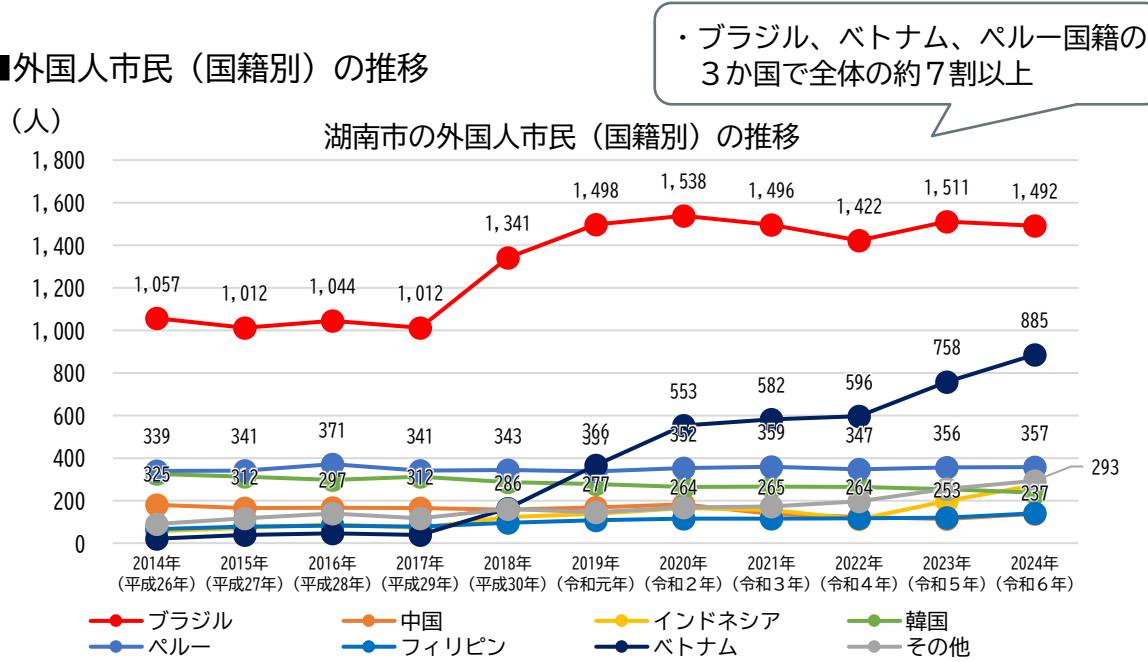
2. 湖南省の現状

■外国人市民（総数）の推移



資料) 住民基本台帳

■外国人市民（国籍別）の推移



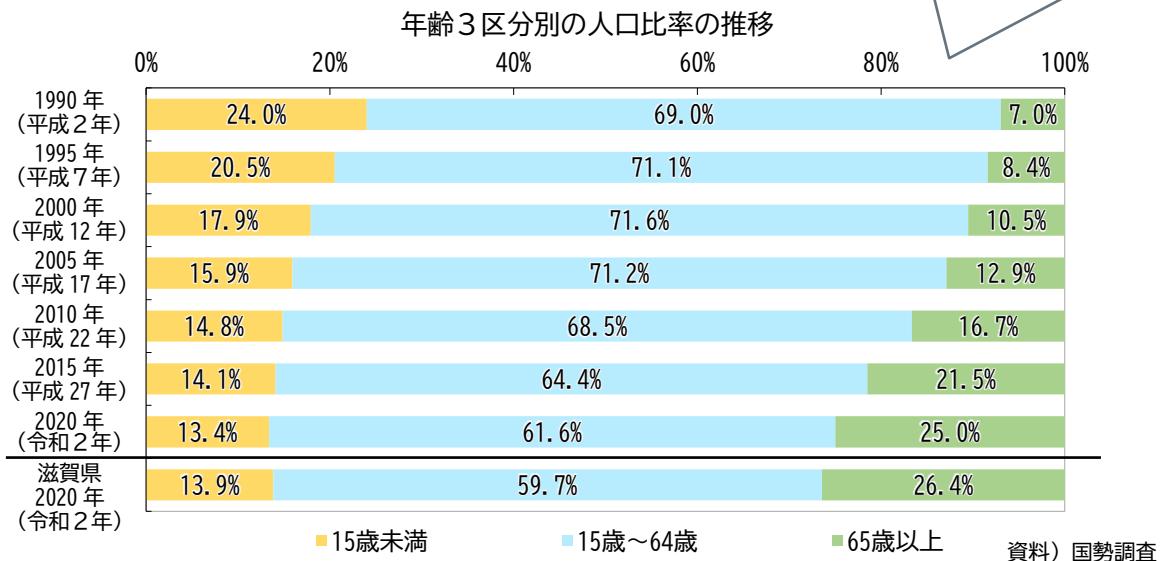
※200人未満は数値を非表示
資料) 住民基本台帳



2. 湖南市の現状

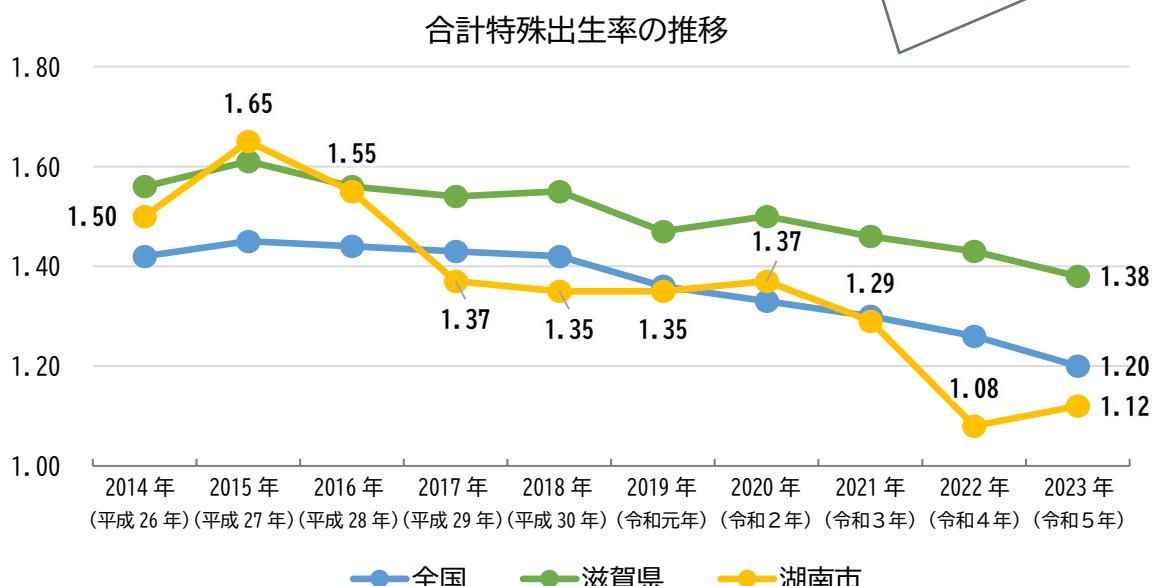
■年齢3区分別人口比率の推移

- ・年少人口（15歳未満）・生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向
- ・老人人口（65歳以上）は増加傾向



■合計特殊出生率の推移

- ・合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が生涯に産む子どもの平均人數を推計した指標



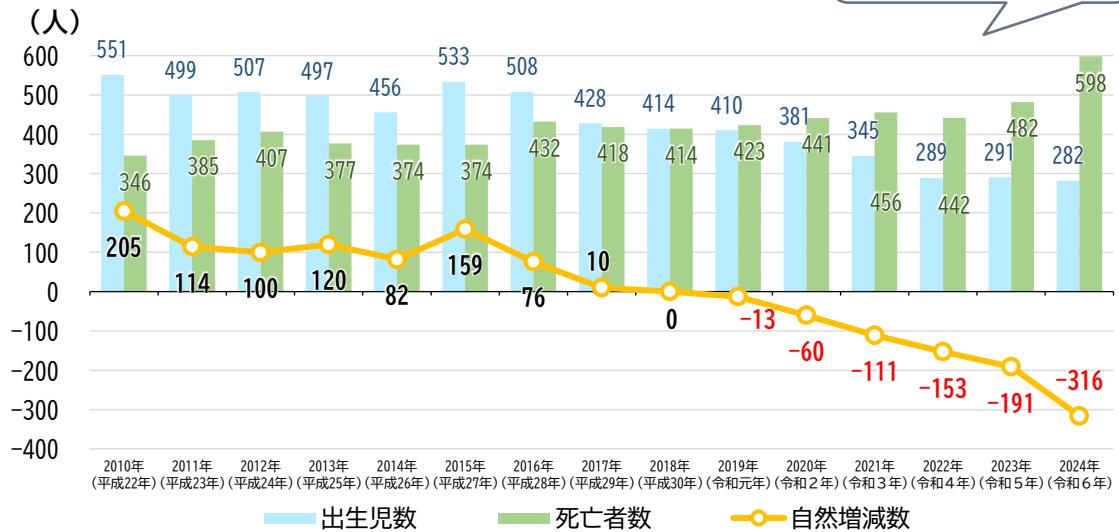


2. 湖南省の現状

■自然動態（出生・死亡）の推移

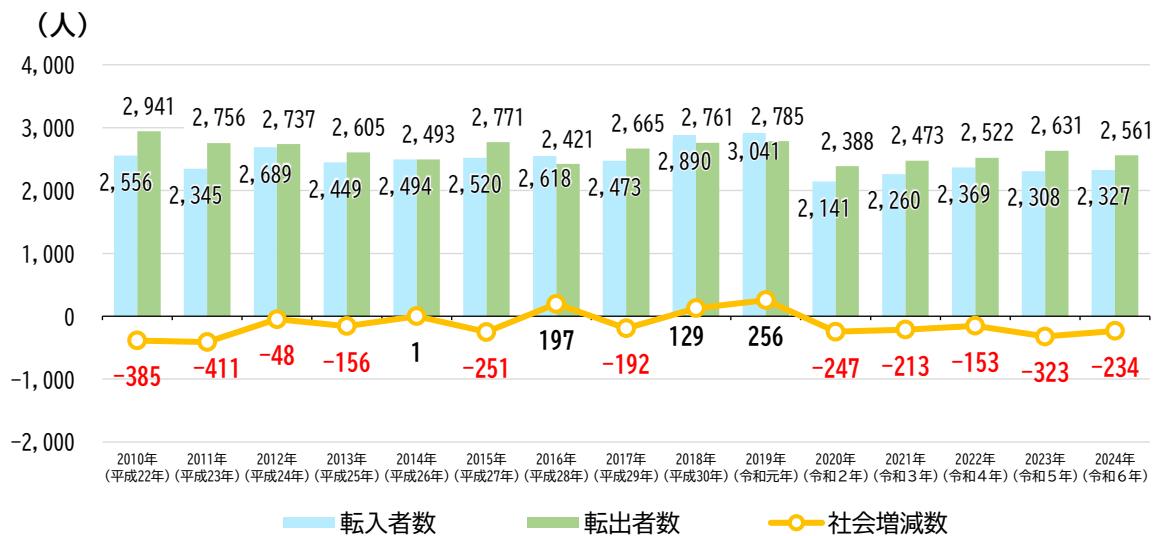
人口の自然増減数の推移

・2019年（令和元年）
以降は自然減



■社会動態（転入・転出）の推移

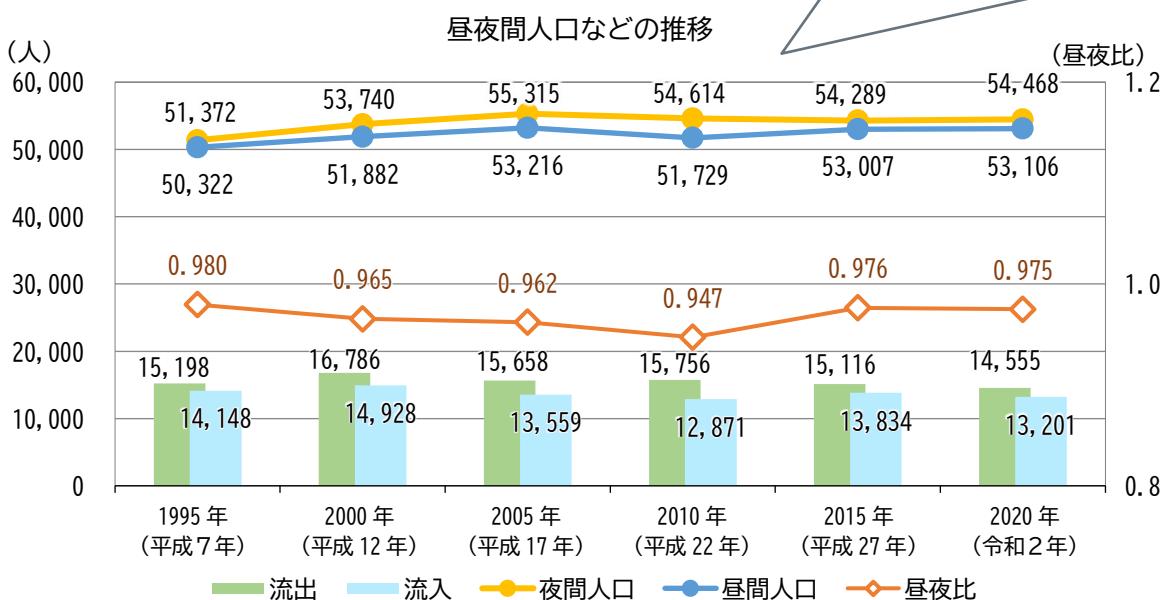
人口の社会増減数の推移





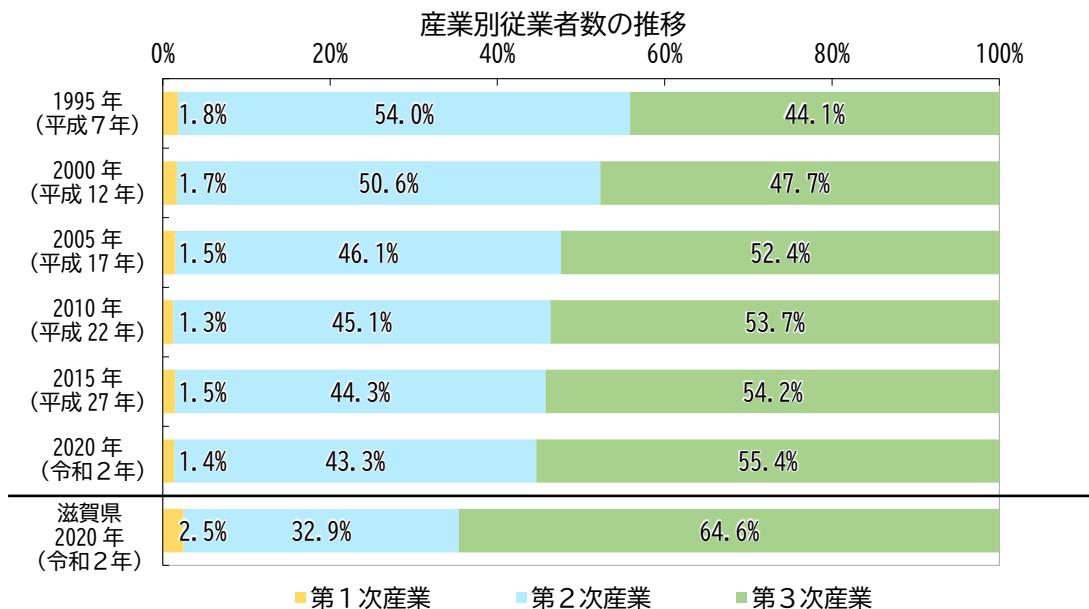
■昼夜間人口比率

- ・昼間人口は、その地域に住んでいる夜間人口に、通勤や通学などでその地域に来る人口を足し、出ていく人口を引いたもの。
- ・夜間人口は、夜間にその地域に住んでいる住民の数。



資料) 国勢調査

■産業別従業者数



資料) 国勢調査

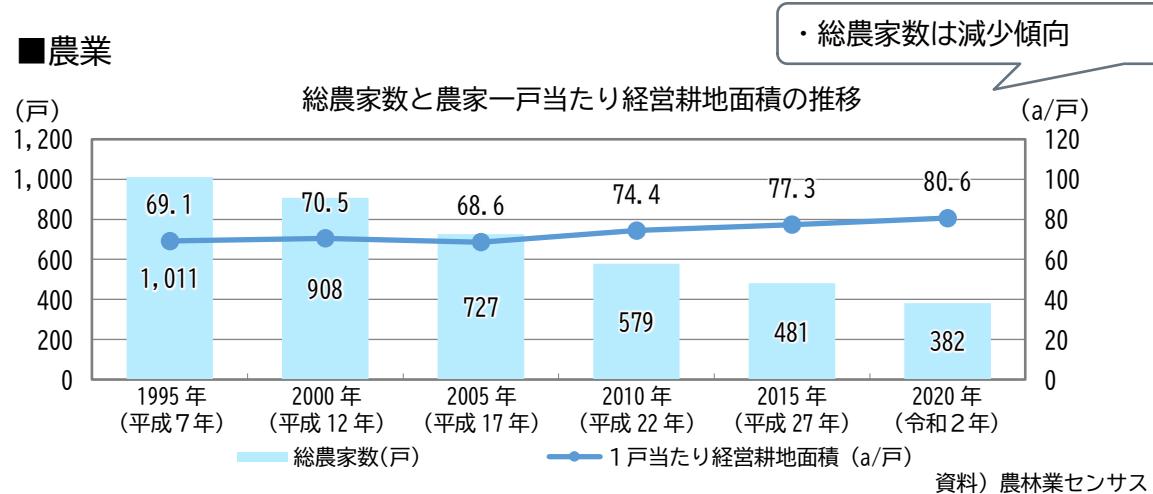
- ・少子化により、湖南省の人口は2005年（平成17年）をピークに減少傾向であり、人口が減る中でも高齢者世帯の増加が進むことで世帯数は増加傾向です。
- ・湖南省は、外国人労働者の流入による影響緩和の要素もありますが、人口減少は働き手の不足につながり、世帯数が減少を迎えると消費の減少にも直結します。住宅需要など、地域経済への影響に備えることが必要です。
- ・従業者数の割合は、第1次・第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向です。
- ・生産年齢人口の減少により、後継者不足の課題に直面する中小企業などの増加が想定されます。多様な人財や若者、女性が活躍する魅力的な働く場や人づくりが必要です。



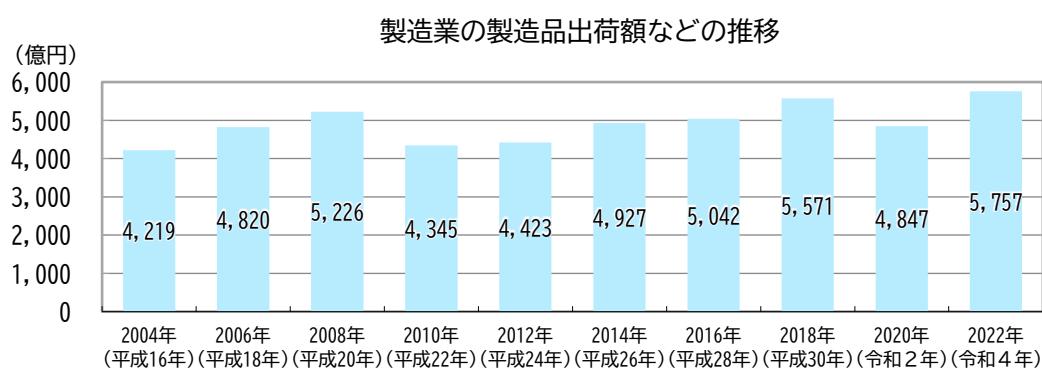
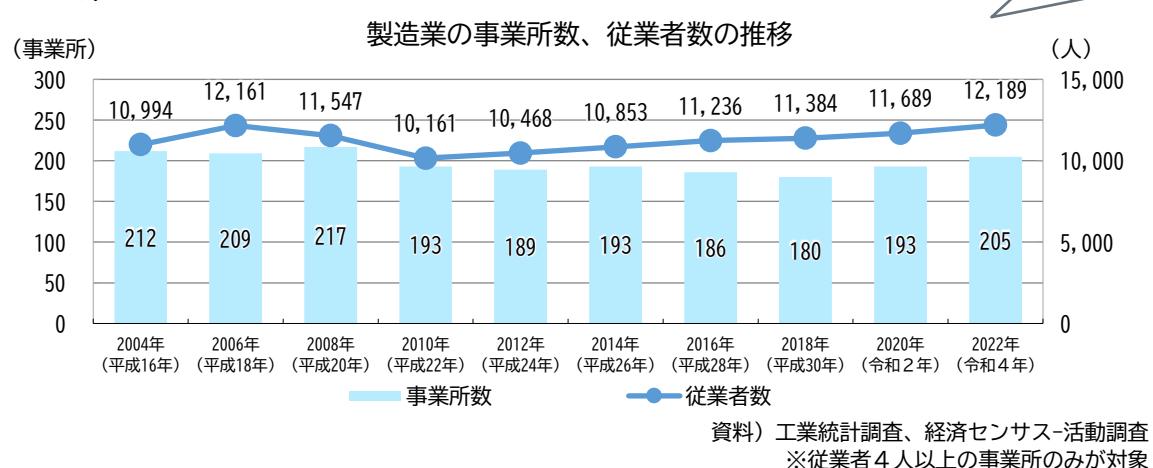
2. 湖南省の現状

②産業の状況

■農業



■工業



資料) 工業統計調査、経済センサス-活動調査
※従業者4人以上の事業所のみが対象



■商業

卸売業・小売業の事業所数、従業者数の推移

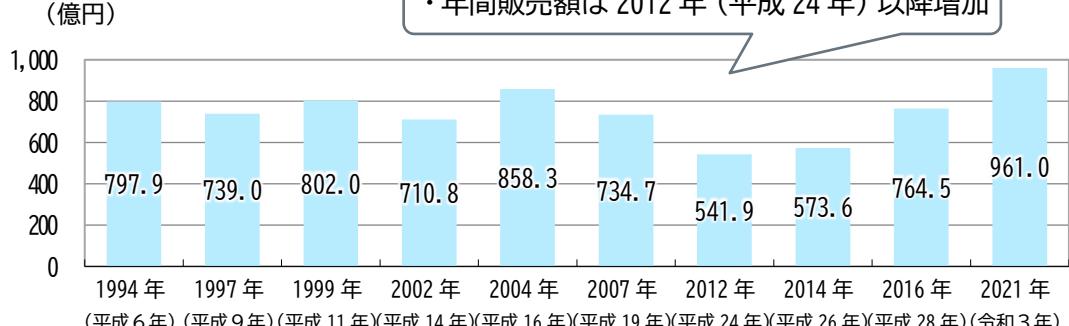
・従業者数は2014年(平成26年)以降回復傾向



資料) 商業統計調査、経済センサス-活動調査

卸売業・小売業の年間販売額の推移

・年間販売額は2012年(平成24年)以降増加

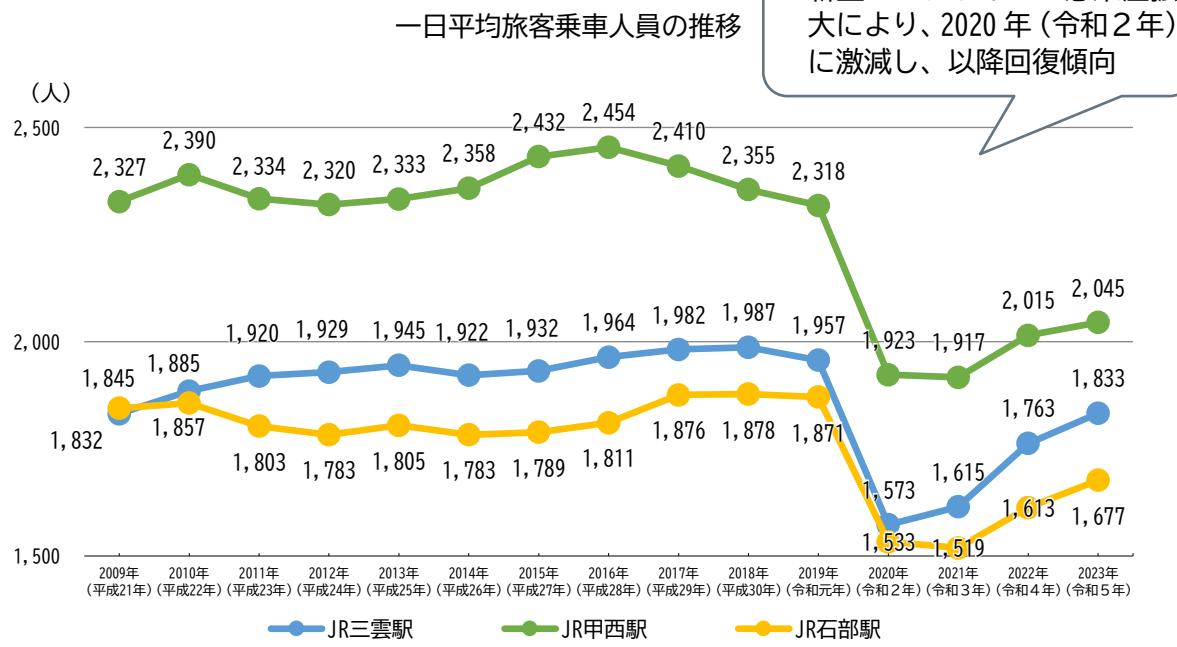


資料) 商業統計調査、経済センサス-活動調査



2. 湖南市の現状

■公共交通



資料) 滋賀県統計書

- ・工業における製造業の従業者数や商業における卸売業・小売業の従業者数は増加傾向です。
- ・デジタルや省エネ・再エネ（太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスなど、枯渇することなく永続的に利用することができるエネルギー）、インバウンド需要（日本を訪れる外国人観光客による商品やサービスへの需要）などの成長が見込まれる分野を視野に入れた地域産業の振興や、これまで湖南市のものづくり産業を支えてきた経営者や職人などの人財に重きを置き、生産性向上や技術継承など、持続可能な産業基盤の強化が必要です。
- ・コミュニティバスや路線バスなど、暮らしを支える地域公共交通の利便性向上に向け、草津線の増便や企業・市民の利用増進のための施策を市全体で協働しながら着実に実行していくことが重要です。



(3) 市民ニーズ

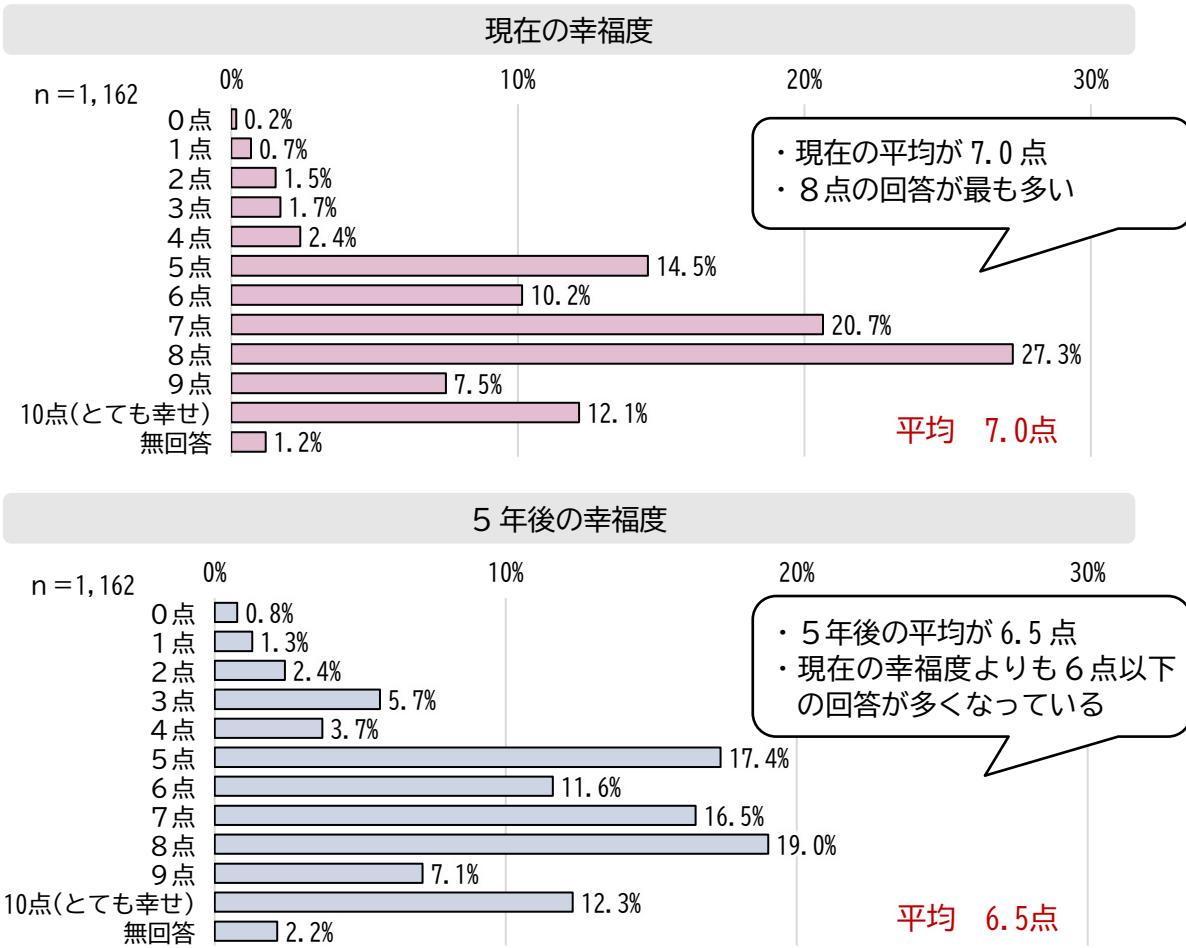
①市民意向調査

■調査概要

調査概要	アンケート調査の対象者		
	一般	高校生	中学生
実施期間	2024年（令和6年） 9月9日～9月30日	2024年（令和6年） 10月～11月に実施	
調査方法	発送は郵送、 回答は郵送およびWEB		WEB
配布数	4,000件	330人	965人
有効回答数	1,162人（うちWEBは178人）	303人	812人
回収率	29.0%	91.8%	84.1%

■あなたの幸福度

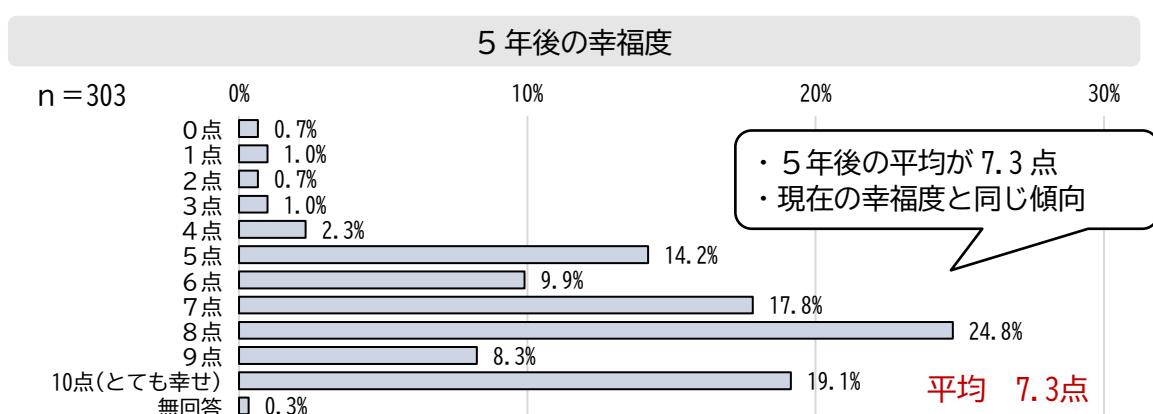
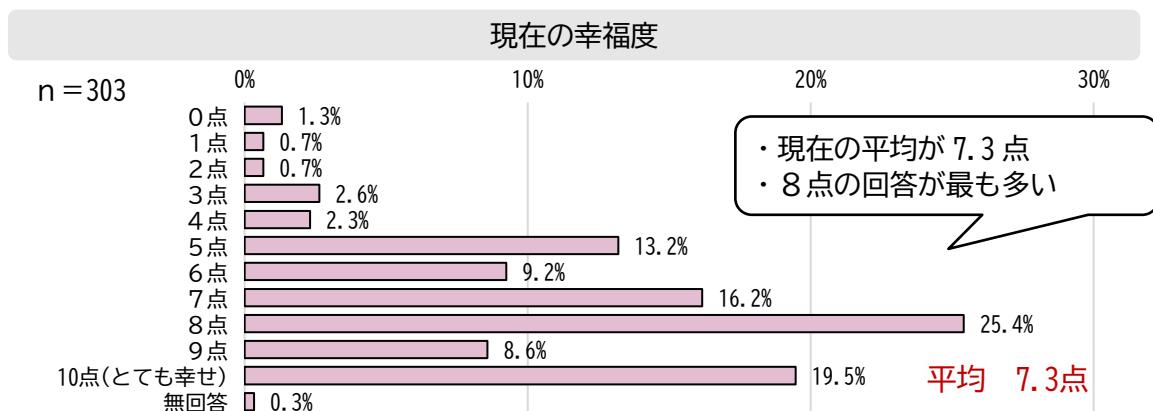
【一般】



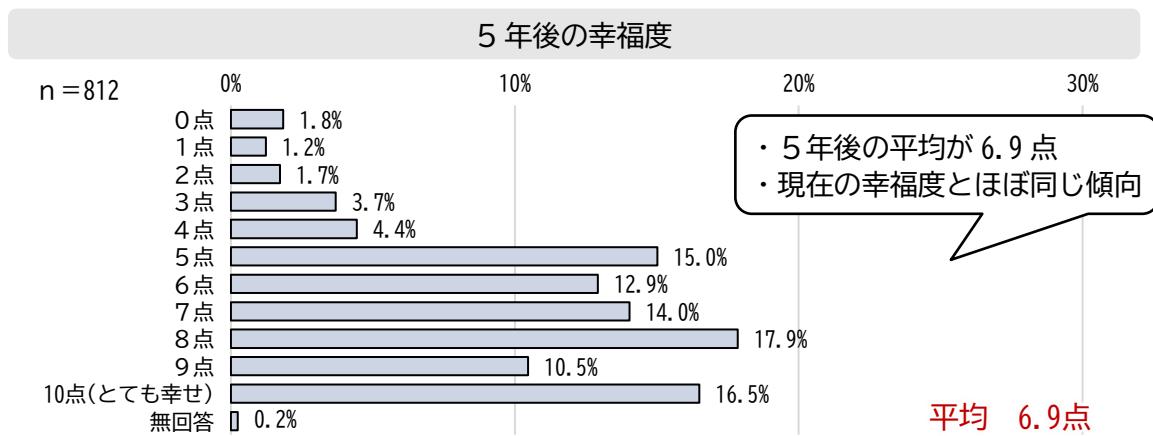
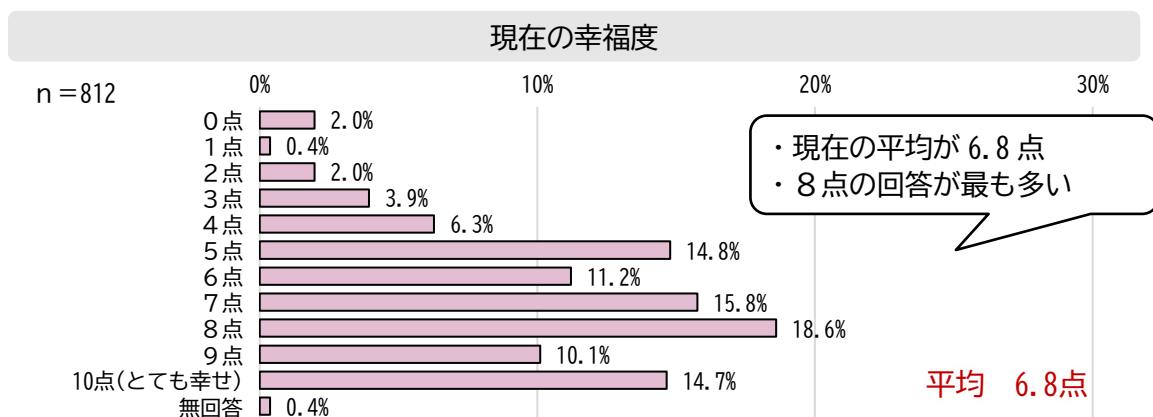


2. 湖南省の現状

【高校生】



【中学生】

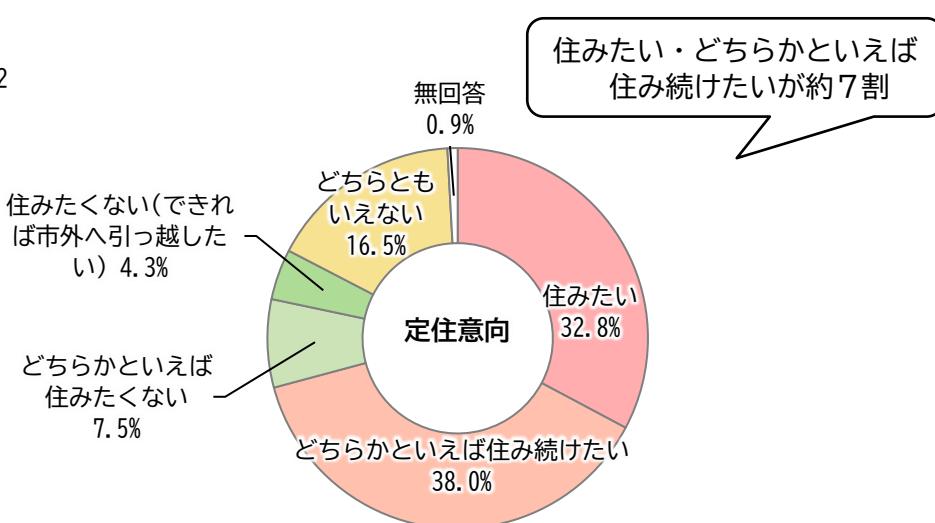




■湖南市への定住意向

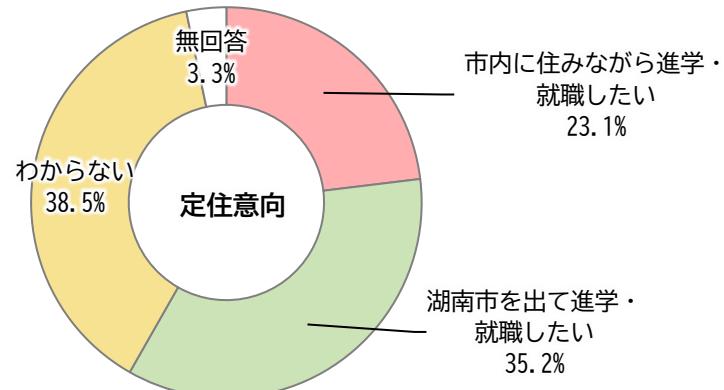
【一般】

n=1,162



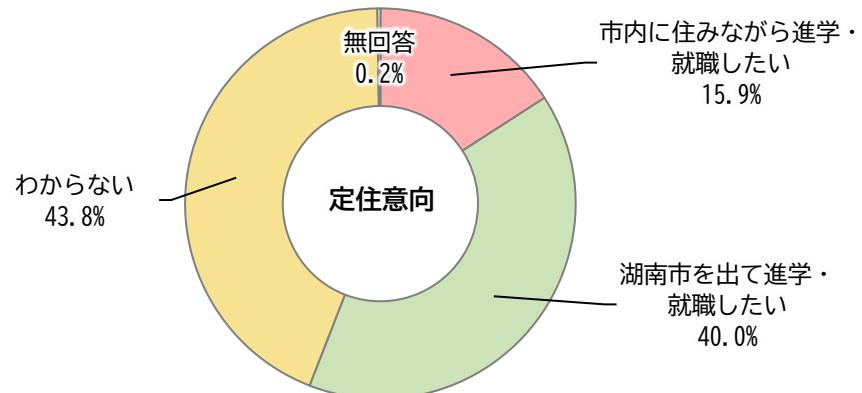
【高校生】

n=91



【中学生】

n=812



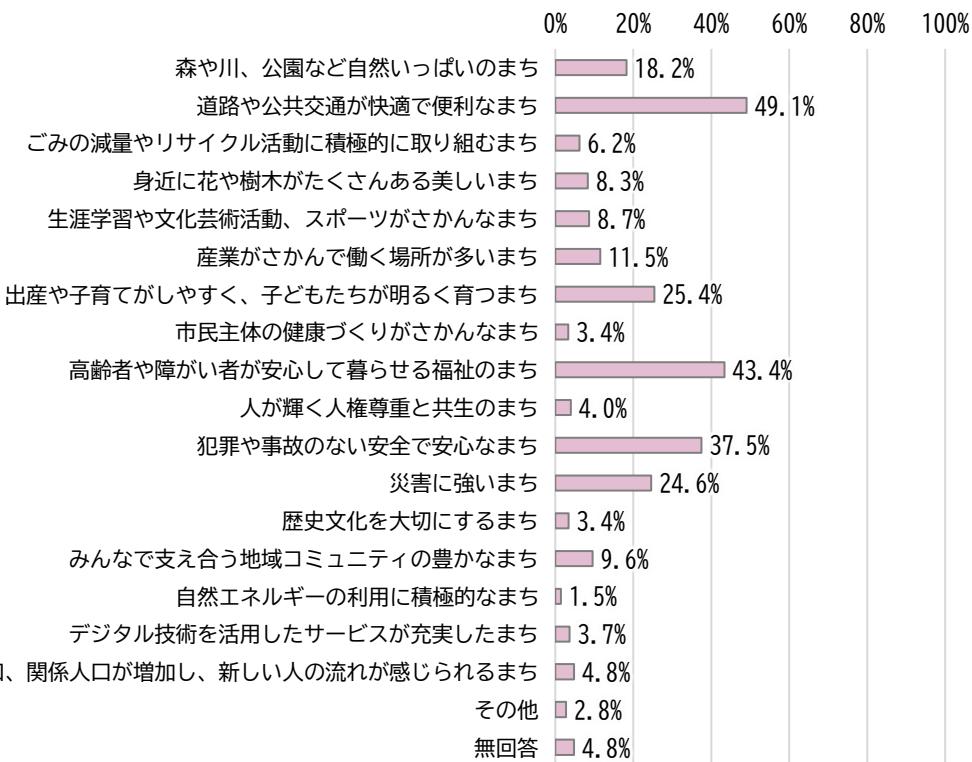


2. 湖南省の現状

■みんなが住み続けたい湖南省のまちのイメージ

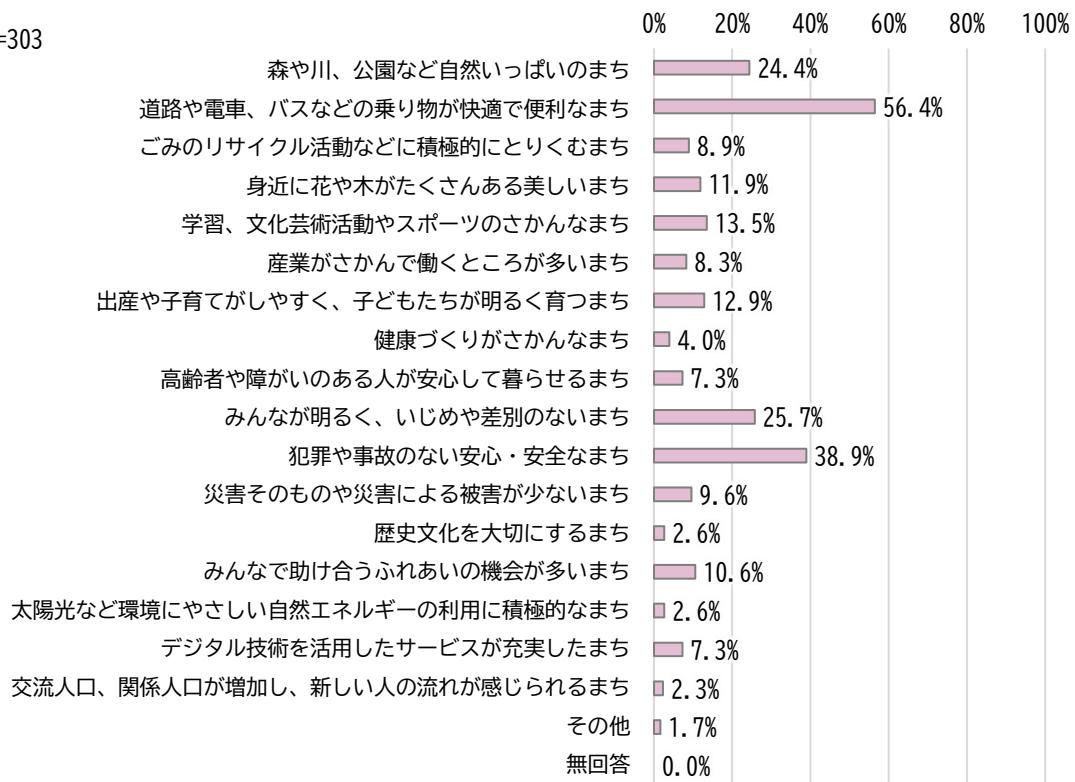
【一般】

n=1,162



【高校生】

n=303





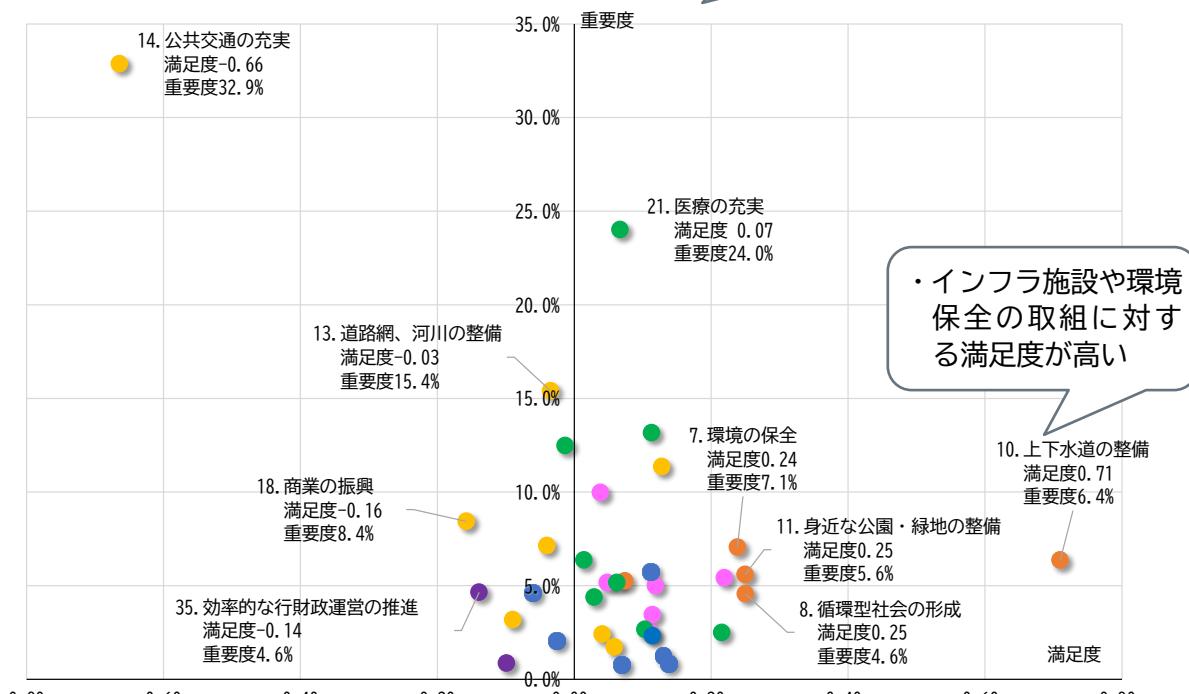
【中学生】

n=812



■湖南省の取組について 【一般のみ】

・公共交通やインフラ施設、医療の充実、
ライフライン関係を重要視している



・インフラ施設や環境
保全の取組に対する
満足度が高い

・特に、公共交通を充実させ、快適性・利便性の向上を図ることや、医療を充実させ、
高齢者などが安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが求められています。



2. 湖南市の現状

②市民ワークショップ

■実施概要

公募などにより参加者を募集し、21人の市民と7人の市内中学生が、テーマ別に6つのグループに分かれ、全4回のワークショップで話し合いました。

グループ テーマ	①市民主体のまちづくり ②身近な公園・緑地の整備・保全 ③公共交通の充実	④障がいのある人、高齢者、子どもの自立支援 ⑤若者の社会参画、社会教育の推進、一人ひとりが活躍できるまち（場づくり） ⑥特色のあるふるさとづくり
回数 開催日	第1回 2024年（令和6年） 12月15日	第2回 2025年（令和7年） 1月19日
主な 検討内容	湖南市の魅力や改善点、取り上げたいテーマ	テーマに沿った重要な取組や方向性
	第3回 2025年（令和7年） 2月16日	重要な取組や方向性に沿った企画アイデア
	第4回 2025年（令和7年） 3月16日	みんなでつくる将来のまちの姿

■市民の意見、アイデア

湖南市の良いところ

地域でまちづくり活動をしている
自然が豊か
公園が多い
歴史がある
色んな人がいて差別がない
高齢者福祉に力を入れている
障がいのある人が尊重されている
鉄道駅が3つある
エネルギーの取組が進んでいる
車での移動がしやすい

湖南市の課題

地域活動の担い手不足
交流・ふれあいの場が少ない
公園管理の負担が増加
バスの運営状況が厳しい
近所とのつながりが希薄
歴史的資源が活用しきれていない
若者の湖南市離れ
知名度が低い
独居高齢者が増えている
特徴的なものがない
困り事の相談先がわからない
施策の認知不足
社会の変化への対応が十分ではない



課題の解決策や方向性・具体的な企画案

次世代の担い手も参加したくなる自治会づくり

世代を超えた交流・ふれあいの機会創出

官民連携で困り事に対応する仕組みづくり

総合相談窓口の設置

自治会の重要性を伝える

今ある施設を活用した全天候型遊び場、多目的な公園の整備

オープンスペースの配置

悩みを話せる機会づくり

公園管理の効率化

河川空間の活用

移動しやすい環境づくり

新たな交通手段の導入

地域資源を活用した魅力づくり

利用実態に応じたバスの運用

地産地消のNEWソウルフードづくり





■グループごとに検討した、みんなでつくる将来のまちの姿

グループテーマ	みんなでつくる将来のまちの姿	
	5年後のめざす姿	10年後の希望
① 市民主体の まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 40~50歳代が地域の中で活躍し、若者が楽しめる地域行事やイベントが充実し、多世代のふれあいの機会が増え、気軽に自分の意見を言える風通しの良い自治会になる 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 40~50歳代が中心となって、小学生・中学生・高校生に地域コミュニティ活動を楽しみながら経験する機会をつくる ▶ 全世代が地域で活躍できる機会・場がある活発なまち・地域になる
② 身近な公園・緑地 の整備・保全	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子育て世帯が住みやすいまちになり、定住者が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域ふれあい公園を大きさや機能、管理体制に応じて分類・整理し管理を効率化する ▶ 利用状況を調べ、利用が少ない公園など不要な公園は統合するなど検討する ▶ 小さい公園は、地元自治会で管理する ▶ 利用状況や管理状況がだれでもわかるように公園管理アプリを導入して効率化する
③ 公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公共交通を利用して通勤・通学や観光ができる ▶ 高齢者は移動販売や送迎サービスを利用しながら日常生活を送ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市内3駅を中心としたコンパクトなまちづくり(駅周辺に企業誘致、居住地開発、既存の商店街活性化など)に取り組む ▶ 既存の商業施設、職場、居住地をつなぐ交通ネットワークを整備する(コミュニティバスの見直し(料金やルートなど)、ライドシェア(一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶサービス)・乗り合いタクシーの導入、国道1号の拡幅など) ▶ 適正な規模でこどもたちの学校などを再配置する
④ 障がいのある人、 高齢者、こどもの 自立支援	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SNSで住みやすい湖南市の口コミが広がり、困ったときに相談できる心強さや定住のしやすさで選ばれ、人口が増え続けている 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ だれもが夢を持てる湖南市(人の力を生かす(窓口の充実)、だれもが社会に参加できる)にする
⑤ 若者の社会参画、 社会教育の推進、 一人ひとりが活躍 できるまち(場づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 引っ越してきた世帯が地域コミュニティに馴染み、親世代が地域見守り活動への参加や相談を受ける側になり、成長したこども世代が湖南市に居住し続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小規模多機能自治(中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制)の取組と連携する ▶ やさしいまち(安心できるまち、ニコニコできるまち、福祉のまち、一人ひとり違う人に寄り添うまち、受け止められるまち、一人ひとりが輝いているまち)にする
⑥ 特色のある ふるさとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新たなソウルフードのアイデアを出した学生が市内でお店を構え、製作に協力した企業の知名度が向上し、地域の活性化につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 若者が湖南市に詳しくなって外に発信する ▶ 若者から情報を他の世代に伝えていく仕組みができる

第2部 基本構想

1.

まちづくりの 理念と将来像



まちの将来像

湖南市が掲げるまちの将来像「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向けて、本計画に定める政策を実施することによって、10年後に到達しているまちの姿をここに描きます。

市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたくなるまちをめざし、湖南市の将来像（10年後）を、以下のように定めます。

まちの将来像

ずっとここに暮らしたい！
みんなで創ろう
笑顔つなぐ・つながる湖南

KGI

(重要目標達成指標)

10年後の目標

住民幸福度 7.2点
(基準値^{*} 7.0点)

*基準値は市民意向調査における住民幸福度

湖南市市民憲章 まちづくりの5つの理念

- ◆ 美しい水と緑を大切にし、自然と調和したまちをつくります。
- ◆ たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくります。
- ◆ 子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくります。
- ◆ ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくります。
- ◆ 社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくります。

文化・芸術やスポーツなどさまざまなアクティビティを通じて仲間が集まり、読書や散歩など自由に時間を過ごせる多目的な空間がある



若者からシニアまで全世代が地域コミュニティで活躍できる機会・場があり、地域住民の交流が活発で地域づくりが継承されている



多様な背景を持っている市民みんながそれぞれの立場で社会に参加でき、だれもが気軽に相談できる窓口がある



利用しやすく人が集い憩う快適な大規模公園、プロムナード、地域住民が使いやすく管理しやすい身近な公園が適切に配置されている



若者からシニアまで全世代が地域コミュニティで活躍できる機会・場があり、地域住民の交流が活発で地域づくりが継承されている



3駅を中心としたコンパクトな市街地が形成され、鉄道、バス、自家用車の連携による交通ネットワークが確立している



1.

まちづくりの 理念と将来像



湖南市って、こんなまち —湖南市の特徴—

湖南市は自然環境（野洲川、国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」など）、歴史文化遺産（「湖南三山」など）が豊富なまちで、交通ネットワーク、工業団地の整備により発展してきました。外国人の居住割合は県内で最も高く、多様な文化が育まれています。また、湖南市は災害が比較的少ないため、安心して暮らすことができます。

自然豊かな広域交流のまち

南北に阿星山系と岩根山系、中央には琵琶湖に注ぐ県内最長河川の野洲川、美しい田園風景が広がる自然豊かなまち。大阪、名古屋から100km圏内にあり、国道1号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王IC、国道8号にもアクセスが良い広域交流拠点のまち。



歴史・伝統文化が豊かなまち

東海道石部宿、湖南三山など有形の歴史文化遺産、滋賀の伝統工芸品にもなっている近江下田焼、酒蔵などがある伝統文化のまち。



ものづくり（工業）のまち

県内最大級の湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地があるものづくりのまち。



多文化共生のまち

外国人の居住割合が県内1位の多文化共生のまち。



障がいのある人と共に歩む福祉のまち

「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園があり、全国に先駆けて構築した発達支援システムを持つ福祉のまち。



脱炭素に取り組むまち

「SDGs未来都市」「脱炭素先行地域」に選定され、自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を中心に先行的な脱炭素政策に取り組むまち。



市民が自分たちでつくるまち

市内に7箇所の地域まちづくり協議会があり、自分たちのまちは自分たちでつくる基本理念に基づく活動を行うまち。



まちづくりの目標・めざすまちの方向性・ 重要な政策テーマ

まちづくりの目標

みんなで共に進める
仕組みをつくろう
～小規模多機能自治の
まちづくり～

うるおいのある
まちをつくろう
～自然を生かし、自然と
共生するまちづくり～

活気あるまちを
つくろう
～人と産業が集い、公共交通
でつながるまちづくり～

めざすまちの方向性

- ・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち

- ・先行的な政策で脱炭素に取り組むまち

- ・公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち

- ・多様な人、だれもが参加できるまち

- ・身近に緑とふれあえるまち

- ・企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち

- ・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

⋮

⋮

⋮

重要な政策テーマ

湖南市版
小規模多機能自治

こなんS D G s
未来都市の実現・
脱炭素化

公共交通

多文化共生

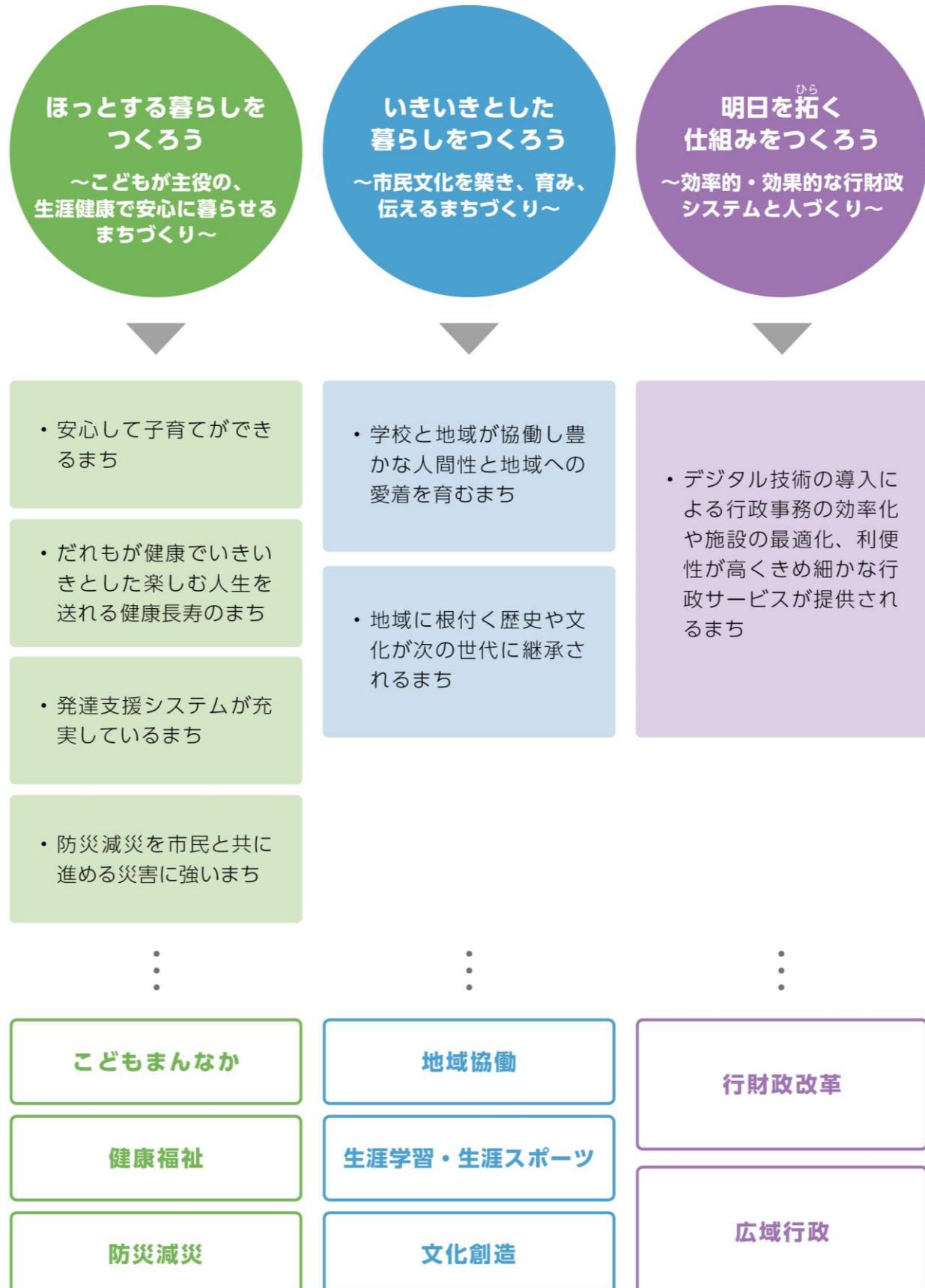
都市計画

人財育成

企業誘致

公園活性化

産学官連携



まちづくりの 目標



2.

まちづくりの目標1

みんなで共に 進める仕組みをつくろう

～小規模多機能自治のまちづくり～

少子高齢化と人口減少が加速する中で、ライフスタイルや働き方など、私たちの価値観はますます多様化しています。こうした時代背景を踏まえ、地域特性と国際的な視座を融合させた地域づくりが、今まさに求められています。また、人権の尊重を基盤とし、多様な人々が互いの存在を認め合い、支えあいながら共に生きるという考え方は、まちづくりの大切な理念です。

湖南市は、20～30歳代の若年層が多く、さらに4,000人を超える外国人市民が居住しています。これまで、地域まちづくり協議会による地域住民主体のまちづくり活動や湖南市版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を展開してきました。

社会環境の変化により、人々のつながりが希薄になりがちな中でも、湖南市では若者が積極的にまちづくり活動に参加しています。彼らは将来のまちについて活発な意見交換を行い、地域に新しい活気をもたらしています。

湖南市では、市民の皆さんのが互いに協力し、地域の美化や困っている人への支援に積極的に取り組んでおり、一人ひとりが助け合いの心を大切にする姿勢は、湖南市ならではのまちづくりを支える大きな強みとなっています。

市民と行政が協力してまちづくりを進めるには、仕組みをつくるだけでなく、人と人とのつながりや話し合いを大切にすることが重要です。

夢ある未来へ！地域で支えあい、だれもが笑顔で暮らせる社会を実現するため、この先10年間で小規模多機能自治を進め、地域防災や地域福祉の強化など、重要な政策に地域と共に取り組んでいきます。

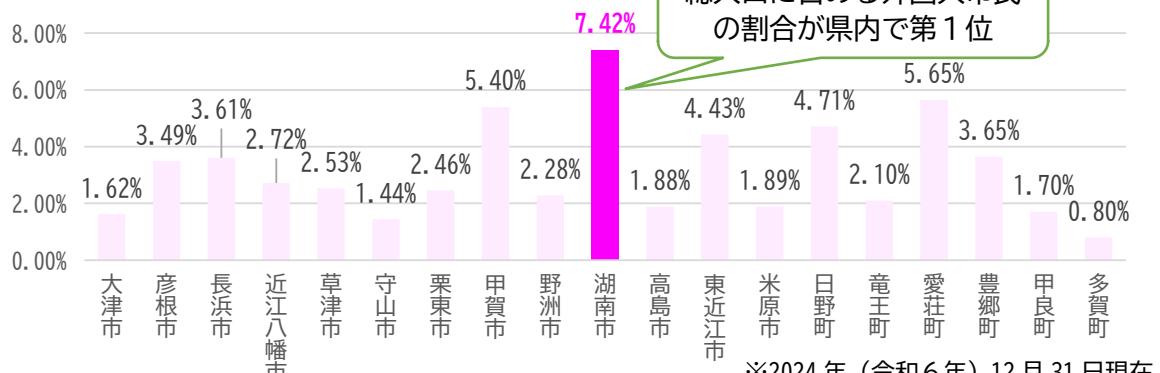
特に重視する政策として、①湖南市版小規模多機能自治、②多文化共生、③人財育成の3つを重要な政策テーマに据え、「オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち」「多様な人、だれもが参画できるまち」「若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

- ・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち
- ・多様な人、だれもが参画できるまち
- ・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

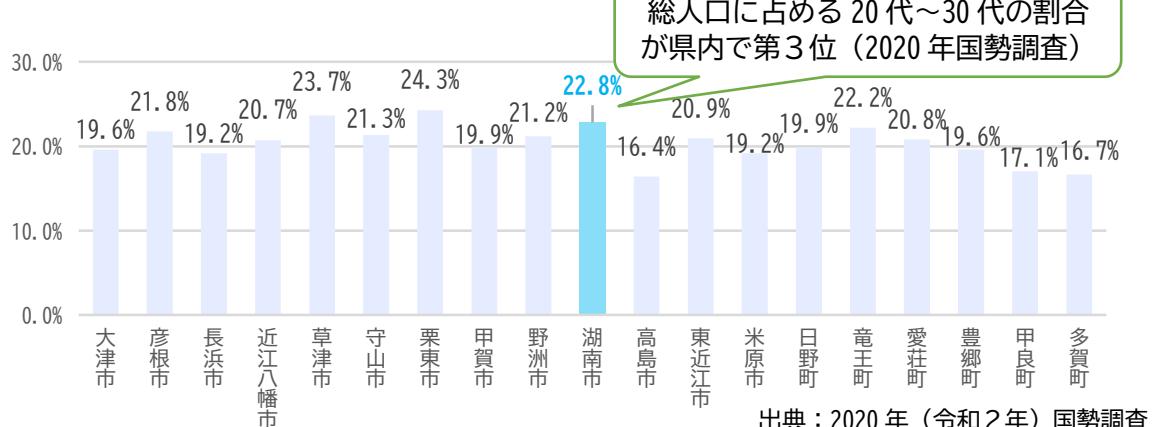
■市町別外国人人口の割合



総人口に占める外国人市民
の割合が県内で第1位

※2024年（令和6年）12月31日現在
出典：各市町住民基本台帳

■市町別若者（20～30代）人口の割合

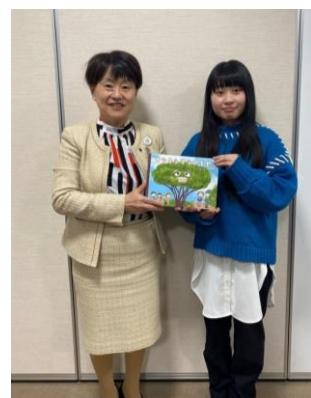


総人口に占める20代～30代の割合
が県内で第3位（2020年国勢調査）

出典：2020年（令和2年）国勢調査



市民ワークショップで
企画を話し合う中学生



ウツクシマツ絵本を制作したこな
んSDGsカレッジグローカリスト（右）



2. まちづくりの目標

●重要な政策テーマ

政策テーマ 1-1：湖南市版小規模多機能自治

◆湖南市版小規模多機能自治の推進

湖南市では、自分たちのまちは自分たちでつくることを基本理念とした地域まちづくり協議会が主体となり、地域課題を自ら解決し、地域で支えあう仕組みを構築しています。行政は、市内4箇所の中学校区を生活圏域としてその取組をサポートする体制や連携の形を確立するため湖南市版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を推進します。

◆地域防災の推進

社会資本（上下水道、橋、庁舎をはじめとする公共施設など）の耐震化による防災力向上に加え、地域住民のコミュニティ力（自助、共助）の強化による地域防災力の向上をめざします。

向こう三軒両隣のコミュニケーション力の強化をはじめ、区・自治会で構成するふるさと防災チームの充実、4箇所の中学校区単位での広域防災手法の創出、消防団や防災士連絡会による専門部隊の体系化、消防署や災害対策本部、地区連絡所といった行政機能との連携強化に努め、市民全体で防災減災を実現できるよう推進します。



石部南学区まちづくり協議会
防災避難訓練



石部学区まちづくり協議会
まもりんピック



◆地域福祉の推進

地域には、さまざまな理由で生活に困っているかたがいます。少子高齢化や核家族化の進展により、人とのつながりが希薄になり、社会的孤立や生活困窮、ひきこもり、虐待、ヤングケアラーといった福祉課題が複雑化しています。

湖南市では4箇所の中学校区ごとに高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターおよび出産・子育てに関する総合相談窓口である子ども家庭総合センターを設置しており、住民に寄り添い身近な相談ができる体制づくりを進めています。

民生委員・児童委員や地域支えあい推進員、事業者が連携し、相談・サポート体制を構築するなど、困り事や悩み事を抱え込み、問題が深刻化する前に、身近に気軽に相談することができる安心な地域社会を形成します。

政策テーマ1-2：多文化共生

◆外国人市民の地域定着

湖南市の特徴の一つとして、多くの外国人市民が暮らしていることが挙げられます。さまざまなルーツがある外国人市民は、湖南市の経済・社会活動を担う地域社会の一員です。2027年（令和9年）6月までに施行される育成就労制度は、外国人市民が将来にわたって我が国に定住することが見込まれる制度です。受入れを行う事業者による新たな制度への適応が円滑になされ、人手不足の解消につながることが期待されます。

外国人市民にとっても暮らしやすく、活躍しやすい地域社会を形成するため、相互理解を深める異文化コミュニケーションなど湖南市がこれまで培ってきた多文化共生の取組を継続し、関係団体と連携しながら事業者や地域団体による外国人市民が地域社会に馴染みやすいよう支援する積極的な取組を促進し、行政サービスなど有益な情報が円滑に届くようにします。



湖南市立水戸小学校の日本語初期指導教室のさくら教室



2. まちづくりの目標

◆生活支援の充実

日本人にとっては、ありふれた日常のサービスや情報であっても、外国人市民にとっては、言葉の壁などによって不便を強いられる場合があります。

湖南市からの行政情報の提供や窓口サービスなどにおいて外国語対応を充実させ、特に防災に関する情報は外国人市民にも正確、迅速に伝わるよう対応するなど、外国人市民が安心・快適に暮らせる地域社会を形成します。

また、日本語初期指導が必要な児童・生徒およびその保護者に対し、やさしい日本語からの学びの環境を整え、生活支援の充実に取り組みます。



多言語での窓口対応

政策テーマ1-3：人財育成

◆地域まちづくりの担い手の確保

地域住民の高齢化が進み、地域づくり活動の担い手が不足しています。また、コロナ禍の影響で地域の交流の機会が失われ、それらの活動の企画力や運営ノウハウも徐々に失われていくことが懸念されます。

NPO（まちづくりなどさまざまな分野で活動する民間非営利組織）などの中間支援組織と連携し、運営ノウハウに関する情報提供など人財育成（人を財産と捉え、社会の成長や発展に貢献するためになくてはならない能力や資質を磨いて育てるここと）に取り組みます。

また、学生など若者が地域づくりの活動に参画し、活躍できる機会が生まれるよう地域と若者がつながる場を設けるように取り組みます。

◆多様な市民が参画する仕組みづくり

湖南市では、これまで湖南市が開催する各種会議などに市民の参画を得てまちづくりを進めてきました。

人財登録制度の運用を通して、若者や外国人市民、企業などの活躍の場を広げ、そのノウハウをワークショップなどを通じてまちづくりに生かすことで、持続可能な地域社会を市民自らつくり上げるまちづくりを進めます。



地域と若者が一体となり湖南市の未来を考える湖南市地域まちづくりフォーラム

まちづくりの目標



2.

まちづくりの目標2

うるおいのあるまち をつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

地球温暖化は、今や全人類が直面している重要な課題です。近年では豪雨被害の頻発化や激甚化など、私たちの日常生活にその影響が現れています。

湖南市では、官民連携により自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を設立し、小売電力事業の収益をまちづくり事業などに活用してきました。また、経済・社会・環境の三側面を統合的に進める地域循環共生圏の実現をめざした取組が高く評価され、「SDGs未来都市」に選定されています。さらに、太陽光発電を活用したエネルギーの一括管理や、独立電力供給網（マイクログリッド）（地域や建物単位で電力の発電・供給・管理を行う小規模な電力網）の整備によって、自然エネルギー（太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスなど、枯渇することなく永続的に利用することができるエネルギー）の自給自足を図ってきました。加えて、林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた林福連携事業が国に評価され、脱炭素先行地域（地域の特性に合わせた温室効果ガスの削減目標に先行的に取り組む地域）にも選ばれています。

そして、多くの市民も、湖南市の将来の姿として自然がいっぱいのまちに希望を抱いていることから、環境や教育、福祉などの分野が連携し、自然の豊かさやありがたさを次の世代へと引き継いでいくことが大切です。

市内の個性的な公園やプロムナード、バイクロジーなどは、地域住民の日常に安らぎを提供すると共に、市外からの訪問者を惹きつける魅力的な空間となる可能性を秘めています。

一方で、住宅地開発に伴って作られた小規模な公園の中には、人口減少や少子高齢化により利用が少なくなり、維持管理が難しくなっている場所があり、これら既存の公園や空き地の有効活用、維持管理の効率化は社会的課題です。湖南市では、だれもが希望を持てるライフスタイルを育むため、10年後のニーズに応じた公園の再編と活性化を踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化、②公園活性化を重要な政策テーマに据え、「先行的な政策で脱炭素に取り組むまち」、「身近に緑とふれあえるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めています。



2. まちづくりの目標

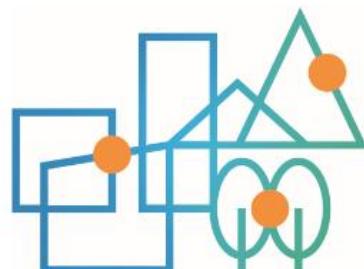
●めざすまちの方向性

- ・先行的な政策で脱炭素に取り組むまち
- ・身近に緑とふれあえるまち

2020年（令和2年）7月17日
「SDGs未来都市」に選定（内閣府）



2022年（令和4年）11月1日
「脱炭素先行地域」に選定（環境省）



脱炭素先行地域
滋賀県湖南市



地域住民による公園整備（水戸学区）



まちづくりセンターに設置している
太陽光パネル



憩いの場として注目されている森北公園



●重要な政策テーマ

政策テーマ2-1：こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化

◆こなんSDGs未来都市の実現

湖南市では、官民が連携し、小売電力事業の収益を活用してまちづくり事業などに取り組むことを目的として自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を2016年（平成28年）に設立しました。

官民が連携し、太陽光発電など自然エネルギー導入プロジェクトの実施、省エネ関連サービスの提供、農林業や福祉と連携した自然エネルギーの活用に取り組み、地域内のエネルギーの循環による地域経済活性化のまちづくりを進めます。

◆脱炭素の地域づくり

湖南市は、2020年度（令和2年度）にSDGs未来都市の選定都市として、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年（令和32年）までに市内のCO₂排出量実質ゼロをめざすゼロカーボンシティへ挑戦することを宣言しています。また、官民連携での太陽光発電や蓄電池の導入によるエネルギーの一括管理や、林福連携事業（林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた事業）が評価され、脱炭素先行地域（地域の特性に合わせた温室効果ガスの削減目標に取り組む地域）に選定されました。

湖南市の特性を生かしたエネルギーと経済の循環モデルの確立による持続的な脱炭素社会（温室効果ガスの排出を実質ゼロにする社会）の実現、公共施設や民間の施設（工場・事業所）、住宅への太陽光発電・蓄電池の導入促進などに取り組み、官民連携による脱炭素の地域づくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ2-2：公園活性化

◆魅力的で個性的な拠点となる公園の充実

市内には野洲川親水公園や森北公園、菩提寺運動広場などの自然豊かな大規模公園が各地にあります。市民はこれらの拠点的な公園を有効に活用し、集い、憩える空間の整備や子育てにやさしい公園の整備を求めていきます。

地域ごとに規模が大きな拠点的公園それぞれの特性を生かしながら、市民が公園内に気軽に立ち寄ってリフレッシュすることができる空間を整備し、魅力的で利用しやすい公園が多くの市民に親しまれるまちづくりを進めます。

◆身近な公園の再編

市内には身近な小さな公園が多数ありますが、利用者が少ない、維持管理が不十分などの課題を抱えています。

市民に親しまれ、利用されている公園施設などの長寿命化や適切な更新を行うと共に、周辺住民や地域とのつながりを大切にしながら小規模で利用度が少ない公園の再編を実施するなど、市民の心と暮らしが豊かになる公園が身近にあるまちづくりを進めます。

◆自然環境・生態系の保全

湖南市は、野洲川や阿星山系・岩根山系の丘陵地など豊かな自然環境に恵まれています。また、特色ある自然資源として国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」があります。

これらの豊かな自然環境および生態系を次世代に継承していくために、「平松のウツクシマツ自生地」を失わないよう保全し、また、地域や事業者と連携し森林や里山、農地、水辺をフィールドとする体験型の環境学習を通して、こどもから大人まで市民の環境保全意識の向上を図るなど、いつまでも自然と生き物が豊かなまちづくりを進めます。



平松のウツクシマツ自生地



ウツクシマツ絵本
「ウツクシマツのキセキ」より

まちづくりの目標



2.

まちづくりの目標3

活気あるまちを つくろう

～人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり～

少子高齢化と人口減少は、社会全体に関わる問題で、特に公共交通網や地域経済に大きな影響を与えています。湖南市も例外ではなく、あらゆる世代の多くの市民が、通勤・通学や買い物などさまざまな目的で、JR草津線やコミュニティバスの利用にとても不便を感じており、公共交通の利便性向上および新たな交通手段の検討が急務です。

一方で、国道1号の整備や名神高速道路栗東湖南ICの開設によって、湖南市の広域的な交通の利便性・重要性はますます高まっています。こうした恵まれた立地を生かすことで、地域産業や市民生活の活力をさらに高めることができます。

基幹産業であるものづくりを支え、事業を牽引してきた経営者や優れた技能を持つ職人などの豊かな知見と技術を持つ人財が豊富であることは、湖南市の大きな強みです。彼らが培ってきた知見やネットワークを駆使して、これらのさまざまな課題に向かっていくことは、湖南市の未来を大きく変える可能性を秘めた希望へとつながっています。住民・企業・行政が手を取り合うことによって、新たな交通手段の導入も十分に可能性があります。

また、商業や農業、観光などの産業振興や空き家対策においても、住民・企業・行政が協働することで地域の課題解決や地域活性化につながる相乗効果が期待できるでしょう。

このように、湖南市では、一人ひとりの夢を叶えるライフスタイルを実現し、互いに共有しながら支えあう社会となるような10年後の未来を見据え、費用負担のあり方の検討を含めた公共交通事業計画の再編、人を育む産業振興、都市計画など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①公共交通、②都市計画、③企業誘致、④産官連携の4つを重要な政策テーマに据え、「公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち」、「企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めています。



2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち
- ・企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち

大阪、名古屋から 100 km 圏内にあり、国道 1 号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王 I C、国道 8 号にもアクセスが良い



地域経済の自立度を表す指標である地域経済循環率は 111.7% と、県内市町で 7 番目に高い
(湖南市産業振興ビジョン)



県内最大級の湖南工業団地

製造品出荷額等は県内 8 位
(2021 年経済センサス)

運輸業・郵便業の純付加価値額は県内 3 位
(2021 年経済センサス)



市内を横断する国道 1 号



名神高速道路栗東湖南 I C 周辺の産業用地



●重要な政策テーマ

政策テーマ3-1：公共交通

◆公共交通の見直し

だれもが公共交通サービスなど必要な場所に移動することができる移動の権利を保障するため、公共交通ネットワークを維持することが重要です。一方で、交通事業者に公共交通サービスを任せただけでは、地域の公共交通の水準を確保することが困難な状況です。

関係主体の役割分担や費用負担のあり方を踏まえた地域公共交通計画へと見直しを行います。

JR草津線について、利用客増加策に取り組むと共に、関係団体などと連携しJR西日本へ働きかけ、利便性の高いダイヤ編成の実現を推進します。

だれもが便利に移動できる交通環境の形成に向けて、コミュニティバスに加えてライドシェア（一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶサービス）などの新しい交通手段の導入が求められています。デマンド型交通などコミュニティバス以外の移動手段の確保に取り組みます。

また、湖南市の地域特性に合致し地域に根差した交通手段の導入に向け、産学官の連携による社会実験・先導的モデル事業の実施などを検討します。

◆バスの利便性向上

市内のコミュニティバス「めぐるくん」は石部駅・甲西駅・三雲駅などと接続しています。

通勤・通学を主たる利用者として位置づけ、鉄道などとの乗り継ぎやデジタル技術を導入した「めぐるくん」の現在位置情報の可視化などによる利便性の向上、利用実態やニーズに応じたバスルートの見直し、複数の事業者による役割分担など最適な運営主体の検討や利用者の確保、掘り起こしを検討し、利用しやすいバス交通の実現を図ります。



こにゃんバス



2. まちづくりの目標

政策テーマ3-2：都市計画

◆駅周辺のまちづくり

市内には東西方向に走るJR草津線に石部駅・甲西駅・三雲駅の3駅があります。効率的・効果的な都市経営を行っていくうえで、駅を中心としたまちづくりを進めることが重要です。また、駅周辺に多様な世代の人たちが集い・交流できる憩いの場を創出することが求められています。

駅周辺に魅力的な企業を誘致すると
共に、住みたいと思える良質な住宅地の
開発、既存商店街や沿道まちづくりの活
性化、駅周辺に憩いの場を整備するなど
3駅の周辺にさまざまな都市機能が集
積するまちづくりを進めます。

石部駅南側駅前広場 完成図





◆計画的な市街地・住環境整備

湖南市は、これまで、ＪＲ草津線の石部駅周辺や甲西駅周辺、三雲駅周辺をはじめ、岩根地区や菩提寺地区において計画的な市街地整備を進めてきました。今後は多様化・複雑化する市民の価値観や生活スタイルに合った質の高い市街地の整備・再編を進めていく必要があります。

このため、恵まれた自然環境を最大限に保全するためにも、多様な都市機能を適切に市街地へ誘導しつつ、まとまりのある市街地整備を進めていくことが大切です。

これまで整備してきた都市基盤の適切な維持管理や国道1号の4車線化をはじめとする道路の整備、質の高い住環境の整備や空き家対策、豊かな自然環境と調和する良好な景観の形成、野洲川をはじめとした河川改修整備を促進するなど、安全・安心で暮らしやすい環境を形成します。

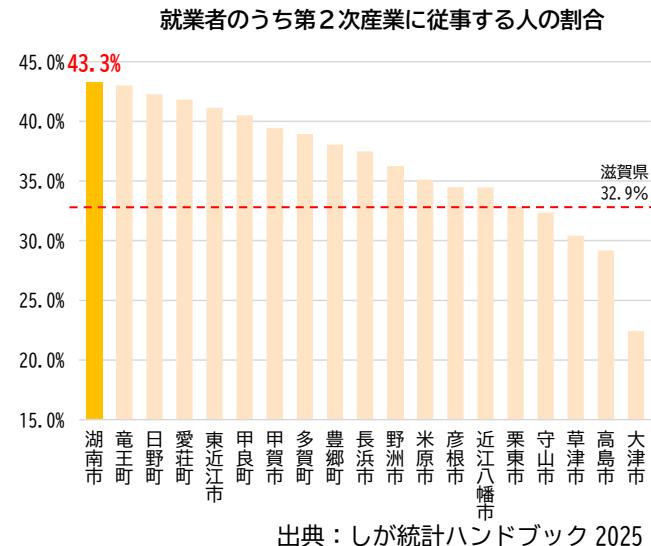


2. まちづくりの目標

政策テーマ3-3：企業誘致

◆企業立地の促進

湖南市は、国道1号や名神高速道路などの広域的な交通環境に恵まれています。この交通利便性を生かして、湖南工業団地をはじめとした5箇所の工業団地には多くの企業が立地しており、湖南市は、第2次産業の就業者人口割合が県内で最も高い割合を占めるなど製造業を中心に発展しています。



市内の既存企業間の連携を図り、地域内の経済循環構造が形成されるよう協議や連携の場を創出します。中小企業における生産性向上の取組や異業種交流の支援、湖南市のものづくり産業を支える職人や経営者が持つ志や知識、人脈を駆使するなど、優れた人財の知見を活用した企業が進出したくなるまちづくりを進めます。

また、卓越した技術を有する市内企業などとの連携を進め、市内外の大人やこどもに湖南市の魅力を感じてもらえる工場見学会などの新たな体験プログラムを創出し、湖南市の產品と国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」や「湖南三山」などの文化財、伝統行事などを織り交ぜた観光ツアーの実施を進めます。



政策テーマ3-4：産学官連携

◆企業、大学、行政による連携機会の創出

湖南市では、2024年（令和6年）に健康状態の可視化や運動、食に強みを持つ大学および企業と共に協定を締結し、持続可能な健康のまちづくりを推進しています。

このような学術機関や民間事業者との連携の取組をさらに広げ、鉄道駅周辺の未利用地の活用による人が集まる場所づくりの社会実験を実施するなど、産学官が連携し、それぞれの強みを生かしたイノベーションを創出していきます。

◆産官学金労言士によるまちづくりの推進

地方創生においては、産学官に加え金融機関や労働業界、マスコミ、弁護士や中小企業診断士などで構成される推進組織による、地域経済の活性化やイノベーション推進に取り組むことが重要とされています。

湖南市では、これまで農産物の加工・流通・販売までを行う6次産業化などで産学官の連携に取り組んできました。

市内の状況に精通する人財に加え、全国的な優良先進事例に関わった経験があり、成功を導くノウハウを有するプレイヤーなどを招致し、都市部からの産業や人の流れを生み出し、活気あるまちづくりを進めます。

まちづくりの目標



2.

まちづくりの目標4

ほっとする暮らしを つくろう

～こどもが主役の、生涯健康で安心に暮らせるまちづくり～

2023年（令和5年）、社会全体でこどもと子育て世帯を支え、こどもたちが健やかに成長でき、こどもたちの最善の利益を第一に考える、こどもまんなか社会の実現をめざして、こども家庭庁が発足しました。

湖南市では、全国に誇る先導モデルである発達支援システム（チャレンジサポート）（関係機関が連携して乳幼児期から就労まで切れ目なく支援する障がい福祉の中核を担う仕組み）をはじめ、福祉サービスの各分野において、社会変化に即した支援ネットワークの構築と人財育成に注力してきました。

2024年（令和6年）には、妊産婦、子育て世帯、こどもへの一体的な相談支援をより強化するため、こども家庭センターを設置しました。デジタル化により利便性を高めることに加え、保健師などによる家庭訪問などきめ細かな支援を展開し、安心してこどもを産み育てられる環境づくりをめざしています。人と人が支えあってこどもや子育て世帯に寄り添う支援の輪は、湖南市の誇りです。

湖南市は、互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きられる地域共生社会の実現をめざしています。地域包括支援センターを中心に、民生委員・児童委員や地域支えあい推進員と連携し、地域包括ケアシステム（地域の実情に応じた医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制）の構築を進めています。さらに、支援が必要でもSOSのシグナルを発信することが難しい状況にある外国人市民にも大切な情報を確実に届けるため、医療・危機管理の分野ではデジタルツールの活用が求められています。

湖南市では、あらゆる社会や理念の中心をこどもとし、だれもが理想とする生き方を実現できるよう、支えあいながら歩みを進めます。10年後の未来に向か、支援を受ける人と支援の担い手となる人の相互理解を深める相談窓口の仕組みづくりをはじめ、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

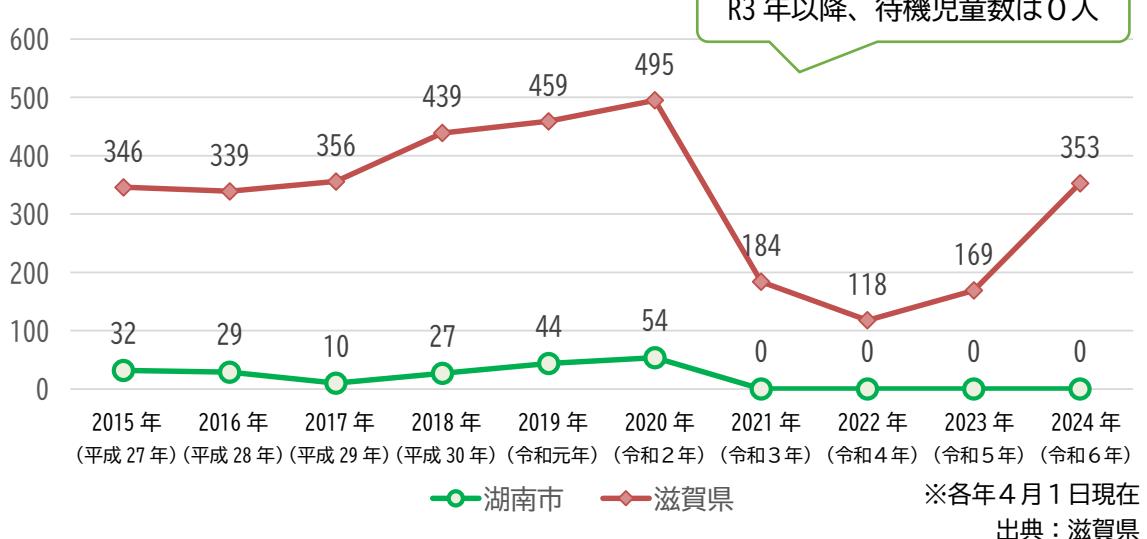
特に重視する政策として、①こどもまんなか、②健康福祉、③防災減災の3つを重要な政策テーマに据え、「安心して子育てできるまち」、「だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち」、「発達支援システムが充実しているまち」、「防災減災を市民と共に進める災害に強いまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

- ・安心して子育てできるまち
- ・だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち
- ・発達支援システムが充実しているまち
- ・防災減災を市民と共に進める災害に強いまち

■待機児童数の推移



「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園、全国に先駆けて構築した発達支援システム（チャレンジサポート）がある



離乳食を始めるにあたっての講話や実演を行うもぐもぐ教室



妊娠・出産・育児について学び、仲間づくりを目的として開催されているママパパ教室



2. まちづくりの目標

●重要な政策テーマ

政策テーマ4-1：こどもまんなか

◆子育て環境の充実

深刻な少子化や子育てしづらい社会環境、虐待や不登校の増加、ヤングケアラー（家族の介護や世話を日常的に担っている状況にある子ども）など、子どもおよび子育てに関して社会全体で取り組むべき多くの問題があります。これらは、いずれも放っておくことはできない早急に対応が必要な課題です。

保育事業者と連携し、保育環境の充実や保育の受け皿の適正な確保に取り組むほか、子育て世帯の経済的負担の軽減、さらには子育てしながら働きやすい就業環境づくりなど、地域社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、安心して子どもを産み育てることができるまちをめざします。

また、地域の子どもが気軽に立ち寄れる場所で食事が提供されるなど、子どもの居場所づくりに取り組むことにより、支援が必要な子どもの早期発見と適切な支援につなぐ仕組みを構築します。

◆教育環境の充実

社会の変化や技術の発展は、一層スピードを増しています。変化の激しいこれからの中学生を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育むことが大切です。

このため、家庭と地域と学校、行政が連携し、地域全体で子どもたちの生きる力を伸ばす体制づくりに取り組みます。

地域住民とのふれあいや地域の資源を生かした体験学習、課題解決型学習に取り組むなど、地域を深く理解し、愛着や誇りを育てます。



学校での音読の様子
子どものことばの豊かさを育むため、
音読集であることばの宝石箱の暗唱・
群唱や湖南市の小さな詩人たち事業で
歌や短歌を作っています



◆子育て世代、若い世代への支援

雨天時のこともの遊び場や保護者同士が交流する場、若者が気軽に立ち寄り過ごすことができる場の確保、子育てに関する相談窓口の充実に取り組むなど、憩いや交流がしやすく孤立が生まれないまちづくりを進めます。

また、事業者への働き方改革の促進により労働時間の短縮や勤労形態の多様化など、子育てと仕事が両立できる職場環境づくりを推進します。



遊び場や子育て情報の提供・相談ができる
子育て支援センター

◆発達支援システム・特別支援教育の充実

湖南市が培ってきた独自の発達支援システム（チャレンジサポート）は、乳幼児期から就労まで「たて・よこ・ななめにすき間なく」をモットーに関係機関が連携して切れ目のない支援で、だれ一人取り残さない障がい福祉の中核を担う仕組みであり、社会の変化に応じて充実を図ることが重要です。

さまざまな発達特性についての理解促進を図ると共に、システムを支える人財の育成・充実に取り組みます。自律した地域生活が送れるよう関係機関が連携し障がいのあるなしに関わらず、自分らしく生きるためのチャレンジをサポートできるまちづくりを進めます。また、特別支援教育については、関係する機関が個別調整会議などを通じて連携を強化し、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の居場所づくり、学びの支援を行うなど、全てのことどもが学べるまちづくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ4-2：健康福祉

◆高齢者福祉の充実

いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、地域包括支援センター（おおむね中学校区ごとに設置された高齢者の保健医療の向上や福祉の増進を包括的に支援する中核的な機関）を中心に、地域包括ケアシステム（地域の実情に応じた医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制）の充実を図り、協働による見守りや支援ができる地域の体制づくりを進めます。

元気で活躍できる機会・場が地域にある、生活支援を必要とする高齢者やその介護をする家族に対するサービスがあるなど、予防とサポートの総合的な取組を進めます。

◆障がいのある人への生活支援サービスの充実

湖南市では障がいのある人の自立的な生活を支えるため、必要なサービスの提供や相談支援を行っています。

障がいのある人を含めだれもがお互いに支えあいながら地域の中で自立した生活ができる環境を整えます。また、職場や学校などでそれぞれの能力を発揮し、自己実現が叶うあたたかい地域づくりやだれもが利用しやすい生活支援サービスの仕組みづくりを進めます。

◆健康づくりの推進

日本人の長寿化は世界最高水準にあり、湖南市でも着実に高齢化が進んでいます。いつまでも健やかに暮らし続けるため、市民一人一人の健康増進への意欲と関心を高めることが重要です。

運動実施率の向上をめざし、健康状態の可視化の仕組み・運動・食の分野で強みのある企業との連携のもと、運動への無関心を好奇心に変え、市民が楽しみながら自然に運動習慣と正しい食生活が身につくプロジェクトを展開するなど、元気な高齢者が活躍する地域社会を形成します。



からだ測定スポットでの健康相談会



◆医療環境の充実

湖南市では公立甲賀病院および公立診療所、民間医療機関が連携し地域の医療環境の充実に取り組んでいます。

在宅医療・在宅福祉など医療と介護の連携による地域包括ケアの充実を図ります。

健康に関する正しい情報提供や定期的な健康診断を受診しやすい環境づくり、疾病予防に関する取組や医療環境の充実を図ります。

◆持続可能な地域共生社会の実現

医療・福祉・介護などの需要はますます大きくなり、求められるサービスの質も高度化しています。湖南市では、4箇所の地域包括支援センターに保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種を配置して機能を強化しています。職員の地域での活動が少しずつ認知され、各センターにおける相談件数は年々増えています。

湖南市版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を支える中心的な相談機関である地域包括支援センターの人財の確保・育成に取り組むと共に、将来にわたって持続可能な地域共生社会（互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きることができる社会）の実現に取り組みます。

政策テーマ4-3：防災減災

◆危機管理体制の強化

気候変動によって土砂崩れや水災害が激甚化、頻発化する状況にあります。また、南海トラフ巨大地震はいつ起きてもおかしくない状況です。

災害の予防・減災対策、応急・復旧対策など、市民の暮らしと安全を守り協働の防災対策を推進するため、災害発生時に災害対策本部となる庁舎の防災性の確保や、地域の身近な指定避難場所の機能充実など危機管理体制を確立・強化します。

地域組織や避難時に配慮を必要とする人が利用する施設の管理者などに対して防災対策の周知徹底や支援を行い、災害発生時にはデジタルツールを用いて必要な情報を効果的に発信するなど、災害に強いまちづくりを進めます。



災害対策本部

2. まちづくりの 目標



まちづくりの目標5

いきいきとした 暮らしをつくろう

～市民文化を築き、育み、伝えるまちづくり～

社会経済情勢の変化と技術革新が著しい現代において、企業や社会が求める人財も常に変化しています。

湖南市では、2023年度（令和5年度）からリーディングDXスクールに指定され、市内小中学校がICT（情報や知識を収集・処理・発信し、さらにネットワークを通じて共有・活用する技術）を積極的に活用した教育を展開しています。また、地域まちづくりフォーラムでは、中学生・高校生が学校を代表して成果を発表するなど、地域と密接に関わり合いながら、学校ごとに特色のある学習に取り組んでいます。さらに、さまざまな事情で小中学校に十分通えなかつた人や外国籍の人などの学び直したいという思いに応える場として、2025年度（令和7年度）から夜間学級を設置しています。

学びの場は学校だけでなく、地域全体でこどもたちの学びを支えています。地域と学校が力を合わせて運営するコミュニティスクールや、小中学生の学習を地域で見守るらくらく勉強会など、湖南市らしい地域ぐるみの教育が広がっています。こうした活動を通して、こどもたちはふるさとへの愛着を育み、地域とのつながりを自然に感じながら成長しています。

生涯学習の分野では、スポーツ指導者の育成や文化芸術の体験機会の充実、文化財の保存・継承など、地域や関係団体が連携・協働して取り組むテーマが数多くあります。特に、若い世代が社会に関わる機会を増やすことは、地域に新しい風を吹き込み、活動の広がりが期待できます。そのためには、公共団体や地域の企業と協力し、若い人たちが気軽に集い、交流し、情報を発信できるオープンスペースづくりが求められています。

湖南市では、一人ひとりが自分らしく夢を追いかけられる社会をめざし、そのため10年先の未来を見据え、多様な世代が気軽に集い、交流が生まれる人の輪が広がる居場所づくりなど、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①地域協働、②生涯学習・生涯スポーツ、③文化創造の3つを重要な政策テーマに据え、「学校と地域が協働し豊かな人間性と地域への愛着を育むまち」、「地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めています。



●めざすまちの方向性

- ・学校と地域が協働し豊かな人間性と地域への愛着を育むまち
- ・地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち

■市町別国宝の指定件数（有形文化財）

	自治体名	件数
1	大津市	36
2	長浜市	6
3	湖南市	4
4	彦根市	2
5	甲賀市	2
6	野洲市	2
7	甲良町	2
8	竜王町	1
9	愛荘町	1
	合計	56

出典：滋賀県

2022年（令和4年6月29日）時点

国宝数は県内3位

長壽寺本堂
常樂寺本堂、常樂寺三重塔
善水寺本堂



長壽寺本堂



常樂寺本堂、常樂寺三重塔



善水寺本堂



小中学生の学習を地域で見守る
らくらく勉強会



2. まちづくりの目標

●重要な政策テーマ

政策テーマ5-1：地域協働

◆若者の社会参画の促進

地域への愛着や誇りを醸成する意味でも、異なる年代とのふれあい、交流による青少年の健全育成、将来の地域づくりの担い手を確保・育成する意味でも若者が地域のまちづくり活動に参画することは重要です。

湖南市では、多様な主体との連携による地域活動の創出や未来の創造をめざすSDGs未来都市の推進の一環として、こなんSDGsカレッジを創設し、次世代を担う若者を中心に、多様なキーパーソンと共に、さまざまなまちづくり活動の体験やプロジェクトにチャレンジをしてきました。

主体的な学びの一環として地域づくり活動への参画の機会や場を設けるなど、若者が主体的に継続してまちづくりに参画できる仕組みづくりを進めます。



こなんSDGsカレッジ生が企画した市内4中学校の交流プロジェクト

◆人の輪が広がる場づくり

湖南市では、6箇所のまちづくりセンターと4箇所のコミュニティセンターが各地域に配置され、地域のまちづくり活動などの拠点となっています。気軽に集い、思い思いに好きな活動をすることができたり、仲間と交流したり異なる世代の人とふれあうきっかけとなるような場所が求められています。

地域のコミュニティ施設や拠点的な公園内のスペースを有効活用し、便利で快適、魅力的な空間づくりに向けて民間事業者との連携も検討するなど、市内各所に人の輪が広がる場があるまちづくりを進めます。



政策テーマ5-2：生涯学習・生涯スポーツ

◆生涯学習環境の充実

湖南市では、市民が社会や地域の魅力、課題についての学びを深め、その力を発揮し、地域社会における多様な担い手になることをめざすための生涯学習の機会を提供すると共に、学びの成果を地域に生かせる仕組みの構築を図っています。

生涯学習活動参加のニーズは時代と共に内容が変化しながら高まっており、指導的役割を担う人財を確保・育成し、いつまでも学ぶ意欲にあふれる人がいきいきと輝くまちづくりを進めます。

◆教育プログラムの充実

湖南市では、デジタルツールを活用した教育に取り組むなど、これから時代を生き抜く力を身につけるための特色のある教育を進めています。

生きる力を伸ばす特色ある教育プログラムの充実、指導者のスキルアップなど、子どもが意欲的に学びに取り組むまちづくりを進めます。

教育DX（デジタル技術を活用し、教育のあり方や教職員の業務を抜本的に変革する取組）に対応する機器の導入や校舎など施設の老朽化対策、安全確保など安心して学ぶことができる環境づくりを進めます。



I C T（情報や知識を収集・処理・発信し、さらにネットワークを通じて共有・活用する技術）を活用した教育

◆スポーツ環境・拠点の充実

余暇の充実や健康づくりへの関心から、運動やスポーツの重要性が高まっています。湖南市では、月1回のKONANスポーツデー（体育館開放事業）や湖南市のスポーツイベントの運営・実施に係る協力、スポーツ出前講座を実施しています。また、健康づくりへの関心の高まりから運動やスポーツの重要性が増す中、市内のスポーツ施設や学校体育施設には、老朽化した施設が複数あります。これらの施設の計画的な修繕、だれもが利用できるようにユニバーサルデザインの考え方に基づく改修、ニーズの変化に合わせた機能の充実を進めます。



2. まちづくりの目標

全天候型遊び場施設（子どもが天候に左右されずに身体を使って遊ぶことができる施設）を求める市民の声への対応、近隣市町との広域連携による特色のある施設の相互利用にも取り組むなど、楽しく快適に運動・スポーツに取り組むことができる環境づくりを進めます。

◆読書環境の充実

蔵書の充実をはじめ、子どもが読書に親しむ機会や生涯学習機会の充実と情報提供など、市民が気軽に図書館を訪れ快適に利用してもらえるよう、利便性やサービスの向上に向けた検討を継続し、世代を問わず、心の健康にもつながる読書環境の充実を進めます。

政策テーマ5-3：文化創造

◆歴史文化遺産の保存・継承と活用

市内には、湖南三山をはじめとする有形・無形の文化財、歴史的な文化遺産が多数あります。地域の人口減少や高齢化などにより、一部でこれらの歴史文化遺産の適切な保存・継承が困難となる問題が生じています。

将来世代への責任として、これらの貴重な歴史文化遺産を適切に保存・継承していくためにも、湖南市の内外に広く価値を発信することが重要です。

歴史的建造物の周辺の景観形成や芸術文化活動との連携による魅力のPR、映像や調査などによる記録保存をはじめ、資料や調査成果の公開・活用などにより、先人が残した歴史文化を受け継ぎ、責任を持って未来へ引き継ぐまちづくりを進めます。

◆文化芸術活動の振興

2023年度（令和5年度）から文化ホールを湖南市が直接運営しており、多くの来場者に楽しんでいただいています。

文化ホールの長寿命化を図ると共に、来場者が快適に利用できる環境づくりを進めます。

また、まちのさまざまな場所に文化芸術活動の発表の場を設けることや、文化芸術に関わる指導者や若年層の発掘・育成の支援を行うなど、市民にとって身近で創造的な文化芸術を振興します。

まちづくりの 目標



2.

まちづくりの目標6

明日を拓く 仕組みをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムと人づくり～

少子高齢化および人口減少の進行を前提とした効率的かつ効果的な行財政運営を実現するため、デジタル技術の最大活用はもはや不可欠となっています。コロナ禍をきっかけに、非接触型サービスやリモートでのコミュニケーションを支えるデジタル技術の社会実装が進みました。これにより、私たちの生活、企業活動、行政サービスのあらゆる面で、デジタル化の推進による効率化と利便性の向上への期待が高まっています。

こうした中、市民が市政情報を入手する主な手段は、今もなお広報こなんや自治会・町内会の回覧板となっています。電子申請サービスでは諸証明の利用が多く見られる一方で、電子申請サービスができることを知らない、または方法が分からぬ市民もいます。このため、電子申請サービスなどの周知を図ると共に、デジタル技術で市民サービス向上と事務の効率化を推進し、得られた成果を職員の能力開発や、より丁寧な対応が求められる業務に振り分けることで、行政サービスの質を向上させることが求められます。

また、国道1号の4車線化やJR草津線の複線化、広域幹線道路整備など、広域的な諸課題への対応には、これらの課題を共有する周辺自治体との連携が不可欠です。現在、県内8市による自治体クラウドシステム（複数の自治体が行政情報を外部のデータセンターで共同利用し、運用管理するシステム）の共同利用が進んでおり、今後も課題に応じ最適な広域枠組みを検討し、連携を一層強固にしていきます。

このようにして、湖南市では、一人ひとりが自分らしい生き方を実現し、10年後の未来を見据えた社会を共に築いていくため、競争に耐えうる行政システムと質の高い人財育成など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①行財政改革、②広域行政を重要な政策テーマとして、「デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めています。



2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち

●重要な政策テーマ

政策テーマ 6-1：行財政改革

◆自治体DXの推進

行政サービスにおいて以前から電子申請の拡充を図るなどデジタル化の取組を進めてきましたが、コロナ禍を経て、社会の広範囲においてデジタル技術を活用した非接触・非対面のサービスが浸透しました。

電子申請の一層の拡充やキャッシュレス対応など、窓口サービスの改革とその周知により市民の利便性向上と業務の効率化を一体的に進めます。

市民が優先的なデジタル化推進を求めている医療の充実および危機管理体制の整備に対応すると共に、デジタル技術を活用して、公共施設の利便性および稼働率の向上と施設管理の効率化を両立するなど、市民満足度の高い行政サービスのデジタル化を進めます。

◆財政の健全化

総人口や生産年齢人口（15～64歳）の減少などにより歳入の根幹である市税収入にも影響を及ぼす可能性があります。

効率化による経費の削減、国・県補助金の確保のほか、企業版ふるさと納税や市有財産を活用した新たな財源の確保にも取り組み、歳入と歳出のバランスが取れた財政が健全で持続可能なまちづくりを進めます。



政策テーマ6-2：広域行政

◆近隣市町との連携

県内8市で自治体クラウドシステム（複数の自治体が行政情報を外部のデータセンターで共同利用し、運用管理するシステム）の共同調達を行い費用の大額な削減を実現しています。また、消防、衛生センター、公立甲賀病院など甲賀市との連携により効率的な行政サービスの提供を行っています。

JR草津線複線化や国道1号4車線化、野洲川の河川改修など、隣接する甲賀市や栗東市との連携により広域的な課題の解決に取り組んでいます。

加えて、野洲市および竜王町とは、広域的な交通ネットワークの充実など共通する課題の解決に取り組んでいます。

人口減少や社会経済情勢の変化に伴うさまざまな行政課題に対し、公共交通や防災、人財育成などの広域的に対応すべきものについて最適な枠組みを検討し、広域的な課題を解決できるまちづくりを進めます。



第3部
基本計画



前期基本計画の基本目標

目標達成に向けたプロセスの進捗状況を定量的に評価・分析するための指標

前期基本計画の基本目標

KPI（重要業績評価指標）		基準値	目標値 (2030年度)
第1章 小規模多機能自治のまちづくり			
地域まちづくり協議会が主体となる協働事業への参加者数		39,160人	52,400人
多文化共生に関する研修会での満足度		91.0%	100.0%
市民意向調査における満足度※	湖南省版小規模多機能自治の推進 ※1	67.3%	73.0%
	外国人市民の地域定着、生活支援の充実 ※2	64.1%	70.0%
	地域まちづくりの担い手の確保 ※3	55.6%	60.0%
	人権尊重と恒久平和の追求 ※4	75.9%	81.0%
	ジェンダー平等の達成 ※5	66.3%	72.0%
第2章 自然を生かし、自然と共生するまちづくり			
官民連携によるESG投資額		333,645,424円	465,000,000円
都市公園の再整備箇所数		0箇所	3箇所
1人1日あたりのごみ排出量（総量）		714g／人・日	660g／人・日
市民意向調査における満足度※	こなんSDGs未来都市の実現 ※6	60.4%	66.0%
	魅力的で個性的な拠点となる公園の充実 ※7	69.3%	72.0%
	自然環境・生態系の保全 ※8	72.9%	77.0%
	循環型社会の形成	73.9%	78.0%
	上下水道の整備	91.1%	93.0%
第3章 人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり			
JR草津線（石部駅、甲西駅、三雲駅）乗降客数		5,632人	6,140人
コミュニティバス乗客数		263,000人	316,000人
製造品出荷額等 ※9		5,757億円	7,000億円
観光入込客数		608,320人	776,000人
市民意向調査における満足度※	公共交通の見直し	18.9%	21.0%
	計画的な市街地・住環境整備 ※10	62.8%	67.0%
	道路網・河川の整備	50.5%	54.0%
	農林業の振興	56.3%	62.0%
	工業の振興	58.7%	64.0%
	商業の振興	39.4%	44.0%
	観光の振興	44.4%	49.0%
	雇用の促進と勤労者福祉の充実	48.0%	53.0%

※基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

※1 「市民主体のまちづくりの推進」

※2 「多文化共生のまちづくり」

※3 「特色あるふるさとづくり」

※4 「すべての人の人権尊重の推進」

※5 「男女共同参画の推進」

※6 「エネルギー・経済の循環による活性化の推進」

※7 「身近な公園・緑地の整備」

※8 「環境の保全」

※9 基準値は2023年（令和5年）経済構造実態調査の値

※10 「市街地・住環境の整備」



KPI (重要業績評価指標)		基準値	目標値 (2030年度)	
第4章 こどもが主役の、生涯健康で安心に暮らせるまちづくり				
子ども家庭総合センターでの延べ相談件数		1,111件	1,130件	
産後ケアの利用人数		47人	84人	
健康寿命 ※11	男性 女性	79.02歳 81.37歳	男性 女性	79.41歳 81.77歳
市民意向 調査にお ける満足 度※	子育て環境の充実	65.2%	70.0%	
	教育環境の充実 ※12	63.6%	69.0%	
	高齢者福祉の充実 ※13	50.5%	56.0%	
	障がいのある人への生活支援サービスの充実※14	58.3%	64.0%	
	健康づくりの推進	74.6%	80.0%	
	医療環境の充実 ※15	56.2%	59.0%	
	持続可能な地域共生社会の実現 ※16	54.6%	60.0%	
	危機管理体制の強化 ※17	53.6%	59.0%	
	安全な地域づくりの推進	61.9%	67.0%	
第5章 市民文化を築き、はぐくみ、伝えるまちづくり				
スポーツイベントへの参加者数		14,704人	19,600人	
歴史・文化財・芸術展などへの参加者数		892人	1,100人	
図書館入館者数		—	93,000人	
夜間学級生徒数(5年間累計)		—	100人	
市民意向 調査にお ける満足 度※	若者の社会参画の促進	44.0%	49.0%	
	生涯学習環境の充実、教育プログラムの充実 ※18	47.7%	53.0%	
	スポーツ環境・拠点の充実 ※19	63.1%	68.0%	
	歴史文化遺産の保存・継承と活用	68.0%	74.0%	
	文化芸術活動の振興	60.4%	66.0%	
	人権教育の推進	68.6%	74.0%	
第6章 効率的・効果的な行財政システムと人づくり				
経常収支比率		88.0%	91.0%	
電子申請化率		11.2%	70.0%	
市民意向 調査にお ける満足 度※	自治体DXの推進 ※20	58.2%	63.0%	
	財政の健全化 ※21	40.5%	45.0%	
	近隣市町との連携 ※22	41.4%	47.0%	

※基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

※11 基準値は2022年（令和4年）の要支援・要介護認定者などの基礎数値から算出

※12 「就学前教育・学校教育」 ※13 「高齢者の自立支援の充実」

※14 「障がい者の自立支援の充実」

※15 「医療の充実」

※16 「地域福祉の推進」

※17 「危機管理体制の整備」

※18 「社会教育の推進」

※19 「スポーツの振興」

※20 「情報ネットワークの構築」

※21 「効率的な行財政運営の推進」

※22 「広域連携の推進」



前期基本計画の見方

政策

まちづくりを実現するための政策目標

第1章

1. 湖南市版小規模多機能自治の推進

施策1 小規模多機能自治の推進



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムの開催などを通じた地域との意見交換や地域まちづくり協議会への担当職員による支援、交付金の適正化などコミュニティプラン（地域まちづくり協議会ごとに定めた特色ある地域づくりのビジョン）の実現に向けた支援を行ってきました。

めざす姿

市内4箇所の中学校区を生活圏域としてサポートする体制、連携の形を確立していきます。地域主体の特色ある地域づくりへの支援が行われ、地域まちづくり協議会が中心となって地域が自らできることに主体的に取り組んでいます。

実施方針

- 小規模多機能自治センターの設置（4中学校区の拠点の確立）
- 市民と行政の協働の推進
- 地域まちづくり協議会の活動促進

施策2 地域コミュニティの活性化



これまでの取組

地域代表者会議や研修会を通じて区・自治会運営の先進事例を学んできました。
また、地域まちづくりフォーラムでは、若い世代との対話に取り組んできました。

めざす姿

子どもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通して将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティプランによる主体的な地域づくりに向けた協働、助言
- 地域の担い手となる若い人財の育成支援
- 地域課題への関心を高めるための情報提供や学習機会・伝統行事などへの支援

施策

施策毎に名称・これまでの取組についての説明、めざす姿、今後の実施方針の姿を整理

SDGs

施策に関連するSDGsアイコンを掲載

1

みんなで共に
進める仕組みをつくろう

～ 小規模多機能自治のまちづくり ～

湖南市みらいものがたり

- Episode1 -

「今度、夏祭りで、中学代表として発表することになったの」

娘の結菜(ゆいな)が、少し誇らしげに笑った。

中学一年の探究学習で考えたまちづくり企画が、校内で最優秀賞に選ばれたのだ。

その成果を、湖南市の夏祭りのブースで披露することになったと言う。

沙織(さおり)は、夫と結菜と三人で、この春に湖南市へ越してきたばかり。不安もあつたけれど、何かと声をかけてくれる近所の人々のやさしさが、沙織の心をすぐにほどいてくれた。

夏祭りの会場は、光と笑い声が重なり合う場所。小学生はヨーヨー釣りに夢中で、ステージでは高校生のダンスが観客をわかせる。子育て世代は率先して運営に関わり、シニア世代はこどもたちを温かく見守っている。

その輪の中で、結菜は友達と並び、来場者に笑顔で語りかけていた。

「私たちは、地域が元気になる地産地消のレシピを開発する企画を考えました」

未来への扉を押し開くまっすぐな伸びる声で。

世代を越えて手を取り合い、笑顔でつながる

——このまちの魅力は、まさにそこにあった。

—10年後

今年の夏祭りは、中学生と地元企業が協力してつくった「いしべえ丼」が屋台に並び、湖南市のNEWソウルフードとして注目を集めている。

結菜は就職先の地元企業ブースを担当し、地元中学生を導いている。

沙織は夏祭りの運営を担う 40~50 代の仲間と共に会場を整えながら、親子そろって夏祭りに関わる不思議な縁を思い返していた。

灯りにゆれる祭りの夜。

中学生の呼び込みの声が、また新しい未来へと響いていく。

※この物語は、第三次湖南市総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。実在の人物や団体などとは関係ありません。

第1章

1. 湖南市版小規模多機能自治の推進

施策1

小規模多機能自治の推進



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムの開催などを通じた地域との意見交換や地域まちづくり協議会への担当職員による支援、交付金の適正化などコミュニティプラン（地域まちづくり協議会ごとに定めた特色ある地域づくりのビジョン）の実現に向けた支援を行ってきました。

めざす姿

市内4箇所の中学校区を生活圏域としてサポートする体制、連携の形を確立していきます。地域主体の特色ある地域づくりへの支援が行われ、地域まちづくり協議会が中心となって地域が自らできることに主体的に取り組んでいます。

実施方針

- 小規模多機能自治センターの設置（4中学校区の拠点の確立）
- 市民と行政の協働の推進
- 地域まちづくり協議会の活動促進

施策2

地域コミュニティの活性化



これまでの取組

地域代表者会議や研修会を通じて区・自治会運営の先進事例を学んできました。

また、地域まちづくりフォーラムでは、若い世代との対話に取り組んできました。

めざす姿

こどもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通じて将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティプランによる主体的な地域づくりに向けた協働、助言
- 地域の担い手となる若い人財の育成支援
- 地域課題への関心を高めるための情報提供や学習機会・伝統行事などへの支援

施策3**中間支援組織の検討****これまでの取組**

地域まちづくり協議会では、持続可能なまちづくりをめざし、まちづくり団体などとの協働により、地域特産品の開発やちょっとカเฟーなどのコミュニティでの取組を進めてきました。

めざす姿

NPO、ボランティア組織、企業のほか福祉、商工業などの団体が連携し、地域に根差したコミュニティ事業を展開することで持続的なまちづくりが展開されています。

実施方針

- あらゆる主体との協働による地域まちづくりの推進
- 人財育成や専門家との協働によるコミュニティの充実

自然を生かし、
自然と共に共生するまちづくり

人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくり

こどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり

市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり

効率的・効果的な
行政財政システムと人づくり

施策4**幅広い層の市民参画の促進****これまでの取組**

グループワークを取り入れた対話型のタウンミーティングの開催や市長への手紙などにより、対話を通じて市政への理解を深めてきました。

また、各種行政計画の策定過程にパブリックコメントを実施することで、市政への参画機会を設けてきました。

めざす姿

若者を含め幅広い世代が、タウンミーティングや各種委員会・審議会に参画し、市政に意向が反映されています。

実施方針

- 幅広い世代からの市政に対する意見・提案機会の拡充
- 各委員会・審議会の公募委員の確保

こどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり

施策5**行政からの情報公開の拡充****これまでの取組**

情報公開室を設置し、各種行政資料の公開を行いました。

また、湖南市ホームページや湖南市メール、湖南市公式ソーシャルメディアによる情報発信に取り組んできました。

めざす姿

府内各課から市民にとって有益で魅力的な行政情報が多様な媒体によって発信され、だれもが気軽に必要な情報にアクセスできるようになっています。

実施方針

- 行政情報の自主的・積極的かつ迅速な公開
- パブリシティ（メディアへの発信および報道によるPR）に対する全般的な意識向上
- 行政情報の拡充

2. 地域防災の推進

施策1 地域の自主防災組織の充実

これまでの取組

地域の自主防災組織の設立、防災訓練などの活動を推進するため、支援の制度を整えてきました。

めざす姿

日頃からの住民の防災に関する取組が活発になり、身近な地域の防災力が向上し、災害発生時においても、だれ一人取り残されない安心が確保されています。



実施方針

- ふるさと防災チームをはじめとした地域の自主防災組織の充実
- 防災訓練・研修などの充実による防災意識の高揚
- 向こう三軒両隣のコミュニケーション強化

施策2 防災体制の確立

これまでの取組

区・自治会単位での自主防災組織の設立を促進し、身近な地域の防災力向上を支援してきました。

また、消防団や湖南市防災士連絡会など専門性の高い組織との連携強化に取り組んできました。

めざす姿

消防団、防災士、消防署など防災に関わる関係主体の連携体制が中学校単位で確立され、地域の防災体制がより強固なものとなっています。



実施方針

- 関係主体のネットワークの構築
- 消防団や湖南市防災士連絡会による専門組織の体系化

施策3 避難所の機能の充実

これまでの取組

防災出前講座、避難所開設・運営訓練などの実施により、防災意識の向上を図り、地域の避難所運営体制の強化に努めてきました。

また、避難所の開設・運営の課題点などについて関係者間で情報共有するため、意見交換会を開催してきました。

めざす姿

女性や要支援者などの視点が取り入れられた地域の避難所運営体制が確立され、だれもが安心して避難できます。避難所にも安心して避難できるよう避難体制や物資の提供体制などの準備が整っています。



実施方針

- 地域の避難所運営体制の整備

3. 地域福祉の推進

施策1 地域福祉体制の充実



これまでの取組

少子高齢化や一人暮らしへの増加が進む中、地域の困り事を自分事と捉え、地域でまるごと支える仕組みづくりを推進してきました。

めざす姿

地域の困り事に関する情報プラットホームが確立されており、関係主体間が連携し、困り事の解決へスムーズにつなげています。

実施方針

- 多様な相談内容から支援につなげる重層的体制の整備
- 関係主体間の情報の共有

施策2 住民主体の地域福祉活動の促進



これまでの取組

地域まちづくり協議会ごとに地域支えあい推進員が設置され、地域課題の取りまとめや解決方法の検討などがなされてきました。

また、ボランティアセンターが実施するボランティア育成事業の広報を行ってきました。

めざす姿

地域住民と地域支えあい推進員が連携して安心できる居場所づくりなどの地域福祉活動が活発になっています。

実施方針

- ボランティア人財やボランティア活動の周知とマッチング
- 地域の居場所や相談できる場づくり

4.外国人市民の地域定着、生活支援の充実

施策1 コミュニケーションの支援



これまでの取組

通訳職員や窓口職員が、外国語およびやさしい日本語を活用して外国人市民のニーズに対応してきました。庁舎や保健センター、まちづくりセンターにタブレット、自動翻訳機を設置し、多言語化への対応を進めてきました。

めざす姿

適切な通訳や窓口職員によるやさしい日本語、デジタル機器の活用などによりコミュニケーションが円滑に行われています。

実施方針

- 適切な通訳とやさしい日本語の全庁的な周知・活用の推進
- A I コミュニケーション機器（A I（人工知能）が搭載された通訳機など）の拡充
- 多言語での湖南市の各種情報などの発信

施策2 安心できる生活の支援



これまでの取組

湖南市一元的外国人相談窓口を設置して、さまざまな相談に対応してきました。

また、外国人技能実習生への生活オリエンテーションを行い、日本での生活や防災について通訳者を通して説明を行ってきました。

広報こなんやごみカレンダーなどを翻訳し、情報提供を行ってきました。

めざす姿

湖南市一元的外国人相談窓口が周知され、外国人市民のさまざまな不安の解消、問題の解決につながっています。こどもから高齢者まで全ての世代が地域づくりに関わり、世代間交流を通じて将来の地域づくりの担い手が育まれる環境が整っています。

実施方針

- 地域コミュニティに溶け込みやすい環境づくり
- 文化の違いによる地域問題の解決支援の促進

施策3 異文化コミュニケーションの充実



これまでの取組

関係機関と連携し、異なる文化についての学習や交流の機会づくりの促進と啓発を行ってきました。

また、関係機関や地域の活動と連携し、外国人市民が参画し、交流できるイベントを支援・周知してきました。

めざす姿

日本人も外国人市民も同じ地域社会で共に生き、共に支えあうという意識がさらに醸成され、多文化共生社会が実現しています。

実施方針

- 相互理解を深める異文化コミュニケーションの促進
- 多文化共生に向けた学び合いの機会の創出
- セントジョンズ市をはじめ海外との親交を通して人財育成の推進
- 関係団体との協働による多様な交流事業の推進

自然を生かし、
自然と共に共生するまちづくり人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくりこどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり効率的・効果的な
行政システムと人づくり

5.地域まちづくりの担い手の確保

施策1 多様な主体のつながりの形成



これまでの取組

地域まちづくりフォーラムでの地域まちづくり協議会の活動、こなんSDGsカレッジや市内の中学生・高校生による事例発表など、地域との意見交換を行ってきました。

めざす姿

NPOや地域まちづくり協議会などのまちづくり活動団体同士が連携しながら交流・体験を実施し、若い世代を中心とした人財が育まれています。

実施方針

- 市民・団体間のネットワークの構築
- 市民活動の活性化や継承に対する支援
- 若い世代を中心とした人財育成の機会創出

施策2 ふるさとへの愛着づくり



これまでの取組

ふるさと納税やこなんSDGsカレッジ修了生によるプロジェクトなど、地方創生に関する制度を活用しきまざまなシティプロモーションを実施してきました。

めざす姿

若者やものづくり人財（製品の生産や技術開発に携わる人々）が活躍し、さまざまなまちづくり活動が創出されています。

実施方針

- ふるさと応援人口（地域に移住・定住していないものの、ふるさと納税や各種イベントへの参加やボランティア活動などを通してその地域を応援する人）の拡大
- ふるさと納税などを活用したシティプロモーション
- 地域や教育機関との協働による主権者教育の推進
- 産業界や教育機関との連携による先導的な取組の促進

6.多様な市民が参画する仕組みづくり

施策1 移住・定住の促進



これまでの取組

移住定住サイトを活用した情報発信や移住相談会における湖南市の魅力のPR、結婚新生活を支援してきました。

めざす姿

湖南市への移住を検討している人のそれぞれの段階に応じた支援が整備され、移住者の増加につながっています。

実施方針

- まちの魅力の情報発信・相談支援の強化
- 移住の受け皿となる体制整備・支援の充実
- 地域とつながる体験・交流の支援
- 結婚に関する支援・若者に向けた情報発信

施策2 関係人口の創出



これまでの取組

空き家活用やふるさと納税を活用したシティプロモーション、SDGsカレッジなどの取組により、関係人口（他の地域に住みながら、地域と継続的にかつ多様に関わる人々）の増加を図ってきました。

めざす姿

第2のふるさとづくりとして、関係部署や民間事業所などとの連携により、地域の人財を活用した新たな交流の場が創出されています。

実施方針

- 第2のふるさとづくりの受け皿となる環境整備
- 地域人財などを活用した新たな交流の場の創出

7.人権尊重と恒久平和の追求

施策1

人権尊重の徹底とあらゆる差別の撤廃



これまでの取組

人権尊重の理念の浸透と差別の撤廃に向け、関係機関と連携しながら、人権教育・啓発事業を開催し、家庭・地域・学校・園・企業における人権意識の高揚を推進してきました。

めざす姿

部落差別をはじめ、障がいのある人、こども、女性、高齢者、外国人などへの人権侵害やあらゆる差別に対する基本的な知識や理解・認識が深まり、人権尊重が徹底されています。

実施方針

- 関係機関との連携による人権意識の高揚に向けたあらゆる差別に対する啓発活動の推進
- あらゆる差別に対する相談体制の強化
- 正しい理解・認識と実践につなげる人権学習の機会・内容の充実
- 湖南省学校・園人権教育基底プランによる内容の実践
- 地域総合センターによる支援活動の充実
- 企業内人権のきめ細かな啓発、研修の推進
- 企業の自発的な取組への支援

施策2

相談体制の充実



これまでの取組

部落差別や外国人差別、障がいのある人への差別、虐待、いじめ、DV、ハラスメント、ストーカーなど、人権に関わる相談が多様化しています。相談に的確かつ迅速に対応し被害者保護や早期解決を図るために、関係機関・団体などと密接な連携による取組を行ってきました。

めざす姿

だれもが利用しやすい相談窓口が設置され、多様化する人権相談に対応し、市民の立場に立った相談が行われています。

実施方針

- 関係機関・団体などの多様な相談窓口との連携による総合的な相談体制の強化
- 相談員の育成
- 相談窓口の周知

施策3**「非核平和都市宣言」の啓発****これまでの取組**

2005 年度（平成 17 年度）に、あらゆる国の核兵器の廃絶を訴え、人間の尊厳を守り、基本的人権の尊重と恒久平和を求めるため「非核平和都市宣言」を宣言しました。

また、2009 年度（平成 21 年度）に平和首長会議に加盟し、平和に関する啓発活動に取り組んできました。

めざす姿

戦争体験者の体験の語り継ぎが次の世代へと継承され、戦争の惨禍を風化させることなく、後世に世界平和実現の願いが引き継がれています。

実施方針

- 平和啓発の推進

自然を生かし、
自然と共に共生するまちづくり

第2章

人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくり

第3章

こどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり

第4章

市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり

第5章

効率的・効果的な
行政システムと人づくり

第6章

8. ジェンダー平等の達成

施策1 ジェンダー平等の啓発



これまでの取組

家庭や地域・学校・企業などあらゆる社会活動の場で男女共同参画社会についての理解が進むよう、啓発用DVDの貸出や講座を開催し、啓発に努めてきました。

めざす姿

家庭・地域・学校・企業などあらゆる場でジェンダー平等の意識が浸透し、男女が同等に家事・育児・介護を担い、仕事と両立できています。

実施方針

- 家庭・地域・学校・企業などあらゆる社会活動の場でのジェンダー平等の啓発活動の推進
- だれもが働きやすい職場環境に向けた企業への啓発活動の推進

施策2 だれもが参画できる環境整備と社会参加の促進



これまでの取組

女性が社会に参加しやすい環境整備と共に、審議会や区・自治会における女性の参画を推進し、活躍事例の情報共有や啓発を行ってきました。

また、湖南市主催講座の開催の際に、予約制の託児サービスを実施してきました。

めざす姿

性別・性差に関係なくだれもが社会に参加しやすい環境整備が進み、政策決定や地域活動での意思決定に意向が反映されています。

実施方針

- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 地域・社会参加を促進するための環境整備
- 政策決定や地域活動での意思決定の場への女性登用の促進
- 女性職員の管理職への登用の推進

施策3**相談および支援体制の充実****これまでの取組**

人権相談ネットワーク協議会などの関係機関との連携により、相談内容の多様化に対応してきました。

また、女性の悩み相談(月2回)・人権なんでも相談(月2回)を実施すると共に、就労相談の開催や女性活躍の事例集などの啓発により、女性の社会参加を促進してきました。

めざす姿

ジェンダーを取り巻く社会的問題や心身の健康に関する問題を受け止め、解決や自立へ導く相談体制が充実しています。

実施方針

- 関係機関との連携による相談体制の強化
- 相談員の育成
- 相談窓口の周知

施策4**性的マイノリティへの理解促進****これまでの取組**

関係団体と連携し、啓発パンフレットの作成・配布、広報こなんやホームページで啓発を行い、多様な性に関する理解を深めてきました。

めざす姿

性別・性的指向・性自認・性表現に関わらず、自分らしく生きることが尊重される社会が実現しています。

実施方針

- 啓発活動の推進

2

うるおいのあるまち
をつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

湖南市みらいものがたり - Episode2 -

「ねえパパ、今日もあの公園に行こうよ！」

優月（ゆづき）がいつものように7歳の瞳を輝かせていた。

家族で何度も通った公園。

砂場で磨いた泥だんごは、宝石の輝きを放ち、陽だまりの丘を駆け回った日々は親子にとってかけがえのない思い出。

—10年後

湖南市では、地域の特色を生かしたふれあい公園や都市公園が再編・再整備され、小さくとも花壇には四季を告げる花々が咲き、住民の心と心をそっと結んでいた。

高校二年生になった優月は、「にじいろ公園」で友達と並んで語り合いながら釣り糸が垂れている。

そこは自然豊かで、ユニバーサルデザインの遊具が並び、親子連れからお年寄りまで、世代を超えて笑顔が集う憩いの場。

「湖南市にはおもしろい公園がいっぱいあっていいなあ」

隣町から来た友達は、水面の照り返しを浴びて眩しそうにつぶやく。

「他にもいろんな公園があるんだよ」優月はスマート端末を開き、写真を見せる。

画面に映った大きな砂の城。

その光景に、幼き日々が優月の心によみがえり、微笑みが広がった。

※この物語は、第三次湖南市総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。

実在の人物や団体などとは関係ありません。

第2章

1.こなんSDGs 未来都市の推進

施策1

地域自然資源を活用したエネルギーと経済の循環による地域活性化の推進



これまでの取組

こなんウルトラパワー株式会社のノウハウを活用し、公共施設、民間施設への太陽光発電設備の設置を図り、地域の自然エネルギー活用を推進してきました。

めざす姿

こなんウルトラパワー株式会社を核として、地域の自然エネルギーの活用が広がり、エネルギーと経済の地域内循環が確立されています。

実施方針

- 地域の自然エネルギーを活用した取組の推進
- 自家消費型屋根借り太陽光発電への参画
- 家庭での自然エネルギー活用に寄与する取組の推進
- エネルギーの地産地消の推進

施策2

地域資源との関わりを見つめ直し、だれもが参画できるまちづくりの推進



これまでの取組

市内福祉作業所と連携し、太陽光発電パネルの下を活用したサツマイモ栽培や加工品の販売、新たな農作物の検討に取り組み、木質バイオマス燃料（森林の間伐材や林地残材、製材工場から出る木材の端材・木屑、建築物の解体材など、木材由来の有機物を資源とする燃料）の安定供給の取組を進めてきました。

めざす姿

市民・福祉事業者・大学などとの連携による木質バイオマス（樹木を原料とする再生可能な有機性資源の活用）の取組など、だれもが参画できる取組によるさりげない支えあいのまちづくりが広がっています。

実施方針

- 市民・事業者の交流促進による利益の地域循環の推進
- 農福連携（農業と障がいのある人の就労による掛け合わせ）の取組推進によるイモ製品の開発など6次産業化（農産物の加工・流通・販売までを行う）の推進
- ソーラーシェアリング（農地に支柱を立てて太陽光パネルを設置し、農作物の栽培と発電を同時に使う取組）活用の促進
- 林福連携推進による木質バイオマス燃料の供給の推進
- SDGsに関する地域資源教育の推進

2. 脱炭素の地域づくり

施策1 地球温暖化対策の推進



これまでの取組

SDGs出前講座などを通して、公共交通機関の利用や歩行・自転車での移動が温室効果ガス排出抑制や健康維持につながることを啓発してきました。

また、自然エネルギーの利用促進を図ってきました。

めざす姿

省エネルギー型のライフスタイル、ワークスタイルが定着し、環境への負荷のない自然エネルギーへの転換が進んでいます。

実施方針

- 自然エネルギーの活用や省エネルギーの普及促進
- 屋上緑化や緑のカーテンの普及率の向上
- 事業所への高効率型機器の導入促進
- 温室効果ガス排出抑制のための公共交通機関などの利用促進

施策2 強靭性と脱炭素を両立した持続可能なまちづくりの推進



これまでの取組

こなんウルトラパワー株式会社が保有する設備やスキームにより、公共交通施設への太陽光発電設備と蓄電池の設置導入による非常時の電源の確保に取り組んできました。

めざす姿

小売電力事業を軸に省エネルギーサービス事業も展開され、自然エネルギーを活用した地域分散型電源が普及し、災害時に備えたエネルギー供給の強靭性が確保されています。

実施方針

- 地域主導による自立分散型エネルギーの導入促進
- エネルギーを主眼に置いた効率的な公共施設の維持管理の推進
- 災害時のエネルギー供給の保持
- 地元企業とのカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）の連携・支援強化

3. 魅力的で個性的な拠点となる公園の充実

施策1 拠点的公園の充実



これまでの取組

都市公園の一角を利用した地域による花植えなどの活動や恵まれた自然を生かし、市民が身近に自然にふれることのできるレクリエーションの場づくりを推進してきました。

めざす姿

地域の拠点的な公園が、市民のレクリエーションや憩いの場などとして充実し、多くの市民で賑わっています。

実施方針

- 市民交流やふれあいの場づくりの充実
- 公園センター制度（市民や企業・団体がボランティアとして公園の美化活動やイベント企画、情報発信などをを行うことで公園の維持管理を支援する制度）による市民参画の推進

4. 身近な公園の再編

施策1 身近な公園の再編



これまでの取組

こどもからお年寄りまで多くの市民が快適に憩える身近な公園として、遊具施設などの安全点検や施設修繕を行うと共に、老朽化した公園については市民が利用しやすい形態に再整備の検討を進めてきました。

めざす姿

地域が主体となり維持管理が持続できる公園がバランスよく配置され、だれもが安心して利用でき、自由にくつろぐことのできる場が身近にあります。

実施方針

- 地域などとの連携による魅力ある公園整備
- 市街地や住宅地における公園機能の再編および集約化

施策2 公園の利用・維持管理の効率化



これまでの取組

公園遊具施設点検を実施し、危険度の高い遊具について、撤去または修繕を行ってきました。

除草などの日常管理は地元の区・自治会で行い、身近な公園の管理が行われてきました。

めざす姿

地元住民の協力による公園の日常管理と湖南市による施設の点検が行われ、計画的に修繕が進められています。

実施方針

- 遊具施設の安全管理など公園施設の計画的な維持管理
- 指定管理者制度（地方公共団体が設置する公共施設の管理運営を民間企業やNPOなどの法人格を持つ団体（指定管理者）に委ねる制度）の導入や地元への委託など整備管理体制の充実

5.自然環境・生態系の保全

施策1 生物多様性の保全



これまでの取組

小学生を対象とした施設見学を受け入れ環境学習を実施し、高校生によるフィールドワークを行ってきました。

めざす姿

自然や生き物の豊かな個性とつながりを大切にし、人間を含め多くの生物が調和しながら暮らす健全な生態系が維持されています。

実施方針

- 希少な野生生物の生育・生息環境に配慮した健全な生態系の維持
- 地域・学校などにおける環境教育・環境学習の推進

施策2 自然資源の保全



これまでの取組

国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」などの特徴的な自然資源を地域と協働して保全してきました。

また、森林環境譲与税を活用し、森林・里山が持つ多面的機能の維持・増進を図ってきました。

めざす姿

国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」を含め、森林・里山の保全への関心が高まり、事業者や市民が関わりながら健全な森林・里山環境が保全されています。

実施方針

- 国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」の計画的な保全活動の継続
- 生活環境保全林などの適正管理
- 里山保全活動の推進
- 無秩序な伐採や開発の規制、環境に配慮した森林整備などの実施

施策3 水辺の環境の保全



これまでの取組

地域住民と行政の協働の観点から河川愛護活動を通じ、河川環境の美化を推進してきました。

また、河川の水質調査を実施し、その結果をホームページに掲載し、河川の環境保全に努めてきました。

めざす姿

湖南市の恵まれた自然環境の象徴である野洲川は、市民の積極的な関わりのもと、美しい河川環境が保全されています。他の河川についても多世代が河川愛護の精神で清掃活動などを実施しています。

実施方針

- 琵琶湖と関連水系保全のためのネットワークづくりの推進
- 河川の水質などの情報提供や保全活動への支援
- 河川環境美化と保全活動への支援

施策4 人と地域を結ぶ体制づくり



これまでの取組

湖南市の良好な自然環境を生かしながら、住みよいというおいのあるまちづくりを推進するため、環境団体と連携して、森や川の勉強会などのこどもが参加できる取組や清掃活動を実施し、ボランティアの育成に取り組んできました。

めざす姿

森林や川が美しく保たれていると共に、自然環境を学習やレクリエーションの場として活用するための環境が整い、市民が自然と親しむ機会が増えています。

実施方針

- 市民・事業者・環境関連団体などが連携した推進体制による取組の推進
- 市民協働による自然体験やレクリエーションの機会づくり、学習環境の整備
- 学習ボランティア・団体などの育成支援

6.循環型社会の形成

施策1 省資源・リサイクルの推進



これまでの取組

食品ロス削減に向けた啓発、生ごみ減量化推進補助金やリサイクル推進活動奨励金の交付を通じて、ごみの減量化やリサイクル活動を推進してきました。

めざす姿

市民・事業者・行政が相互に役割を分担し、一体となった省資源・リサイクル活動が定着しています。

実施方針

- 市民・事業者・行政の協働による3R（リデュース：発生抑制、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）の推進
- 資源の有効活用とリサイクル率向上

施策2 適正なごみ処理、不法投棄の防止



これまでの取組

甲賀広域行政組合衛生センターでは可燃ごみの処理、リサイクルプラザでは一般家庭の不燃ごみ・粗大ごみの破碎処理、缶類・ペットボトルの中間処理を行ってきました。

また、不法投棄パトロールを実施すると共に、看板の設置などの啓発活動に取り組んできました。

めざす姿

甲賀広域行政組合衛生センターの適正な保全管理と設備の改修整備が行われ、安定的に稼働しています。

山林の不法投棄がなくなり、美しい自然景観が保全されています。

実施方針

- ごみ処理施設の計画的な維持管理
- 県と連携した指導のもと民間の産業廃棄物処理施設の維持管理および改善の促進
- 市民・事業者・行政の協働による山林などの巡回・監視や啓発活動による不法投棄の防止
- 市民・各種団体・企業などのごみの自主回収活動への支援

施策3 循環型の暮らしの定着



これまでの取組

リサイクルプラザでは、小学生を対象とした施設見学を受入れる環境学習や高校生によるフィールドワークを実施してきました。

また、環境団体と連携し、ボランティアの育成に取り組んできました。

めざす姿

環境について考え、実践する人財やボランティアグループが活躍し、広く市民に循環型の生活スタイルが定着しています。

実施方針

- 環境学習の充実
- 環境ボランティアの育成・支援

7.上下水道の整備

施策1

上水道施設の整備と管理



これまでの取組

水道事業の包括委託契約を行い、24時間体制の水源の監視システムにより安全な水の安定供給と財政の健全化に努めてきました。

また、老朽配水管の更新などを計画的に推進してきました。

めざす姿

市民に安全な水を安定供給する体制が整い、長期的な視点で上水道財政が健全に運営されています。

実施方針

- 長期的な水需要の変動に合わせた施設規模の最適化
- 水道施設の計画的な維持管理および更新
- 包括業務委託などによる経営効率化の推進

施策2

下水道施設の整備と管理



これまでの取組

市民の快適な居住環境と河川などの公共用水域の水質保全のため、健全な財政運営に努めながら、下水道施設の計画的な維持管理と共に水洗化の普及促進を行ってきました。

めざす姿

長期的な視点で下水道財政の健全運営が行われ、計画的な下水道の新設および更新がされ、快適な居住環境と河川などの水質が保全されています。

実施方針

- 未整備地域への計画的な下水道整備
- 下水道施設の計画的な維持管理
- 広報活動の充実による水洗化の普及促進
- 包括業務委託などによる経営効率化の推進

第1章

小規模多機能自治の
まちづくり

第2章

自然を生かし、
自然と共生するまちづくり

第3章

人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくり

第4章

こどもが主役の、生涯健康で
安心に暮らせるまちづくり

第5章

市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり

第6章

効率的・効果的な
行政財政システムと人づくり

3

活気あるまち をつくろう

～人と産業が集い、
公共交通でつながるまちづくり～

湖南市みらいものがたり

- Episode3 -

「お母さん、宿題の本を借りに図書館に行きたいの。車で連れてって！」

小学四年生の颶太（そうた）に頼まれ、母の綾乃（あやの）は玄関先に出た。

いつものように、隣に住む幸子（ゆきこ）おばあさんに声をかける。

「図書館まで行きますけど、何か買ってきましょうか？」

颶太も車を持たない幸子さんも、移動は何かと大変。ご近所同士の助け合いも大切だ
けれど湖南市は、優しさだけに頼らないまちをめざしていた。

公共交通の整備や企業誘致、都市計画の推進。

行政と住民、企業が力を合わせ、だれもが自由に移動できる未来をつくろうとしていた。

—10年後

「幸子さんもライドシェアで病院に行けるようになって、本当に助かったって」

綾乃の言葉に、颶太がうなずく。

「うん。駅へ行く便に乗る人が増えて、電車の本数も増えたしね。国道1号も広がって通勤もすいぶん楽になったよ」

颶太は高校を卒業し、地元企業でインターンを経験中。

スマートICの周辺にはグローバル企業が進出し、駅周辺や県道沿いには個性溢れるお店が彩りを添え、まちに息吹を吹き込んでいる。

市民も企業も行政も、困り事を分かちあい、支えあう工夫を共に編み出す風土。

「住みやすさって、きっとこういうことなんだ」

綾乃の想いがそっとこぼれた。

※この物語は、第三次湖南市総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。

実在の人物や団体などとは関係ありません。

第3章

1.公共交通の見直し

施策1 地域公共交通の再構築

これまでの取組

市内のＪＲ草津線3駅について、順次、バリアフリー工事などを進めてきました。コミュニティバスの利用増進に向け、市民ニーズに基づいた取組を推進してきました。

めざす姿

地域の公共交通サービスのあるべきサービス水準などについて広く認識が共有化され、利用者が増加し、満足度が高まっています。



実施方針

- 事業運営計画の見直し
- 公共交通機関による利便性の向上

施策2 ＪＲ草津線複線化の促進

これまでの取組

県や沿線市町などと滋賀県草津線複線化促進期成同盟会を組織し、JR西日本に対してJR草津線の複線化に関する要望活動、利用促進事業を行ってきました。

めざす姿

JR草津線沿線全体の魅力が向上し、利用客数が順調に増加しています。



実施方針

- JR草津線の利用客数増加に向けた一体的な取組の推進
- 関係団体などとの連携によるJR西日本への継続的な要望活動の推進

施策3 地域の支えあいによる移動支援の推進

これまでの取組

送迎支援・支えあい活動を実施する地域まちづくり協議会への支援を行ってきました。高齢者の交通手段の確保を検討している地域まちづくり協議会もあります。

めざす姿

地域住民の支えあいによる身近な交通手段が確保され、湖南市全体の取組へと広がり、買い物や通院などさまざまな目的において市民の移動の支えになっています。



実施方針

- 地域主体による身近な交通手段確保の取組の支援
- 新たな交通手段の導入検討

2.バスの利便性向上

施策1 バスの利便性向上

これまでの取組

有識者や市民を交え地域の実情に即したサービスを実現するための協議・検討会を実施してきました。

めざす姿

JR草津線への接続が確保され、他の交通手段と分担しながら利用しやすいサービスが提供され、利用者が増加し、満足度が高まっています。



実施方針

- 企業連携や市民ニーズ、地域づくりの動向に基づくサービス改善によるコミュニティバスの利用促進

施策2 モビリティ・マネジメントの推進

これまでの取組

交通事業者と連携し、バスを使った乗降体験や利用マナーなどの交通環境学習を湖南市内の小学校で実施してきました。

めざす姿

バスの利用に親しむ人が増え、公共交通全体の利用者が増加しています。



実施方針

- 地域モビリティ・マネジメント（地域を過度に自動車に頼る状態から公共交通や歩行などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態へと少しずつ変えていく一連の取組）の推進

3.駅周辺のまちづくり

施策1

3 駅周辺のまちづくりの推進



これまでの取組

立地適正化計画に基づく届出制度により、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通などのさまざまな都市機能の誘導を行ってきました。

また、JR草津線3駅のバリアフリー化、石部駅自由通路の整備、三雲駅周辺のインフラ整備を推進してきました。

めざす姿

公共交通と併せて3駅周辺の利便性が高まると共に、駅の周辺に憩いの場や都市機能の立地が進み、賑わいが感じられます。

実施方針

- 都市機能の集約化などコンパクトなまちづくりの推進
- 駅口一帯一一周辺における環境整備の促進
- 地域特性に応じた駅周辺の賑わいの創出

4. 計画的な市街地・住環境整備

施策1 都市計画の推進と市街地の整備

これまでの取組

湖南市都市計画マスター プランに基づき、生活 の利便性を向上させる土 地利用を推進すると共 に、人口減少社会を見据 え、湖南市立地適正化計 画に基づく都市機能の集 約化を推進してきました。

めざす姿

人口減少社会に対応し た持続可能なまちづくり を基本としつつ、利便性 が確保され、快適で魅 力的なまちづくりが進めら れています。



実施方針

- 防災対応、ユニバーサルデザイン（すべての人が使いやすいように環境やサービスなどをデザインすること）に配慮した公共施設の整備充実
- 立地特性を生かした民間活力誘導の促進

施策2 良好的な景観の形成

これまでの取組

景観法に基づく届出行 為の審査や協議を通じて 良好的な景観の形成を推進 してきました。景観重点 地区では、ボランティア や住民との協働により良 好な景観の形成に取り組 んできました。広報こな んに景観に関する特集記 事を掲載し、景観形成の 意識の醸成を図ってきま した。

めざす姿

自然や歴史を感じる優 れた景観資源を生かした 湖南市らしい良好な景観 が市民・事業者・行政の協 働により形成されてお り、地域の魅力が高まっ ています。



実施方針

- 景観づくりの情報提供 など意識啓発の促進
- 重点地区を中心とした 市民主体の景観づくり 活動への支援
- 景観に配慮した公共施 設の整備

施策3

住環境の整備・地籍調査の実施



これまでの取組

地域の特性を踏まえつつ各種の都市計画制度や民間開発の誘導、地籍調査の推進などに取り組み、市民にとって住みやすい良好なまちづくりを推進してきました。

めざす姿

湖南市の発展に資する開発の適正な誘導、将来を見据えた都市計画制度の計画的な活用により、地域の特性に応じた住みよい良好なまちづくりが進められています。

実施方針

- 地区計画や都市計画提案制度などの地域の特性・意向を踏まえた創意ある市街地形成
- 生活環境などに配慮した住宅開発の推進
- 地域連携による地籍調査の推進
- 適切な開発誘導の推進

施策4

住宅環境の改善



これまでの取組

地震による建築物の倒壊などの被害から市民の生命・財産を守るために、木造住宅耐震診断の実施や制度の周知など住宅耐震化率の向上に取り組んできました。

また、市営住宅については、湖南市市営住宅整備計画および湖南市公営住宅等長寿命化計画に基づき市営住宅の長寿命化に取り組んできました。

めざす姿

住宅の耐震性が高まり、地震に対する安全性が高まっています。さまざまな事情で住宅の確保に困窮する市民への支援が整い、住宅セーフティネットが確保されています。

実施方針

- 住宅耐震診断・耐震改修の啓発・支援
- 住宅の健康被害に関する情報提供と相談体制の充実
- 高齢化社会に対応した公営住宅のユニバーサルデザイン化の推進
- 市営住宅の長寿命化・個別改善・建替え
- 市民の安全を脅かす構築物の撤去への支援

施策5**空き家対策の推進****これまでの取組**

空き家サポートセンター「あきやナクス」を拠点として相談窓口の一元化、発生予防啓発や管理サポートなどの空き家の適正管理を推進してきました。

めざす姿

空き家の適正管理と利活用が進み、周辺の生活環境に悪影響を及ぼす可能性のある空き家は減少しています。

実施方針

- 空き家の適正管理および利活用の促進
- 管理不全空家（適切に管理されていないために将来的に周囲へ悪影響を及ぼす可能性のある空家）・特定空家（空家のまま放置され、倒壊の危険や衛生上の有害など周囲へ悪影響を与える状態にあると自治体から認定された空家）に対する法に基づく助言・指導

施策6**火葬場の整備、靈園・墓地の適正管理****これまでの取組**

市営火葬場では適切な市民サービスを行うと共に、ペットなどについても個別火葬を行うサービスを展開してきました。

めざす姿

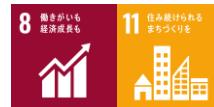
火葬場の受入設備の定期的な保守点検、計画的な更新・維持修繕が着実に行われており、需要のニーズ変化にも対応がでています。

実施方針

- 需要に対応したサービスの向上
- 火葬場の整備、靈園・墓地の適正管理

5.企業立地の促進

施策1 魅力的な企業の誘致



これまでの取組

名神高速道路栗東湖南IC開通や国道1号整備による広域交通の利便性の高さに企業の注目が集まっており、就職説明会を開催するなど人財育成・確保の支援を実施してきました。

また、商工会と連携し、新規創業者の育成、伴走型での支援を実施してきました。

めざす姿

多様化する就労ニーズやDX（あらゆる分野でデジタル技術を活用し、地域や社会の課題を解決すること）に対応しながら、さまざまな魅力的な企業が経済活動を展開されています。

実施方針

- 企業誘致および創業支援制度の充実
- 用地確保などの産業立地の支援

施策2 産業の魅力化・シティセールス



これまでの取組

旧東海道沿いの酒蔵や正藍染・近江木綿、近江下田焼、近江一閑張などの工芸品があり、関係団体と連携して各種の展示・商談会や販売促進の機会を提供し、地場産業を含む情報発信などを支援してきました。

めざす姿

湖南市の風土に根付いた地場産業の魅力が広く伝わり、新たな魅力を兼ね備えた地域産品が開発され、地域では産地形成に向けた活動が展開されています。

実施方針

- 地場産業の情報発信支援
- 新たな特産品づくりと産地形成の支援

6.企業、大学、行政による連携機会の創出

施策1 産学官連携の推進



これまでの取組

工業会が実施する産官交流会と連携し、企業と行政の共創について理解を深めてきました。商工会との連携による創業塾を開催し、受講者のフォローアップと新規創業者の育成、伴走型での支援を実施してきました。

めざす姿

企業、大学などの研究機関と連携し、産業の活性化や地域課題の解決に向けたまちづくり活動が展開されています。

実施方針

- 企業、大学などとの産学官連携および異業種連携の機会創出

7. 産官学金労言士によるまちづくりの推進

施策1

産官学金労言士の連携による地域活性化



これまでの取組

健康づくりに関する課題においては、健康状態の可視化の仕組み・運動・食に強みを持つ企業、大学と連携協定を締結し、取組を行ってきました。

めざす姿

企業、大学などの研究機関に加え金融機関（資金調達）、ハローワーク（労働力確保）、メディア（広報・プロモーション）、士業（経営・法務）と連携し、それぞれの得意分野を生かした強力な体制が整備されています。

実施方針

- 産官学金労言士（産業界、行政機関、学界、金融機関、労働組合、言論界、士業）の連携体制の構築

施策2

社会実験・先導的モデルの実施



これまでの取組

公共交通に関する課題においては、デマンドタクシーの実証実験などを行ってきました。

めざす姿

企業、大学などとの連携により、公共交通などの地域課題を解決するための社会実験や先導的モデル事業が展開され、地域が活性化されています。

実施方針

- 地域課題の解決に向けた社会実験の実施

8.道路網・河川の整備

施策1 幹線道路の整備と管理

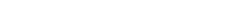
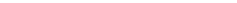
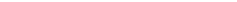
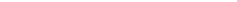
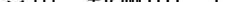
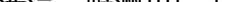
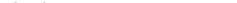
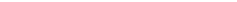
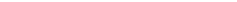
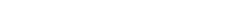
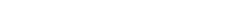
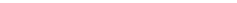
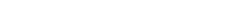
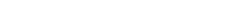
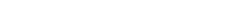
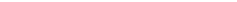
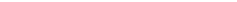
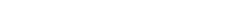
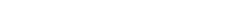
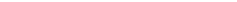
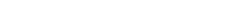
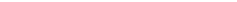
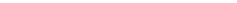
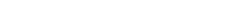
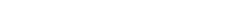
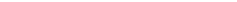
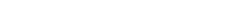
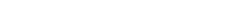
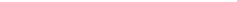
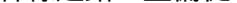
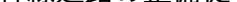
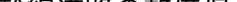
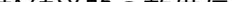
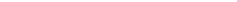
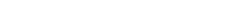
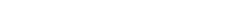
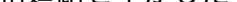
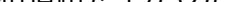
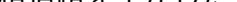
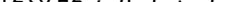
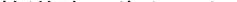
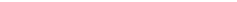
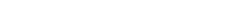
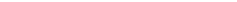
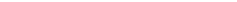
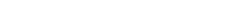
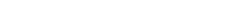
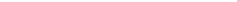
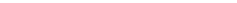
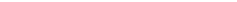
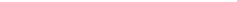
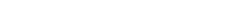
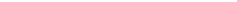
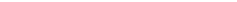
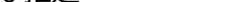
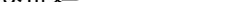
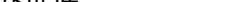
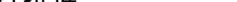
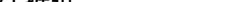
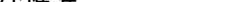
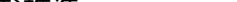
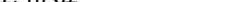
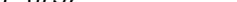
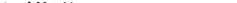
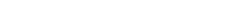
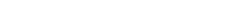
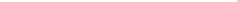
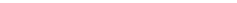
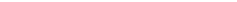
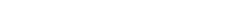
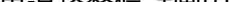
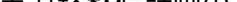
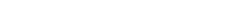
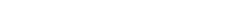
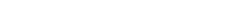
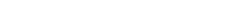
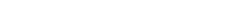
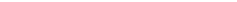
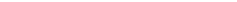
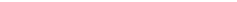
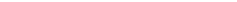
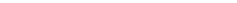
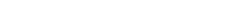
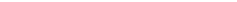
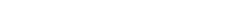
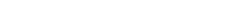
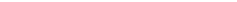
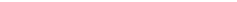
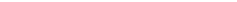
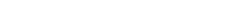
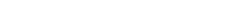
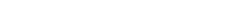
これまでの取組

国道1号などの高規格道路の整備により、市内の交通が大きく変化しており、安全で快適な交通体系確立に向けて滋賀県道路整備アクションプログラムとの整合を図りながら湖南市道路整備計画を推進してきました。

橋梁長寿命化修繕計画に基づく5年サイクルでの定期点検実施により、維持管理を推進してきました。

めざす姿

湖南市全体の体系的かつ将来を見据えた道路ネットワークの形成に向け、計画的に幹線道路の整備が進められています。橋りょうの定期点検と長寿命化修繕が計画的に進められ、ライフサイクルコストの縮減や安全性が確保されています。



施策3 河川の整備



これまでの取組

国・県に対し野洲川の国直轄化の要望活動を行いました。また、野洲川の浚渫（しゅんせつ）工事は、県が計画的に実施しています。

落合川・大砂川の天井川の平地化を県に要望しており、落合川は平地化が事業化される見通しです。

めざす姿

国・県と連携し、未整備箇所の整備が着実に進み、災害リスクが低減しています。

実施方針

- 国・県への的確な要望活動による一級河川野洲川の整備促進
- 天井川や普通河川の水害未然防止のための適切な改修整備

9. 農林業の振興

施策1 農業の基盤整備と多面的機能の理解促進



これまでの取組

湖南市の農業振興地域においては、区画の整った優良な田園風景が形成されており、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策をはじめとする農地の有する多面的機能の発揮に向けた取組を推進してきました。

めざす姿

生産基盤の長寿命化、計画的な修繕が行われ、担い手農家による魅力ある農業が展開されています。

農業・農村が有する水災害防止や環境調節などの公益的機能への理解が広がり、優良な農地が保全されています。

実施方針

- 生産基盤の整備および維持管理
- 自然と共生する魅力ある農業の推進
- 地域農業の担い手の育成支援
- 農業の有する多面的機能の維持に関する支援

施策2 多様な農業の推進



これまでの取組

効率的かつ安定的な農業生産と収益性のある経営を進めるため、地域の農業を担う経営体としての農家への農地の集積および集約、集落営農の法人化を推進してきました。

めざす姿

地域農業を担う経営体への農地の集約が進むと共に、生産コストの低減が図られ農業経営の基盤が強化されています。

特産品のブランド力向上や農福連携（農業と障がいのある人の就労による掛け合せ）が進むなど農業の持続可能性が高まっています。

実施方針

- 土地利用調整、優良農地の集積、営農活動の協業化など複合生産体制の確立
- 農業経営体の経営安定および発展支援
- 中間管理事業（農地中間管理機構が農地を貸したい農家から農地を借り受け、地域計画の目標地図に基づき、担い手に貸し付けることで農地の集積・集約化を図ること）による担い手への農地利用の集積の推進
- 市内農業関連資源の連携促進と多様な農業ビジネス創出支援

施策3

みらい公園湖南の利用促進



これまでの取組

「ここぴあ」および「HAT」において市内産品の直売や収穫体験事業、各種イベントなどを実施し、市内産品の購入や人と人の交流の機会を創出してきました。

めざす姿

市内農業者によるここぴあの活用機会が増加し、「ここぴあ」を核に市内農業の連携が活発化しています。また、「HAT」での飲食やイベント、体験を通じて湖南市の魅力が地域内外に発信されています。

実施方針

- 体験型農園の活用と市内農業関連資源の連携による地域農業への関心促進
- 市内農業関連資源の連携による特色ある商品の開発支援・情報発信の促進
- 地産地消の推進

施策4

林業の振興



これまでの取組

湖南市が管理する林道の補修や復旧などの必要な維持・改修を行って森林環境譲与税を活用し、地域団体や施設森林組合への支援を実施してきました。県や施設森林組合と連携しながら、計画的に間伐・造林を進めてきました。

琵琶湖森林づくりパートナー協定を締結し、企業の従業員などと地元森林所有者が協働で森林整備を進めてきました。

めざす姿

さまざまな形で森林に关心を持ち、関わる市民や企業が増加し、森林資源の有効活用が進んでいます。林道の補修や森林境界の明確化など林業振興の基本的な条件が整い、林業の担い手の確保・育成、森林の集約化が進んでいます。

実施方針

- 林道の適切な維持管理
- 林業の担い手の確保・支援
- 公共施設への地域材の活用および周知
- カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）などの多角的な林業振興施策の展開
- 放置林対策としての森林境界の明確化
- 森林レクリエーションの振興
- 琵琶湖森林づくりパートナー協定の推進

施策5 総合的な獣害への対策



これまでの取組

甲賀地域獣害対策協議会では罠の購入、獣害対策に関する研修、狩猟免許取得費の補助を行ってきました。

めざす姿

被害状況の見える化が進み、防除方法の情報発信、研修の機会の充実により、市民が主役となつて防除を行う体制が整っています。

関係機関と連携した啓発が行われ、地域全体で獣害に対する意識が高くなっています。

実施方針

- 地域全体での持続可能な管理体制の構築
- 防除体制と被害状況把握の強化
- 地域・関係機関と連携した獣害対策

10.工業の振興

施策1 魅力ある工業の推進



これまでの取組

湖南市の工業は、名神高速道路の開通以来、県下最大級の湖南工業団地を中心に企業が進出し地域経済を支えています。

また、湖南市商工会、湖南工業団地協会、湖南市工業会などの各種関係機関との連携のもと、多様化する消費動向に対応したものづくりを支援してきました。

めざす姿

産学官の幅広い連携のもと、新商品開発・新技術開発・環境対応が進み、競争力のある成長産業が育成されています。

実施方針

- 各種関係機関・各企業との連携強化
- 工業振興支援の充実
- 新たな産業団地などの計画の推進
- 環境マネジメントシステムの認証取得への情報提供と支援
- 環境調和型産業の育成支援
- 景観形成や緑地の確保への支援

施策2 ものづくり産業の人財確保



これまでの取組

栗東湖南IC開通や国道1号整備による道路網の充実などのポテンシャルに企業の注目が高まっており、新たな産業用地の確保などを進めています。

めざす姿

魅力的な職場、安定した雇用構造が構築され、企業が求める優秀な人財が育成・確保されています。

実施方針

- 人財育成・雇用の確保支援

11.商業の振興

施策1 魅力ある商業の推進

これまでの取組

既存の商店街や新規参入した大型店舗など、それぞれ商業形態の特性を踏まえ、湖南市商工会などの関係団体と連携して「こなん商品券」を発行し、地域内循環を図るなど、商業の振興に取り組んできました。

めざす姿

地域、商業者、関係機関との協働により、専門性と個性あふれる魅力ある商業振興を構想・計画し、市民にとって便利で快適な買い物環境が提供されています。



実施方針

- 地域性に応じた土地利用の誘導
- 商業・サービス機能の集積・充実
- 地元商業団体との連携・支援
- 地域商品券や電子マネーポイントなどによる地域振興の推進

施策2 地域特性を生かした賑わいづくり

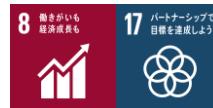
これまでの取組

小規模事業者への助成金などの申請支援や商店街組織への支援を行ってきました。

また、ふるさと納税制度を活用した販路開拓を推進してきました。

めざす姿

関係者主体による支援体制によって若者のチャレンジや創業しやすい環境が整い、新規参入する事業者が増加し、大型店と共に存を図りながら既存商店街が活気づいています。



実施方針

- 地域特性を生かした商店街や沿道まちづくりへの支援
- 小規模事業者持続化および新規創業事業者への支援
- 事業承継、人財育成の支援
- 空き店舗や空き家の商業利用の推進

施策3 買い物弱者対策の推進



これまでの取組

高齢化が進む中、交通手段の確保と共に、身近な地域の商店街の振興を図り、地域の買い物の利便性の確保を図ってきました。

めざす姿

商店街や商業者と連携し、移動販売や移動支援の取組が増え、買い物に関する利便性が確保されています。

実施方針

- 事業者との連携による買い物しやすい環境づくり

12. 観光の振興

施策1 地域資源を生かした観光・交流の創出



これまでの取組

湖南市には、国宝の建物を持つ湖南三山をはじめとする数多くの歴史文化遺産や「平松のウツクシマツ自生地」などの自然遺産、各種のイベントや伝統工芸など、多彩な観光資源があります。三大まつりへの参画、インバウンド向けに京都の宿泊施設などに設置する多言語版の観光パンフレットを作成し、誘客を推進してきました。

めざす姿

市民・事業者などが積極的に観光産業に参画し、市内外へ魅力を推奨したくなる仕組みが整うことで、各観光資源などに関わる人が増加し、観光客の滞在時間および観光収入が増加しています。

実施方針

- 市民、地域、関係団体との協働による観光資源の発掘、イベントの推進
- 体験型観光の推進
- 官民連携による宿泊施設の充実
- 観光ボランティアなどの観光資源に関わる人財の育成
- 特產品・地場産品振興の推進
- 伝統工芸の復興支援

施策2 観光情報の一元化・情報発信の促進



これまでの取組

観光協会が主体となり、イベントや四季などに応じた観光パンフレットの作成や湖南市ホームページ・湖南市公式ソーシャルメディア・観光アプリを通して情報発信を行ってきました。

また、都市圏の情報発信拠点でのパンフレットの設置や特産品販売を行ってきました。

めざす姿

観光情報の情報発信媒体が一元化されており、多様な手法を用いた効果的なシティセールス活動が行われ、観光地としての認知度が広がっています。

実施方針

- 観光情報の一元化
- 公共施設や各団体と連携した地域固有の観光情報発信の強化
- 湖南市ホームページ・湖南市ソーシャルメディア・観光アプリなどインターネット媒体の活用
- 外国人観光客受入れのための情報環境の整備
- 市内および都市圏の観光情報の発信拠点の活用
- 市内で開催されるイベントなどの情報発信支援

施策3

観光ルートの整備



これまでの取組

観光協会が主体となり、観光客の受入れ態勢の充実のため、地域や観光協会などとの協働で観光資源の周辺環境の整備を進めてきました。

また、市内全域を観光地としたモデルコースの設定、観光案内看板の整備と共に、ハイキングマップなどを作成し、観光案内施設などに配置していました。

めざす姿

観光地の動線や世代を意識した見どころなどを分析し、多様な観光客それぞれの目線に合わせた観光ルートが設定され、観光客の満足度が高まっています。

実施方針

- 十二坊温泉ゆらら、湖南三山を核とした歴史文化遺産をつなぐ観光モデルコースの整備
- 市内3駅を中心とした観光アクセスの充実
- 広域観光の連携体制の強化

13.雇用の促進と勤労者福祉の充実

施策1 就労支援・人財確保の推進

これまでの取組

情報サイトの企業ガイドや情報冊子により、市内のものづくり産業を知る機会を増やすと共に、企業説明会を甲賀市と合同で行い、就職の機会を提供してきました。

また、求職者の資格取得支援により就労を推進してきました。

施策2 多様な働き方の推進

これまでの取組

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少が進む中、働く人がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できるよう、ビジネススキルアップの講座の開催や専門機関による研修の情報提供などを通じて、就業につながる支援を実施してきました。

めざす姿

市内の求職者に対する市内の企業情報の提供や合同企業説明会の開催などにより、求職者と求人企業のマッチングが円滑に行われています。

実施方針

- 市内企業の情報発信の支援
- 合同企業説明会の開催
- 企業と教育機関のマッチング支援
- キャリア教育や資格取得の支援



施策3

勤労者福祉の充実



これまでの取組

勤労者福祉施設を中心
に、市民や勤労者の交流
を促進すると共に、サー
クル活動の場所の提供や
教養講座などを開催して
きました。

また、中小企業に対し
ては、一般社団法人 甲
賀湖南中小企業福利サー
ビスセンターが福利厚生
を支援してきました。

めざす姿

働く人の福利厚生が充
実し、快適な労働環境が
整うことにより、社会参
画、青少年の健全な育成、
女性の自立および労働生
産性の向上につながって
います。

実施方針

- 福利厚生事業、労働環
境整備の推進

4

ほっとする暮らしを つくろう

～こどもが主役の、
生涯健康で安心に暮らせるまちづくり～

湖南市みらいものがたり - Episode4 -

「ここなら安心して子育てができる」

5年前、拓也(たくや)は期待を胸に妻の美咲(みさき)、義母の澄江(すみえ)と共に湖南市へ越してきた。

評判は耳にしていた。湖南市が「発達支援システム(関係機関が連携して乳幼児期から就労まで切れ目なく支援する障がい福祉の中核を担う仕組み)など福祉の先進地で、地域の人たちが親身になってくれるまち」だと。

実際に息子の陽翔(はると)が生まれたとき、産後ケアの保健師さんがまるで家族のように寄り添ってくれたのを、拓也たちは忘れられずにいる。

「市民笑顔率世界一!」SNSで広がる評判に誘われ、移住してくる家族も増えていた。拓也たちも「こなんこども広場」で、同年代の親たちと子育ての喜びと悩みを分かち合いながら心を通わせている。

澄江も地域サロン「まんまる」で心寄せ合う仲間と、このまちの今とこれからを語りあっている。

—10年後

陽翔は小学五年生。

窓の外の建物を指さしながら「ボク、将来は建築士になろうかな!」と声をはずませる。

澄江は「まんまる」で手芸講座を開き、友と笑顔を紡ぎ合う。

拓也と美咲も地域のさまざまな困り事を解決するボランティア活動に携わり、地域に根を張り暮らしている。

夢を語り、支えあい、心に余裕を持って過ごす日々。

このまちには、だれもが実感できる安心とつながりが息づいている。

※この物語は、第三次湖南市総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。
実在の人物や団体などとは関係ありません。

1. 子育て環境の充実

施策1

安心できる出産と子どもの成長への支援



これまでの取組

妊婦や産婦・保護者と出会う機会では、相手の話を傾聴し、不安軽減を図り、保護者らと子どもたちが健康に過ごせるよう取り組んできました。

また、妊婦のための支援給付金やこなんママパパ子育て応援クーポン券を交付し、経済的負担の軽減を図ってきました。

めざす姿

保護者と子どもたちの健康を保持するための支援と共に、子どもが健やかに成長できるよう切れ目のない支援が行われ、乳幼児期から望ましい生活習慣が定着しています。

さまざまな給付金や助成金制度があり、経済的にも安心して子どもを産み育てられるようになっています。

実施方針

- 保護者と子どもたちの健康保持・増進、疾病の予防・早期発見への支援の充実
- 健診など助成制度の充実
- 発達段階に応じた生活習慣の指導・情報提供の推進

施策2

地域の支えあいによる支援の充実



これまでの取組

つどいの広場事業で相談や支援、保護者の情報交換の場を提供し、子育て支援講座も行ってきました。

子ども食堂や夏休みの子ども居場所事業などの活動を支援してきました。

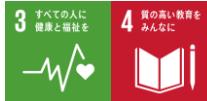
めざす姿

地域全体で子育てを支える環境が整い、子どもたちが健やかに育ち、子育て家庭が安心して暮らしています。

地域の中に、小学生から高校生まで幅広い年代の子どもや若者の居場所があります。

実施方針

- 子育てを支援する地域の担い手育成やボランティアなどの自主的な活動の支援
- 地域全体での子育て支援機能の強化
- 地域が中心となった子どもの居場所づくりの支援および子どもの居場所ネットワークの構築
- 地域の自主的な子育て支援活動の交流・連携による子育て応援ネットワークの構築

施策3**保育サービスの充実・就学前教育の充実****これまでの取組**

市内の保育士などの資質向上を図るため、保育士キャリアアップ事業や保育士研修を実施してきました。

また、医療機関と連携して病児・病後児保育室を運営してきました。

めざす姿

園および学校が連携し、こどもの安全と質の高い保育サービスが提供され、保育ニーズの把握や広域連携により、市民の利便性が向上しています。

実施方針

- 質の高い教育・保育サービスの提供
- 園・学校との連携による就学前教育の充実
- 関係機関と連携した病児・病後児保育の推進
- 豊かな心を育む保育の推進
- 施設・設備・遊具の整備および安心・安全な環境整備
- 家庭支援推進保育事業による人権・同和保育の推進
- 教育・保育の一体的な提供のための認定こども園の普及

施策4**学童保育の充実****これまでの取組**

小学校区ごとに公設民営、民設民営の学童保育所が設置、運営されてきました。

めざす姿

利用者の多様化したニーズに即して柔軟な運営が行われ、施設の機能強化や指導員の確保・資質向上により、児童が安全かつ安心して過ごせる環境が整っています。

実施方針

- 運営体制の整備や受入れ態勢の充実
- 学校施設などを活用した受け皿の確保・環境整備
- 指導員の指導力・資質向上の推進

2. 教育環境の充実

施策1 「楽しくて力のつく湖南市教育」の実現



これまでの取組

社会の変化、子どもの生活の変容に配慮し、各学校や園で特色ある教育活動を行ってきました。また、湖南市子どもの学びづくりプロジェクトの実践により、子どもの学力保障を支えてきました。

家庭学習や自主学習の習慣の確立が必要な児童に対し、放課後に居場所や学ぶ場所を提供するため、らくらく勉強会が運営されてきました。

めざす姿

市内全ての学校で、湖南市子どもの学びづくりプロジェクトが展開され、地域と学校が連携し、放課後の居場所が確保されています。

実施方針

- 発達段階に応じた経験や活動、異年齢間の交流促進
- 健やかな心身と豊かな人間性、生きる力の育成
- 湖南市子どもの学びづくりプロジェクトの実践
- 教職員の専門性の向上、若手・中堅教員の資質の向上に向けた取組の推進
- 家庭学習支援システムの構築

施策2 教育環境の充実

これまでの取組

バリアフリー化やユニバーサルデザイン（すべての人が使いやすいように環境やサービスなどをデザインすること）を推進し、トイレの洋式化など学校施設の機能向上を図ってきました。

また、1人1台端末の整備と同時に安定的なネットワーク環境の実現に向けて、校内LAN（教室などにインターネットをつなぐこと）を構築するなど、取組を進めてきました。

食育を推進し、園・学校へ安心・安全な給食を提供してきました。

めざす姿

校舎など施設の老朽化対策、安全確保などを実施し、安心して学ぶことができる環境となっています。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られています。

実施方針

- 安心・安全な施設環境の提供
- 1人1台端末環境の充実
- 食育の推進と安心で栄養バランスの取れた給食の提供
- 支援活動の交流・連携による子育て応援ネットワークの構築



施策3**外国人児童生徒への日本語教育支援の充実****これまでの取組**

学校に通訳や母語支援員を配置すると共に、夏季休業中は教職員や通訳、ボランティアと連携して学習支援を行ってきました。

また、外国人児童生徒の就学・居住実態を把握し、保護者に対し制度やサービスについての適正な情報提供をしてきました。

めざす姿

通訳や母語支援員の配置、支援体制の充実により、外国人児童生徒はきめ細かな支援を受けています。

学校や国際協会などの関係機関が連携することで、外国人児童生徒が学校生活に適応し、日本のこどもたちと共に成長しています。

実施方針

- 日本語教室の充実
- 日本語初期指導教室の有効活用など支援の充実
- 通訳、母語支援員や翻訳機器の配置の充実
- 学習支援や相談の場としての子育て支援事業の充実
- 実態調査の実施による適切な情報提供

施策4**児童生徒への支援・相談体制の充実****これまでの取組**

子どもの問題行動や行き渋り・不登校に対して、巡回相談の活用やスクールソーシャルワーカーの配置、湖南市教育相談室との連携などにより、きめ細かに対応してきました。

めざす姿

複雑な要因によって起こる問題行動、虐待件数の増加など、児童生徒のさまざまな問題・課題に対して学校や関係機関による一人一人のケースに応じた適切な支援や相談対応が実施されています。

実施方針

- 一人一人のケースに応じたきめ細かな相談・指導体制の充実
- 巡回相談による早期相談と湖南市教育相談室による相談対応の充実
- スクールソーシャルワーカー（児童や生徒を取り巻く環境に働きかけることによりこどもたちが抱える問題の解決支援を行う専門職）の配置による支援の充実
- こども家庭センター、園・学校などの相談体制の充実、関係機関との連携強化

施策5 家庭・地域との連携と協働



これまでの取組

小中学校全てに設置している学校運営協議会や地域学校協働本部との連携のもと、家庭や地域の協働と参画による地域の特色を生かした新しい公共型の学校づくりや教育活動に取り組んできました。

めざす姿

学校運営協議会や地域学校協働本部の熟議の質が高まり、家庭と地域の協働と参画による地域の特色を生かした教育活動が展開されています。

実施方針

- 学校や園への地域住民の参画による開かれた環境づくり
- 全小中学校へのコミュニティスクール（地域と一緒に特徴ある学校づくりに取り組むことが可能になる制度（学校運営協議会制度））導入に向けた体制の確立
- 学校内・周辺のパトロールなどの強化
- 通報機器や防犯用具などの整備や充実
- 児童生徒への安全教育の充実
- 地域ぐるみの支援体制の推進
- 家庭・地域・学校・関係機関の連携体制による非行防止活動の推進
- 青少年育成団体の活動支援
- SNSなどの情報犯罪防止活動の推進
- 有害図書などの販売の指導

3. 子育て世代、若い世代への支援

施策1 こどもの遊び場の整備



これまでの取組

市民の意向や公園の状況を踏まえ、湖南市公園等ストック再編基本計画を策定し、今後の公園の再編方針を示しており、こどもが安全に遊ぶことができる公園・広場の整備を進めてきました。

めざす姿

さまざまな遊びを体験し、保護者同士の交流や相談の場となる遊び場が身近にあります。

天候に左右されず遊びや体験の機会を確保でき、こどもや子育て当事者の目線に立った包摂的な遊び場があります。

実施方針

- 身近な遊び場の確保
- 全天候型遊び場施設の整備

施策2 児童虐待防止への取組の推進



これまでの取組

児童虐待については、湖南市要保護児童対策地域協議会で支援の方向性を確認してきました。

また、毎年11月の児童虐待防止推進月間には広報や街頭啓発を実施してきました。

めざす姿

虐待の予防や早期発見ができるよう、主任児童委員や周辺住民、関係機関の連携による見守り体制が整っています。

実施方針

- 市民への啓発や関係機関との連携による虐待の早期発見の促進
- 育児の孤立化防止のための相談体制や訪問および交流事業による虐待予防の推進
- 虐待をした保護者への指導と、虐待を受けた児童の保護体制の充実
- 周辺住民や関係機関への早期通告の啓発

施策3

経済的負担の軽減とひとり親家庭への支援



これまでの取組

経済的に困窮する子育て世帯に対して、就学援助費の支給や奨学資金を給付し、ひとり親家庭に対しては、経済的な支援と就業支援と共に相談・情報提供体制を整えてきました。

めざす姿

学校をはじめ関係機関と連携することで、必要な人に支援が届き、ひとり親家庭の経済的負担の解消に向けて、自立に向けた支援など多方面からサポートが実施されています。

実施方針

- 保育・教育・医療などの支援制度の充実
- 教育の支援制度の充実
- 個別の事情に配慮した支援の充実・強化

4. 発達支援システム・特別支援教育の推進

施策1

発達支援システム（チャレンジサポート）の充実



これまでの取組

支援の必要な人に対し乳幼児期から学齢期、就労期まで、保健・福祉・医療・教育および就労の関係機関が連携して支援を行う「湖南省発達支援システム（チャレンジサポート）」により、継続的な支援を推進してきました。

また、巡回相談員が保育園と小中学校に出向き、保育・授業を参観し、障がいのある子どもの適切な配慮や支援についての相談・検討・研修を行ってきました。

めざす姿

保護者などが発達障がいの特性を理解し、必要な知識や方法を身につけ、適切な対応ができる支援体制が充実しています。

自律した生活に向けた支援が必要なケースにも対応できるよう発達支援システム（チャレンジサポート）が充実しています。

実施方針

- 研修機会の充実による教職員・保育士などの発達特性への理解促進と資質向上
- 家庭・校園・児童発達支援センター・子ども家庭総合センターなど関係機関との連携強化による支援の充実
- 発達障がいに対する正しい理解の啓発と研修の実施、湖南省発達支援システム（チャレンジサポート）の普及

施策2

特別支援教育の推進



これまでの取組

「湖南省発達支援システム」の一環として特別支援教育の推進体制を強化しつつ、個別対応や教育的ニーズの把握、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・実践・評価をもとに支援を行ってきました。

めざす姿

学齢調整会議や個別ケース会議、ITネットワーク「KIDS」の活用などにより関係機関との連携を強化し、不登校の未然防止や合理的配慮の視点に立った個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成・活用の充実を図っています。

実施方針

- 関係機関との連携による「湖南省発達支援システム（チャレンジサポート）」を活用した効果的・継続的な支援
- 専門家による巡回相談の活用と職員研修の充実
- 湖南省教育相談室やことばの教室における取組の充実
- 関係機関や学校・園との連携による就学支援の充実
- 包摂的な教育システムの構築

施策3

つまずきのある子どもの多様な居場所・学びの場の確保



これまでの取組

障がいのある子どもたちの放課後の居場所として、放課後等デイサービスの利用により学校教育と相まって障がいのある子どもの自立を促進してきました。

また、放課後や休日の居場所のひとつとして、日中一時支援事業を行ってきました。

めざす姿

つまずきのある子どもにとって安心して過ごすことのできる居場所、学ぶことのできる場所が確保されています。

実施方針

- つまずきのある子どもが安心して過ごすことのできる居場所づくり

5. 高齢者福祉の充実

施策1 地域ネットワーク体制の確立

これまでの取組

いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の見守りや支援ができる地域体制の整備、支え合いを推進してきました。

また、重層的支援体制の整備にも取り組んできました。

めざす姿

高齢者の見守りや支援ができる地域のネットワーク体制が整っています。



実施方針

- 地域包括ケアシステム（地域の実情に応じた医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制）の構築の推進
- 市民・地域・行政の協働による見守りや支援ができる地域体制の整備
- 高齢者の権利擁護や虐待防止ネットワークの構築

施策2 生きがい支援の充実

これまでの取組

高齢者が孤立することなく、身近なところで気軽に集い、交流できる自主活動支援や各種教室などを実施してきました。

めざす姿

高齢者の社会参加が、社会活動のステージごとに途切れることなく継続しています。また、世代間交流が活発化し、相互理解、人格形成や生きがいなどが創出されています。



実施方針

- 生きがいづくりの輪を広げる地域福祉の推進
- 高齢者や多世代が参加しやすい事業の促進
- 高齢者の経験・得意分野を生かし活躍できる地域づくりの推進
- 地域リーダーの育成の推進

施策3 介護予防の推進



これまでの取組

運動の場だけでなくコミュニケーションや地域参画として重要な場である安心応援ハウスなど、身近な地域での交流活動に取り組んできました。

めざす姿

介護予防の取組が検証され、圏域ごとにより効果的な介護予防の推進や自立支援のための体制が整っています。また、地域ボランティアなどを活用した高齢者福祉事業が充実しています。

実施方針

- フレイル予防(栄養、体力、社会参加を主として要介護状態の予防と健康寿命延伸を図ること)などの早期対応も含めた健康講座などによる啓発活動の推進
- 地域包括支援センターの体制強化
- 高齢者が継続的に取り組むための手軽で身近な介護予防事業の充実
- 生活支援を必要とする高齢者や介護者に対するサービスの整備
- 予防給付などによる要支援者の生活機能向上

施策4 介護サービスの充実



これまでの取組

住み慣れた地域での生活を継続できるよう湖南市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、多様なニーズに合った介護サービスを提供してきました。

めざす姿

認知症高齢者を地域で支えるために、市民の認知症への正しい理解が進んでいます。また、介護サービスの充実のため、地域密着型サービスなどの介護サービス、住民主体のサービスの充足や担い手の確保が進んでいます。

実施方針

- 多様なニーズに合った介護サービスの充実
- 介護支援専門員の資質の向上などケアマネジメントの強化
- 介護サービス事業所の質の向上、評価システムの充実
- 認知症の相談サービス・啓発活動・交流の場の充実
- 地域全体で認知症への理解を深めていく取組の強化

6. 障がいのある人への生活支援サービスの充実

施策1 生活支援サービスの充実

これまでの取組

不足している計画相談事業所の確保のため、共同型で事業を行う計画相談事業所の指定、支援を進めてきました。基幹相談支援センターとの連携による計画相談員の研修会を実施し、資質向上を図ってきました。関係機関との連携の上、重度障がいのある人、医療的ケアが必要な人には、より必要な支援が届くようにサービス提供を行ってきました。

めざす姿

サービス提供事業所が増え、地域で多様な暮らし方ができる支援体制が整い、質の高いサービスが提供されています。

必要な支援をアセスメント（評価・分析）するための地域生活支援拠点など事業の利用が進んでいます。

実施方針

- 個別支援計画に基づく適正なサービスの提供
- グループホーム設置などに対する地域の理解促進と住まいの場の確保
- 重度障がいのある人、医療的ケアが必要な人の日中活動場所（通所事業）の確保、充実
- 多様な事態に対応できるサービス提供体制の構築



施策2 安心して移動ができるまちづくり

これまでの取組

地域まちづくり協議会などにおいて、高齢者の移動手段として、住民が担い手となった移動支援が取り組まれてきました。

また、障がい福祉サービスにおいても、移動支援サービスの提供を行いました。

めざす姿

外出機会や外出場所、移動手段などさまざまな場面に応じた取組を官民協働で実施し、移動に対する不安を解消しています。

ボランティアスタッフ、NPOなどの新たな人財・事業所の参入などにより、定期的な外出ニーズに対応しています。

実施方針

- 移動支援事業のサービス内容や新規事業所への参入条件の拡充・支援
- 福祉有償運送事業の利用促進
- 障がいのある人の移動支援の充実

施策3 情報提供・相談体制の充実



これまでの取組

湖南市の窓口では、各障害者手帳交付時に障がい福祉の手引きにより該当する制度について説明を行ってきました。

また、甲賀地域障害児・者サービス調整会議の全体会や各部会から、新たな情報について当事者、事業者向けに発信してきました。

湖南市と事業者が連携した相談支援を行ってきました。

めざす姿

身近なところで相談できる場所があり、公的サービスなどの情報を便利に入手できます。

複合的な課題に対応するため、湖南市や関係機関との連携に基づいた重層的支援体制が構築されています。甲賀地域障害児・者サービス調整会議が、地域課題の把握や問題解決に対して十分に機能しています。

実施方針

- 障がい者虐待防止の啓発・理解促進
- 養護者や施設従事者に対する虐待防止の啓発
- 専門機関と連携した制度の啓発、情報提供の充実
- 相談支援事業所、当事者団体、行政などが連携した相談体制の充実

施策4 障がいに対する理解の促進



これまでの取組

障がいのある人の人権をテーマとした講座を開催し、人権まちづくり会議にて障がいのある人の人権部会と連携し啓発を行ってきました。

障がい者週間における啓発事業に取り組みました。

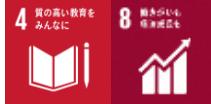
めざす姿

子どもの頃からの学習や障がいのある人と交流する機会の創出、アール・ブリュット作品展示などにより、障がいのある人に対する正しい知識が浸透しています。

実施方針

- 障がいのある人に対する理解を深めるための機会の充実
- 障がいに対する理解のための学習の場づくりやコミュニケーション支援・相談活動の充実
- 障がいのある人のアール・ブリュット作品(独学の作り手などの作品)の展示や、創作活動の支援
- 社会福祉協議会のボランティアセンターを中心としたボランティア活動への支援
- 学校教育および社会教育における交流やボランティア体験などの充実

施策5 就労への支援



これまでの取組

甲賀地域障害児・者サービス調整会議を中心とし、特別支援学校卒業生に向けた福祉事業所の合同説明会を実施しました。

また、ハローワーク甲賀の出先機関であるチャンスワークこなんでは、障がいのある人の就労相談を行うと共に、企業への障がいのある人の雇用に対する理解と雇用を促進してきました。

就労に特化する個別支援会議においては、チャンスワークこなんや働き暮らし応援センターと連携し支援を行いました。

めざす姿

障がいのある人の適性と能力に応じた雇用・就労を推進するため、福祉的就労支援事業所の充実と共に、雇用先の企業の裾野が広がっています。

チャンスワークこなんと連携した一般就労移行時、また移行後のきめ細かな支援により、障がいのある人の安定した就労が継続できています。

実施方針

- 福祉的就労の場の確保
- 福祉的就労支援事業所などに対する業務発注や、製品の積極的購入・活用の推進
- 福祉的就労を支える各事業の充実と、より生きがいに結びつく作業の開拓
- 関係機関の連携強化による就労への継続的な支援
- 障がい者就労情報センターなどの充実による一般就労の促進
- 「チャンスワークこなん」の利用者の拡充

施策6 生涯学習・文化芸術・スポーツ活動の場づくり



これまでの取組

地域においてその人らしい日常生活や、社会生活を営むための相談支援、創作活動・生産活動を行う地域活動支援センター事業を実施してきました。

また、日中一時支援事業では、介護者の負担軽減や休息のためのサービス利用や余暇活動、交流の場としての居場所の提供を行いました。

めざす姿

事業所や人財の充実により、地域活動支援センターの活動などが充実しており、気軽に参加できるスポーツ環境づくりなどによって、スポーツ、レクリエーション活動などを障がいの有無に関わらず共に楽しんでいます。

実施方針

- 企業などとの連携による活動・文化の場づくりの推進
- 障がいのある人のスポーツ団体との連携強化とスポーツイベントの支援
- 移動支援事業による余暇活動のための外出支援
- 外出支援や余暇支援のためのボランティア組織やNPOの育成・支援

7. 健康づくりの推進

施策1 健全な生活習慣の形成



これまでの取組

第3次健康こなん21計画に基づいて、健康寿命の延伸と健康格差の縮小をめざし、地区や分野ごとの健康課題に取り組んできました。

めざす姿

市民一人一人が自らの健康の維持・増進に向け主体的に取り組んでいます。また、多様な機関や団体が連携し、地域全体での健康づくりに取り組み、活動が充実しています。

実施方針

- 市民の自主的な健康づくりの推進
- 「オールこなん」の取組と連携による推進
- 食・運動などの正しい生活習慣の啓発

施策2 健康に関する正しい情報提供



これまでの取組

ホームページ、広報こなんなどのあらゆる媒体を活用した情報発信に加え、各地域では健康だよりの回覧やイベントを通じて健康に関する啓発を行ってきました。

めざす姿

健康に関する知識や各種感染症の流行状況などの最新かつ正しい情報がいつでも入手できるようになっており、気軽に健康相談ができる体制が整っています。

実施方針

- 多様な情報媒体による健康維持・増進および各種感染症の流行状況などの最新かつ正しい情報の発信
- 各地域でのイベントによる定期的な啓発の推進
- 悩みやストレスに関する相談窓口の整備

施策3 疾病予防・早期発見の推進



これまでの取組

広報こなん、ホームページや個別通知などの手段で予防接種などの情報をお伝えしてきました。

また、市民が健（検）診を受けやすい環境を整えると共に、健（検）診後に要医療者に対しては受診勧奨や保健指導を行ってきました。

めざす姿

予防接種の有効性などについて正しい情報が普及し、疾病の早期発見および重症化予防につながる健康診断やがん検診、保健指導を気軽に受けることができます。

実施方針

- 予防接種などの予防事業の啓発・推進
- 医療機関との連携による健康診査・検診体制の整備
- 市民が受診しやすい環境整備の推進
- 健（検）診後の要医療受診勧奨や保健指導の実施
- 各地域でのイベントによる定期的な啓発の推進
- 悩みやストレスに関する相談窓口の整備

8. 医療環境の充実

施策1 地域医療体制の充実



これまでの取組

公立甲賀病院や地域の医療機関が連携し、安心して医療が受けられる環境を整備してきました。

めざす姿

市民が安心して医療サービスを受けることができる、かかりつけ医につながり、地域医療機関の適切な役割分担と機能の相互連携の推進による総合的な医療体制が整っています。

実施方針

- 市外の高度医療機関を含めた地域医療のネットワーク化の推進
- 一次医療から三次医療まで対応できる救急医療体制（患者の緊急性度や重症度に応じて段階的に対応する医療体制）の構築
- 大規模災害に対応できる広域災害救急医療体制の整備
- 人権尊重の視点にたった保健・医療の充実

施策2 地域包括ケアシステムの拡充



これまでの取組

医療と介護サービスが連携し、在宅医療・在宅看取りを行ってきました。

めざす姿

医療や介護、介護予防、住まい、生活支援に加えて、認知症施策など、さまざまな支援を切れ目なく提供する体制（地域包括ケアシステム）が整っています。

実施方針

- 在宅医療との機能連携の強化
- 医療と介護の連携強化
- 在宅医療の充実
- 地域包括ケアシステムの充実

9. 持続可能な地域共生社会の実現

施策1 多様な主体の参画の推進



これまでの取組

ボランティアセンターではボランティア育成事業を実施すると共に、コーディネーターを設置してきました。

めざす姿

介護サービス事業所のほかNPO、協同組合、社会福祉法人、ボランティアなどの市民や各種団体などとの連携・協働により、コミュニティと行政の地域課題の解決に向けた体制が整っています。

実施方針

- コーディネート機能による支援活動の促進
- 情報共有と意見交換の場の確保
- 連携・協力体制の整備

施策2 多様な福祉サービスの提供と事業者などの確保・育成



これまでの取組

事業所を超えた交流会や研修会を実施することで、若手職員の人財定着・育成を進めてきました。

めざす姿

人財確保と定着により、ニーズに応じた福祉サービスの提供体制が整っています。

実施方針

- 多様な福祉サービスの提供と事業者の確保・育成
- 福祉活動を行う人財や関係団体の育成・支援

施策3 人権の尊重とノーマライゼーションの理念の浸透



これまでの取組

甲賀・湖南権利擁護支援センターぱんじーを中心とした権利擁護支援ネットワークを構築し、地域の中核的な機能を発揮できるよう取り組んできました。

めざす姿

個性や違いを認めながら地域社会に参加できる機会や交流の場があり、子育て中の家庭や障がいのある人や高齢者の意思決定が尊重され、安心して生活できる環境が整っています。

実施方針

- 人権の大切さに気づく学習と一人一人の尊厳を大切にした交流の場づくり
- 権利擁護の推進
- 地域総合センターでの地域福祉事業の展開

施策4

ユニバーサルデザインのまちづくりの推進



これまでの取組

だれもが住みたくなる
福祉滋賀のまちづくり条例などに基づき、新築などの申請時に、全ての人の利用に配慮された環境整備を指導してきました。

めざす姿

高齢者や障がいのある人など、だれもがさまざまな公共的な場所を安心・安全かつ快適に利用されています。

実施方針

- だれもが住みたくなる
福祉滋賀のまちづくり
条例に基づく基準を満
たし施設整備を推進
- 利用者の多い公共施
設、交通機関などのユ
ニバーサルデザイン化
の推進

施策5

自立支援・相談体制の強化



これまでの取組

自立支援の相談と共に、関係機関や地域の方からの情報によるアウトリーチ（支援が必要な人々に支援者が積極的に働きかけ、情報や支援を提供する活動）も行ってきました。

また、相談者の状況を的確に把握し、支援調整会議の開催など関係機関との連携のもと課題解決につなげてきました。

めざす姿

相談支援体制が充実し、複合的な課題を抱えた市民に対しては伴走的な支援が行われています。

実施方針

- 相談者の状況に合った
適切な助言やサービス
の提供
- 適切なサービス利用の
ための保健・医療・福祉
の連携強化
- 関係部署との連携によ
る生活支援



施策6 生活困窮者への支援

これまでの取組

複雑多岐に絡んだ困り事を抱えている相談者に対して、庁内および庁外関係部署と連携し、継続的な支援を行ってきました。

めざす姿

関係機関が連携し、困り事を抱えた相談者に対して継続的な支援が実施されています。支援につながりにくい人が、適切な相談窓口につながっています。

実施方針

- 専門職による自立のための伴走的な支援の提供
- 民生委員・児童委員や地域支えあい推進員などの関係機関からの情報収集

10. 危機管理体制の強化

施策1 危機管理体制の整備



これまでの取組

市民の生命・財産を守るために、自然災害・異常気象の頻発・大規模化、感染症の流行など、経験したことがないさまざまな危機の発生に対し、地域防災計画などに基づき住民・地域・行政が一体となった安心・安全なまちづくりを推進してきました。

めざす姿

災害時などに対して、円滑に対応することができる総合的かつ全庁的な危機管理体制が整っています。また、有事に備えた危機管理体制の強化により、必要に応じた応援協定の締結が進んでいます。

実施方針

- 地域防災計画による総合防災の推進
- 国土強靭化地域計画に基づく「起きてはいけない最悪の事態」に備えた体制の構築
- 業務継続計画、危機管理マニュアルによる職員体制の整備
- より効果的な災害時応援協定の拡充
- 危機管理システムのDX化など危機管理体制の充実

施策2 防災体制の充実



これまでの取組

市民の防災意識の高揚のため、消防署・消防団・ふるさと防災チームなどと連携し、総合防災訓練や地域での防災学習などを実施してきました。

また、湖南市メールや防災行政無線などを活用し、緊急情報を即時に伝えてきました。

めざす姿

常時、防災体制や情報伝達手段などの見直し・再構築が行われ最適化されています。

個別避難計画の意義や支援方法などについて、地域住民など関係者の理解が深まっており、災害発生時に福祉避難所が機能するよう、人員や物資に関する体制が平常時から整えられています。

実施方針

- 高度な情報伝達システムの構築
- 甲賀広域消防との連携による消防団・自主防災組織などの地域防災力の強化
- 避難行動要支援者の避難支援体制の構築（地域全体で支えあう防災対策）

施策3 防災施設の整備



これまでの取組

危機への備えのため、各小中学校・まちづくりセンターに防災倉庫を配置し、資機材・食糧などの備蓄と共に災害用井戸の設置、防火水槽・消火栓を整備してきました。

また、災害対策の拠点として東庁舎の新築建替えによる整備を進めています。

めざす姿

災害発生時の対策本部や避難施設となる拠点の防災機能が整っています。

実施方針

- 各地域における防災拠点の整備
- 防災用備蓄資機材・食糧などの維持更新
- 防火水槽・消火栓の整備
- 新庁舎整備事業の推進

施策4 災害の未然防止



これまでの取組

水害などによる人命への影響を未然に防止するため、河川の浚渫（しゅんせつ）や護岸改修工事を実施すると共に、危険エリアに関する周知・啓発を行ってきました。

めざす姿

地域住民の命と財産を守るための適切な治水対策と共に、住民一人一人が水害、土砂災害から身を守れるよう備えています。

実施方針

- 治水・砂防事業などの推進による危険箇所への対策強化
- 土砂災害危険区域の地域住民への啓発

11. 安全な地域づくりの推進

施策1 防犯体制の強化



これまでの取組

地域における防犯カメラの設置を支援する、湖南市安全なまちづくり自主活動支援事業を周知し、設置を推奨してきました。湖南市メールなどを活用し不審者情報・不審者・事件などの情報提供や地域安全サポーターの巡回活動による防犯活動を推進してきました。

めざす姿

家庭や地域で防犯と安全意識が高まり、全ての人にとって安心・安全な地域となっています。

実施方針

- 市民、警察署、滋賀県防犯協会などとの連携による安心安全なまちづくりの推進
- 防犯対策の推進

施策2 消費者市民社会の形成



これまでの取組

消費者のトラブルや、困り事について助言や斡旋を行ってきました。また、湖南市公式ソーシャルメディアや湖南市メール、広報こなん、組回覧にて最近の悪質事例の情報提供や注意喚起を行っており、学童保育所への出前講座、小・中学生への啓発冊子の配布も行ってきました。

めざす姿

市民への啓発活動などにより、消費者トラブルや被害が減っています。

実施方針

- 注意喚起を促すための情報提供の充実
- 悪質商法対策の啓発の充実

施策3 交通安全の推進



これまでの取組

交通安全対策を推進するため、交通事故発生ポイントなどでの交通安全施設を整備してきました。

また、交通安全教室や各交通安全運動、地域交通立番、交通安全啓発パトロールを実施してきました。

交通安全プログラムに基づいた児童などの通学路の安全確保に努め、点検および改善を行ってきました。

めざす姿

施設の点検や修繕が進められ、交通安全施設の劣化などによる事故誘発が防止されています。

高齢者には運転免許証自主返納を推奨すると共に、高齢者向けの交通安全教室の開催などにより、高齢者が関わる事故が減っています。

実施方針

- 地域との協働による危険箇所の把握・精査、交通安全施設の修繕・復旧の促進

- 地域・団体・事業所などの連携による交通安全教室や街頭啓発の継続的な推進

- 児童生徒の安全確保のための通学路の点検および改善

5

いきいきとした
暮らしをつくろう

～市民文化を築き、育み、
伝えるまちづくり～

湖南市みらいものがたり - Episode5 -

「いただきまーす！」高校生の紬（つむぎ）の家では、家族全員で夕食の食卓を囲んでいた。

「今日、友達の妹に勉強教えてあげたよ」

笑顔の紬に母の真紀（まき）はうなづいた。

「今日は“みんなの居場所”に行ったんでしょう？ママ友から聞いたよ」

「うん、学校の帰りにまちづくりセンターに寄ったんだ。たくさんの小学生が来てたよ。」

“みんなの居場所”は、地域のまちづくりセンターにある。赤ちゃんからお年寄りまで、それぞれのライフスタイルに合わせてだれでも気軽に利用できるスペースだ。

平日も、午後は授業を終えた学生たちや休憩中の登下校パトロール隊でぎわっている。親世代、祖父母世代と交流することで視野が広がり、同世代や低年齢の子と接することで思いやりが生まれる。

そして、その循環はいきいきと暮らせるまちづくりにもつながっていった。

——10年後。

紬は起業し、地域とのつながりを大切にしながら暮らしていた。その日も仕事を午前中で切り上げ、午後は“みんなの居場所”での日のようにこどもたちに勉強を教えていた。

「紬ちゃん、ありがとう。」「若い人が頑張ってくれると心強いね。」傍らで見守るお年寄りたちの眼差しに、部屋全体が優しく包まれていく。

帰り道、紬は母に電話した。

「今日、小学生がね、おばあちゃんたちに“いっしょに花壇づくりしよう”って言ったのよ」

「すごいね、紬。みんながつながっていくって素敵ね。」

母の声は、誇らしさと喜びに満ちていた。

あたたかい春風がやさしさを運び、広げてゆく。

このまちには、世代を超えて受け継がれる思いやりがあった。

※この物語は、第三次湖南市総合計画ワークショップの“みんなでつくる将来のまちの姿”をモチーフに描いた物語です。

実在の人物や団体などとは関係ありません。

第5章

1.若者の社会参画の促進

施策1

若者の社会参画の促進



これまでの取組

こなんSDGsカレッジ生を中心に、まちづくり活動の企画・運営に主体的に関わることで、地域の大人や同世代とのつながりを深めてきました。

めざす姿

多くの若者が参画したいまちづくり活動と、学校・地域との連携による導線づくりにより、青春祭や二十歳のつどいをはじめ、さまざまな活動に多くの若者が主体的に参加しています。

実施方針

- 多くの若者が参画したいまちづくり活動の充実
- 多くの若者のまちづくり活動への参画の促進
- 学校・地域との連携による参画の誘導

施策2

地域を担う若者の人財育成



これまでの取組

若者がまちの担い手として成長しています。また、地域課題への取組やさまざまな事業にも参画する機会となっており、湖南市版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4つの中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）の実践的な一端を担っています。

めざす姿

まちづくり活動に参画する多くの若者の中から、地域リーダーが持続的に育成されています。

まちづくりや社会教育を担う団体の中で、若者が役割を持ち、若者の意見を生かせる仕組みづくりが整っています。

実施方針

- まちづくり活動への参画を通じた地域リーダーとなる若者の育成
- 地域でのまちづくりや社会教育活動への若者の参加の促進

2.人の輪が広がる場づくり

施策1 人の輪が広がる居場所づくり



これまでの取組

6箇所のまちづくりセンターと4箇所のコミュニティセンターが各地域に置かれ、地域のまちづくり活動などの拠点となっていました。

めざす姿

地域の特色を生かした学びの体験をきっかけに人と人がつながり、地域を支える人を育成する仕組みづくりが整っています。

コミュニティ施設や公園内のスペースが、人の輪が広がる場として活用されています。

実施方針

- 人の輪が広がる場の確保

施策2 ふれあい・つながる地域学習環境の充実



これまでの取組

まちづくりセンターでは、地域の主体性や自由度の高い活動が可能となっています。

また、小中学校に家庭教育支援員を配置し、保護者対象の講演会や学習会を開催するなどの学習機会を提供してきました。

めざす姿

まちづくりセンターでは、学習拠点として必要な人財情報や支援が充実しています。

小中学校においても、保護者などに学習機会を提供し、家庭教育の環境が整っています。

実施方針

- 身近な学習拠点であるまちづくりセンターでの生涯学習事業の支援
- 保護者などの家庭教育に関する学習機会の提供

3.生涯学習環境の充実、教育プログラムの充実

施策1 生涯学習環境の充実



これまでの取組

家庭教育講座を開催していました。
また、湖南市ホームページなどを活用し、講座などの情報を発信していました。

めざす姿

だれもが参加しやすく、さまざまな学びや世代を超えた交流を支える学習環境が整っています。

実施方針

- 地域の個性が生かされた生涯学習の推進
- 多様な学習機会の提供と情報発信による参加啓発

施策2 生涯学習拠点の整備



これまでの取組

生涯学習や子どもが読書に親しむ機会を充実させるため、情報提供などに取り組んできました。

めざす姿

市民のニーズを反映した施設の有効活用、運営の効率化が図られ、利便性やサービスが向上しています。

実施方針

- 既存施設の効率的で効果的な運営の推進
- 図書館や歴史民俗資料館などの公共施設の活用

施策3 夜間学級における教育活動の充実



これまでの取組

令和7年4月、湖南市立甲西中学校内に県内初の夜間学級を開設し、多様な人々の学びを支えています。

めざす姿

だれもが、年齢や国籍、これまでの経験に関わらず、もう一度学びたい・仲間と共に成長したいという思いを実現でき、夜間学級を中心に多様な人々が共に学びあい、支えあうまちになっています。

実施方針

- 湖南市立甲西中学校夜間学級の安定的な運営と教育環境の充実
- 多様な学習者が安心して学べる体制の整備
- 学びを通じて地域つながりを広げ、共に学び合う文化の育成

4.スポーツ環境・拠点の充実

施策1 スポーツ活動の推進

これまでの取組

スポーツ少年団の活動を支援してきました。マラソン大会・駅伝大会などが開催され、多くの市民が参加してきました。

めざす姿

多様なニーズや幅広い年代に対応したイベントなどが開催され、多くの指導者やスポーツボランティアなどが活動しています。



実施方針

- スポーツを振興する団体への支援
- 多様なスポーツイベントの企画運営の推進
- スポーツボランティアの育成支援

施策2 スポーツに親しむ環境づくり

これまでの取組

スポーツ推進委員が出前講座など各種事業においてワンポイント指導を行いながら、正しいラジオ体操の普及を実施してきました。

また、健康教育や保健指導の場において、運動についての啓発を行ってきました。

めざす姿

子どもからお年寄り、障がいのある人などあらゆる人がスポーツ活動を楽しんでいます。多くの市民にとって、身近な場所で気軽にスポーツに取り組むことが習慣化しています。



実施方針

- スポーツと健康づくりの一体的な推進
- 企業などの協働による先進的なヘルスケアの推進
- 年齢・体力に合わせたスポーツプログラムの提供と充実

施策3 スポーツ施設の充実

これまでの取組

社会体育施設について、スポーツ施設の有効活用の検討や効率的な施設運営を行ってきました。

めざす姿

関係団体との連携によって、多様なニーズに対応したスポーツができる施設となっています。



実施方針

- 施設の計画的な維持管理およびユニバーサルデザイン（すべての人が使いやすいように環境やサービスなどをデザインすること）の推進
- 地域、関係団体などの協働によるスポーツ環境の整備

5. 読書環境の充実

施策1 図書館機能の充実



これまでの取組

資料と情報の提供を行う機関として、図書館と移動図書館による図書館システムで運営を行ってきました。

また、インターネットなどを活用した利用者の利便性向上のための取組やこどもが図書に親しむ機会を積極的に提供してきました。

めざす姿

効果的な情報発信と、学習ニーズに応じたサービスの充実により、多くの市民が図書館を訪れ、本に触れる機会が増えています。

実施方針

- よりいっそう市民に開かれ、地域に根差した図書館の運営・リニューアル
- 魅力ある蔵書の維持更新と図書館利用の促進
- 全域サービスの充実
- 地域資料の収集と情報発信の推進

施策2 人と本をつなぐ環境づくり



これまでの取組

小学校や保育園、幼稚園、こども園、まちづくりセンターなどへの移動図書館の巡回を実施してきました。

めざす姿

こどもをはじめ市民の身近に本があり、市民と本をつなぐ人がいる環境があり、読書活動を通して心身の健康や生きる力が育まれています。また、本を通じて人が集う場が広がっています。

実施方針

- 本に親しむ環境づくり
- 家庭、地域、園・学校などが連携した環境づくりと支援
- 読書活動への啓発と支援、広報の充実

6.歴史文化遺産の保存・継承と活用

施策1 歴史文化遺産の保存・継承

これまでの取組

湖南三山をはじめとする指定文化財の保存に対する支援のほか、未指定の文化財について新規指定などに向けた調査を実施してきました。

また、地域住民が歴史文化遺産に愛着が持てるよう文化財講座を実施してきました。

次世代への文化財の価値継承のため、学校教育において郷土史の学習を実施してきました。

施策2 歴史文化遺産の活用

これまでの取組

学校教育において、湖南市の歴史文化遺産を生かし、地域に根差した学びを進めてきました。

また、歴史文化遺産の周辺に文化財の説明看板やトイレなどを設置してきました。

めざす姿

調査やデータ整備のほか記録の保存により、歴史文化遺産が次世代に継承されています。

調査結果の活用と価値を発信することで、地域住民が文化財の本質的な価値について理解し、愛着を持っています。

実施方針

- 文化財などの調査と適切な保存推進および支援
- 学校教育や生涯学習での郷土史の学習機会の提供



7. 文化芸術活動の振興

施策1 文化芸術活動への支援



これまでの取組

文化ホールだけでなく、アートリーチ（ホールなどの会場にとらわれず、普段文化芸術に接する機会の少ない人の元に出向き、文化芸術活動を行う）による鑑賞事業を実施してきました。

また、美術展では、参加体験型のパフォーマンス事業を行うなど、若年層への啓発を図ってきました。

めざす姿

文化ホールを中心に、多様なニーズや幅広い年代（特に若年層）に対応した催しが実施されています。

若年層を中心に人財の発掘・育成が進み、文化芸術活動が次世代に継承されています。

実施方針

- 文化芸術にふれる機会や活動場所の提供
- 教育・関係機関と連携した文化芸術活動の人財発掘・育成・継承の支援

施策2 湖南市の魅力となる文化芸術の創出



これまでの取組

文化祭や美術展など、市民が主体となって、企画運営を行うと共に、各種イベントではアンケートを実施し、ニーズの把握を行ってきました。

めざす姿

湖南市の特性に根差した独自の新たな文化が創造され、市民の誇りとなっています。

実施方針

- 文化芸術に関するニーズ把握と多様な主体への情報発信の強化
- 多様な文化芸術活動に接する機会の創出

8.人権教育の推進

施策1

人権教育・啓発活動の推進



これまでの取組

学校・園・地域・職場において、さまざまな人権課題をテーマにした学習や研修を実施してきました。

人権まちづくり懇談会の開催や人権啓発講座を行ってきました。

めざす姿

一人ひとりが、あらゆる差別や人権侵害のない社会をつくる主体者としての自覚を持ち、人権尊重の精神が現れています。

包摂（インクルーシブ）と多様性（ダイバーシティ）を大切にする共生社会が実現しています。

実施方針

- 児童生徒の人権意識の向上、生きる力と学力を高める取組の推進
- 人権まちづくり懇談会、啓発講座の内容充実による市民参加の促進
- 市民が主体的に学べる環境、交流の場づくり
- 企業・事業所に対する人権教育と啓発の推進

施策2

職員研修の推進



これまでの取組

人権課題の解決に向けた地方公共団体の責務の理解と共に、市職員に対し、人権啓発のリーダーとして市民の人権意識を高揚するための人権研修を行ってきました。

めざす姿

全ての市職員が業務において人権の視点を尊重し、基本的人権が尊重された社会の実現に寄与しています。

実施方針

- 人権に関する職場内研修の実施
- 外部派遣研修などの実施

6

明日を拓く
仕組みをつくろう
～効率的・効果的な
行財政システムと人づくり～

1.自治体DXの推進

施策1 DXによる行政改革



これまでの取組

調査と関係者へのヒアリングを通じて、組織全体の体制を見直し、必要な人財を積極的に採用することで、より機能的な組織づくりを進めてきました。

また、自治体クラウド（複数の自治体が行政情報を外部のデータセンターで共同利用し、運用管理するシステム）のシステム共同化による割り勘効果やアウトソーシングによる業務の効率化を図り、最小の経費で最大の効果を発揮するための行政改革を推進してきました。

公共施設予約システムの運用を開始し、利便性の向上と施設管理の効率化を進めてきました。

めざす姿

デジタル技術の活用により、働き方改革を推進しながら行政需要の変化に対応した事務事業や組織体制の見直しが実現しています。

地域の活性化や住民サービスに与える影響を見極めながら、施設の統廃合が進められ、維持管理経費の削減や効率的な施設運営が実現しています。

実施方針

- デジタル技術の活用による行政手続のオンライン化推進および窓口手続簡素化の推進
- 公開型G I S（自治体が保有する位置情報を含むさまざまな行政データや地域情報を、インターネットを通じて、市民や事業者に公開・提供するシステム）と公共交通の連携
- 自治体DX（デジタル技術を活用して行政サービスの向上をめざす地方自治体の取組）の推進
- マイナンバー利用環境における持続的な情報セキュリティの確保
- マイナンバーカードの普及促進
- セキュリティポリシーに基づく情報データ運用の透明化
- 社会情勢や多様な行政需要に応じた柔軟な組織体制の構築
- テレワーク環境の推進
- 自治体クラウドの推進
- 公共施設管理の最適化

施策2 人財の育成



これまでの取組

湖南市人材育成基本方針に基づき、職員研修計画を定めて年間研修プログラムを推進してきました。また、研修に関する情報提供を積極的に行い、研修機会の確保を図ってきました。

また、育成人事考課制度を2014年度(平成26年度)から本格運用し、適宜見直しを行い、改善を重ねてきました。

めざす姿

市職員の意識と能力が向上し、多様化する市民ニーズに対応し、質の高い行政サービスが提供されています。

実施方針

- 研修制度の充実による市職員の業務能力の向上
- 育成人事考課制度による人財育成の向上

2.財政の健全化

施策1

効率化による経費削減



これまでの取組

投資的事業など要求調査を実施すると共に、翌年度以降の計画を把握し、今後の財政状況を考慮しつつ予算編成を行ってきました。

また、利用目的がない公有財産については、公売により売却を進めてきました。

年度ごとの決算に基づき、財政状況および財務書類、財政健全化判断比率などを湖南市ホームページなどで公表してきました。

めざす姿

財政基盤が安定し、透明性の高い財政運営が行われています。

事業計画が一時的に中断している行政財産は、期限付きで貸し付けを行うなど遊休財産が有効に活用されています。

実施方針

- 経常経費の抑制や投資的事業の年度間調整などによる財務改善の推進
- 公有財産の利活用の促進
- 財政健全化判断比率や財務書類の公開による透明性の高い財政運営の推進

施策2

財源の確保



これまでの取組

ふるさと納税や企業版ふるさと納税の積極的な活用など歳入確保のほか、市税や給食費などの未収金の徴収強化などに取り組んできました。

めざす姿

人員の制約や数年ごとの人事異動があっても、各債権担当課でノウハウ蓄積・継承などができる仕組みとなっています。

ふるさと納税などにより、財源が確保されています。

実施方針

- 未収債権への取組や新たな財源の確保
- 国、県の補助制度の活用などによる財源の確保

3.近隣市町との連携

施策1

近隣市町との連携の推進



これまでの取組

湖南・甲賀の2市により広域行政組合や病院事業を効率的に運営してきました。

また、栗東市・野洲市・竜王町・甲賀市などの近隣・関係市町と共に通する課題ごとに協議会を設置し、事業の協働実施や国・県などへの要望活動を行ってきました。

野洲市および竜王町との協議会では、新たな広域幹線道路の整備実現に向け、滋賀県と共に勉強会を開催するなど広域的な連携を図ってきました。

めざす姿

隣接市町との連携が強化され、公共交通課題や広域道路整備、河川改修など広域課題の対策が進んでいます。

実施方針

- 甲賀広域行政組合の効率的な運営の推進
- 公立甲賀病院の効率的な経営の推進
- 公共交通課題に対する隣接市との連携強化
- 新たな行政課題に対する広域自治の検討
- J R 草津線複線化、広域道路整備、河川改修などの共通の行政課題に対する連携の推進

施策2

地域間交流の推進



これまでの取組

しがnaviには、湖南三山や琵琶湖博物館などを観光できるモデルコースが紹介されています。

また、滋賀県内の図書館の蔵書を横断的に検索可能なシステムが整備されています。

友好交流協定を締結している鳥取県北栄町、北海道比布町、観光交流協定を締結している高知県室戸市、東洋町とそれぞれ市内で開催するイベントを通じて交流を行ってきました。

めざす姿

周辺市町と連携した魅力ある観光地のネットワーク化により、地域全体の観光ブランドイメージが高まっています。

専門性が必要な施設や規模の大きな施設について、市町間の広域連携によって相互利用が実現しています。

友好交流協定・観光交流協定を締結している各市町と草の根レベルの民間交流が活発になり、ビジネス創出などにつながっています。

実施方針

- 観光資源を活用した地域内連携の促進
- 地域内連携による施設の共同整備の促進
- 地域間交流の推進
- 市民交流の推進による交流人口などの拡大

第4部 総合戦略

第三期湖南市総合戦略

～まち・ひと・しごとに笑顔があふれる4つのプラン～



1. 策定にあたって

(1) 総合戦略策定の趣旨

湖南市的人口は、2005年(平成17年)の55,325人をピークに減少しており、2020年(令和2年)には54,460人(うち外国人の人口:3,336人)となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2060年(令和42年)には総人口が38,709人となる見込みです。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口(0~14歳)は1995年(平成7年)の10,566人をピークに減少し、2020年(令和2年)には7,187人となる一方、老人人口(65歳以上)は1995年(平成7年)の4,309人から2020年(令和2年)には13,387人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されています。また、生産年齢人口(15~64歳)も2005年(平成17年)の39,384人をピークに減少傾向にあり、2020年(令和2年)には33,062人となっています。

総人口の自然動態をみると、出生数は2015年(平成27年)の533人から毎年減少し、2024年(令和6年)には282人となる一方、死亡数は増加傾向にあり、2024年(令和6年)には598人となっており、▲316人の自然減となっています。

総人口の社会動態をみると、2019年(令和元年)には転入者(3,041人)が転出者(2,785人)を上回る社会増(256人)でした。しかし、進学や就職、子育て環境などさまざまな要因が複合的に影響し、特に20歳から24歳の年齢層を中心に市外への転出者が増加し、2024年(令和6年)には▲234人の社会減となっています。このように、人口の減少は出生数の減少(自然減)や、転出者の増加(社会減)などが原因と考えられます。

『地域の現状』の原因となる地域の課題については、今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、これまで地域経済を支えてきたものづくり産業をはじめとして、後継者が見つからず廃業する企業が増えると、地域における雇用機会の減少や、特定の技術やサービスの提供が途絶えることも考えられます。また、コミュニティバスやJR草津線といった公共交通機関は、利便性の低下や事業運営の困難さなど複合的な課題を抱え、深刻度を増してしまいます。さらに、世帯数の減少は、住宅需要の低迷など消費活動が低下し、住民生活や地域経済全体へ多岐にわたる影響を及ぼす可能性があります。

これらの課題に対応するため、湖南市では、市民の結婚・妊娠・出産・子育ての各段階で途切れることなく支援をし、出生数が増加するような社会をめざすことが必要です。加えて、移住・定住の促進や空き家対策の取組にとどまらず、市民一人ひとりが希望を持って暮らせるライフスタイルを実現するために、多様な人々がまちづくりに参加できる仕組みを作り、人財育成を通じて人口減少に歯止めをかけることが求められます。



(2) 地方創生の基本的な考え方

第三期湖南市総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法第10条(平成26年法律第136号)に基づく、湖南市の総合戦略として位置づけています。急速な少子高齢化の進展と人口の減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、国・県が示す構想や戦略に基づきながら、湖南市の実情に合わせた施策を総合的かつ計画的に進めています。

(3) P D C A サイクルの見える化と地域間連携の推進

①取り組み体制と PDCA サイクル

○湖南市まち・ひと・しごと創生本部

- ・人口減少を克服し、地域の活性化を推進する施策・取組について全庁的に総合調整を行う

○外部有識者を含む推進体制

- ・市民、産業界、教育機関、金融機関、労働団体、メディアとの連携
- ・数値目標を基に、実施施策や事業の効果検証、必要に応じて総合戦略を改訂する

②地域間・地域内の連携推進

○国および県の地域連携施策を活用

○交流都市協定を生かした広域連携

○近隣自治体との広域連携

○市内7つの地域まちづくり協議会をはじめとしたさまざまな主体との連携・協働



2. 第三次湖南市総合計画と連動した取組

【重点プラン】

人口減少や少子高齢化に対応するため、湖南市が重点的に推進する政策パッケージとして、次の4つの重点プランを掲げます。これらの重点プランに取り組むことで、第三次湖南市総合計画に掲げるまちの将来像、6つのまちづくりの目標の実現をめざします。

① 働く場の創出プラン

- ・魅力的な働く場づくりに関する政策パッケージ

② ひとの流れの創出プラン

- ・移住・定住の促進や関係人口・交流人口の拡大に関する政策パッケージ

③ こどもまんなかプラン

- ・こどもや若者が幸せや希望を感じられる社会の実現に関する政策パッケージ

④ まちづくりプラン

- ・持続可能な社会の実現や安心して暮らせる基盤づくりに関する政策パッケージ

第三次湖南市総合計画・第三期湖南市総合戦略

まちの将来像

まちづくりの目標

重点プラン

ずっとここに暮らしたい!
みんなで創ろう 笑顔つなぐ・つながる湖南

1. みんなで共に進める仕組みをつくろう

2. うるおいのあるまちをつくろう

3. 活気あるまちをつくろう

4. ほっとする暮らしをつくろう

5. いきいきとした暮らしをつくろう

6. 明日を拓く仕組みをつくろう

①
働く場の
創出プラン

②
ひとの流れの
創出プラン

③
こども
まんなか
プラン

④
まちづくり
プラン



3. 人口ビジョンからのアプローチ

(1) 人口の見通し

日本の将来人口の見通しは、2060年（令和42年）には、8,674万人まで減少すると試算されています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠する方式で実施した湖南市の将来人口推計（2020年（令和2年）の国勢調査人口から推計）によると、湖南市の人口は、2060年（令和42年）には2020年（令和2年）よりも約15,751人減少（-29%）する見通しです。



(2) 湖南市における将来人口の目標

長期的目標である 2060 年（令和 42 年）には、42,430 人まで人口を押し上げることをめざし、速やかに総合的な人口減少対策（第三期総合戦略）に取り組みます。

5 年後の 2030 年（令和 12 年）には、現状の人口規模を維持することをめざします。

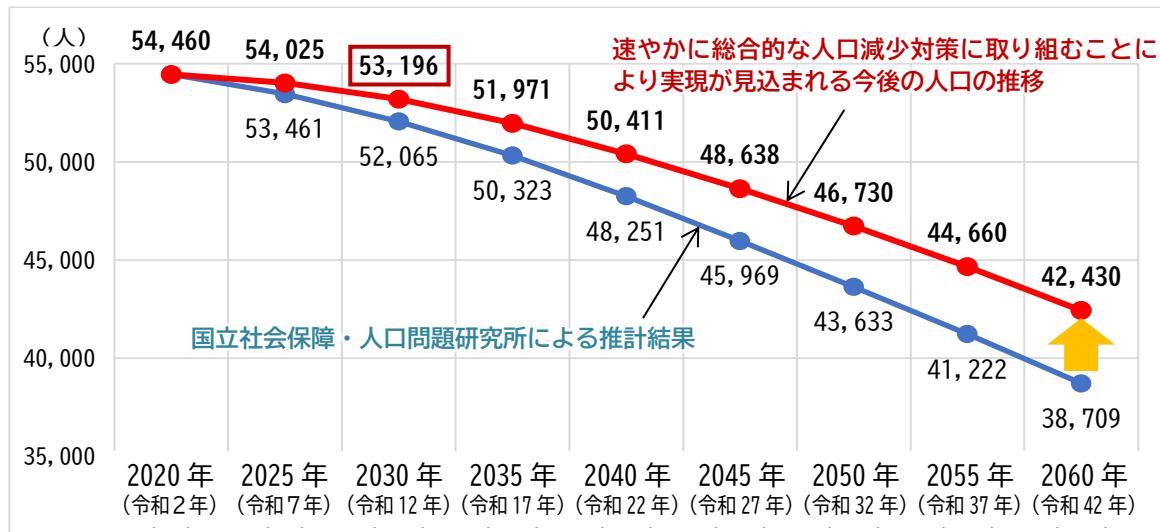


図 湖南市の将来人口の見通しと目標

【目標人口実現のために】

まちの将来像『ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう 笑顔つなぐ・つながるまち湖南』の実現をめざすことは、湖南市への愛着と誇りを形成し、湖南市で暮らすことで味わえる豊かさを実感できるまちづくりを進めることです。急激な人口減少、少子高齢化を防ぐと共に、ひいては市民の幸福度を高めることにつながります。

～人口規模を維持するための総合戦略の目標～

- 合計特殊出生率を高めること（次世代を担う子どもが増えること）
2060 年（令和 42 年）までに合計特殊出生率が国民希望出生率である 1.6 度程度まで向上する
- 安定的な人口移動であること（転入・転出を均衡させること）
転出抑制と転入増加により、転出と転入の差を 0 にする

合計特殊出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が生涯に産む子どもの平均人数を推計した指標

KG I (重要目標達成指標)	基準値	目標値 (2030 年度 (令和 12 年度))
将来人口（市全体） (うち年少人口) (うち生産年齢人口) (うち老人人口)	53,879 人 ※1 (6,565 人) (33,061 人) (14,253 人)	53,196 人 (6,012 人) (31,892 人) (15,292 人)
合計特殊出生率	1.12 ※2	1.43
社会動態（5 年間累計）	-163 人 ※3	0 人

※1 基準値は住民基本台帳の値（2025 年度）

※2 基準値は 2023 年度（令和 5 年度）滋賀県甲賀健康福祉事務所事業年報の値

※3 基準値は 2020 年度（令和 2 年度）から 2024 年度（令和 6 年度）までの累計値



4. 4つのプランと目標指標

目標達成に向けたプロセスの進捗状況を定量的に評価・分析するための指標

- 1 職場をなくさう
- 2 食べに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 新しい暮らしをみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 自みどりがられるまちづくり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 幸福と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

しごと・ひとの好循環

① 働く場の創出プラン

基本的方向1「魅力的な職場環境づくり」

- 立地優位性やデジタル技術を生かした魅力的な企業の誘致や起業、事業領域の拡大支援による産業の活性化
- 生活と仕事が調和し、だれもが多様な働き方ができる魅力的な職場環境の形成

<KPI>

- 製造品出荷額等
- 「産業力の強化」満足度
- 「多様な雇用・働き方の実現」満足度

② ひとの流れの創出プラン

基本的方向2「新しいひとの流れをつくる」

- 多様な形の人や地域の支えあいを推進し、若い世代の移住・定住、地元定着を促進
- 地域資源を生かした魅力の向上、対外的な認知度の向上によるブランドの確立

<KPI>

- 観光入込客数
- 「ふるさとづくりの促進」満足度
- 「観光と交流による活性化」満足度

③ こどもまんなかプラン

基本的方向3「こどもをまんなかに、若者に向けた取組の推進」

- 結婚から妊娠、出産・子育てまで切れ目のない支援や女性が社会参画しやすい環境づくり
- こどもや若者が未来や地域への希望を抱き、いきいきと育つまちづくり

<KPI>

- 子ども家庭総合センターでの延べ相談件数
- 「若者への支援、希望の実現」満足度

好循環を支えるまちの活性化

④ まちづくりプラン

基本的方向4「だれもが活躍できる社会をつくる」

- だれもが居場所と役割を持ち、活躍できるインクルーシブ(包摂的)な地域社会づくり

基本的方向5「持続可能な地域づくり」

- 産学官金労言士（産業界、行政機関、学界、金融機関、労働組合、言論界、士業）が連携し、脱炭素ビジネスなど地域経済活性化・イノベーション創出に取り組む持続可能なまちづくり

基本的方向6「安心して暮らせる環境づくり」

- だれもが安全・安心で快適に暮らすことができる都市づくり

<KPI>

- 地域まちづくり協議会が主体となる協働事業の参加者数
- 官民連携によるESG投資額（環境、社会、企業統治に配慮している企業に行う投資額）
- 健康寿命
- 「持続可能なまちづくり」満足度
- 「安心して暮らせる基盤づくり」満足度



5. 7つの政策パッケージ

じょと・ひとの好循環

好循環を支えるまちの活性化





① 働く場の創出プラン

基本目標

- 魅力的な企業の誘致、デジタル技術や優れた人財の知見を活用した産業の活性化を図ります。
- だれもが多様で魅力的な働き方ができる場の確保を図ります。
- 子育てや介護、趣味などの生活と仕事が調和する環境づくりを進めます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値	目標値 (2030 年度 (令和 12 年度))
製造品出荷額等 ※1	5,757 億円	7,000 億円
市民意向調査における「産業力の強化」満足度 ※2	48.2%	54.0%
市民意向調査における「多様な雇用・働き方の実現」満足度 ※2	37.0%	42.0%

※1 基準値は 2023 年（令和 5 年）経済構造実態調査の値

※2 基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

政策パッケージ 1

産業力の強化

【関連する SDGs】



政策
1

企業立地の促進

- 魅力的な企業の誘致
- 産業の魅力化・シティセールス

政策
2

農林業の振興

- 農業の基盤整備と多面的機能の理解促進
- 多様な農業の推進
- みらい公園湖南の利用促進
- 林業の振興

政策
3

工業の振興

- 魅力ある工業の推進
- ものづくり産業の人財確保



政策
4

商業の振興

- 1) 魅力ある商業の推進
- 2) 地域特性を生かした賑わいづくり
- 3) 買い物弱者対策の推進

【主な具体的事業】

事業例	
企業誘致・産業振興	<ul style="list-style-type: none">○企業立地促進奨励事業 工場などの新設や増設、建て替え、女性が社会経済活動に参画しやすい施設整備を行う事業者を支援する。○企業誘致推進事業 充実した高速道路網などのインフラを生かしながら、市内の産業振興や雇用創出、税収確保を促進する。○商工団体等育成事業 市内商工業者の交流を図り、幅広い視点から産業振興の方向性を見出し、地域経済活性化を図る。○成長分野の企業や本社機能などの立地促進事業 企業の本社や研究機関などを誘致し、既存企業との技術融合などによる相乗効果を発揮する。
地域産業の競争力強化	<ul style="list-style-type: none">○特産品の開発および販路開拓事業 弥平とうがらしや下田なすをはじめとするさまざまな伝統野菜や、产学官の取組により特産品の開発を推進する。
農林業の活性化	<ul style="list-style-type: none">○農業等未来創造拠点事業 みらい公園湖南の利活用を促進し、みらい公園湖南を中心として農業および市内産業を交わらせ、新たな商品やサービスなどの発案、試行、販売などを行う。○林道等維持保全事業 林業の施業に必要な林道を適正に管理することにより、林業振興および災害への対応力の向上を図る。○防災重点ため池改修事業 湖南市にある農業用防災重点ため池の耐震対策や豪雨対策、老朽化対策などの防災工事、または廃止を進める。○広域農道整備事業 広域農道の特に劣化が激しい箇所の舗装改良を実施する。○揚水機場更新事業 適正な運転に支障が生じている揚水機を対象として、不具合解消や施設の長寿命化を図る。○農業経営体支援事業 農家の高齢化や人口減少、農業用機械の価格高騰に伴い農業経営体が減少しているため、持続的な農業経営を確立するために必要な支援を行う。○営農活動支援事業 農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や担い手の育成などを支援し、農業の構造改革を推進する。



事業例	
	<p>○鳥獣害対策事業</p> <p>近年、被害が深刻化している鳥獣害対策として被害多発地域を中心に獣害柵の設置を支援すると共に、鳥獣捕獲の担い手の確保や捕獲活動の強化、地域単位での防除体制の強化を推進する。</p>



政策パッケージ 2

多様な雇用・働き方の実現

【関連するSDGs】



政策
1

雇用の促進と勤労者福祉の充実

- 1) 就労支援・人財確保の推進
- 2) 多様な働き方の推進
- 3) 勤労者福祉の充実

【主な具体的事業】

	事業例
人財の育成・確保	<ul style="list-style-type: none">○ J O B フェア事業 現役学生や既卒者、就職氷河期世代の求職者に対する市内企業の情報発信支援や合同企業説明会の開催などにより、市内企業の雇用を確保する。○ 合同企業説明会実施事業 学生・移住希望者を対象とする市内企業の合同企業説明会を大学に出向いて実施する。○ インターンシップ参加促進事業 湖南市内企業での就業を体験し、市内企業の魅力に気づく機会を提供する。
就労の支援	<ul style="list-style-type: none">○ 障がい者就職面接会事業 障がいのある人と企業との出会いを提供し、双方の理解とマッチングを促進するため、合同就職面接会を行う。○ 就労相談事業 就職困難者をはじめとする不安定就労者、障がいのある人、若年層における未就職者やフリーターなどの就労全般を支援する。○ 障がい者就労情報センター事業 障がいのある人の就労に関する情報を発信するなど、多方面から障がいのある人の就労を支援する。○ 障がい者就労支援事業 障がいのある人の就労をサポートする人財育成や試験的就労の実施を行う。○ 外国人就労相談事業 相談体制を整備し、関係機関につなぐことで外国人市民の就労を支援する。



事業例	
	<p>○日本語教室事業 湖南市国際協会との連携により日本語教室を開催し、就労場所や地域でコミュニケーションを図ることができるよう外国人市民を支援する。</p>



② ひとの流れの創出プラン

基本目標

- 若い世代の移住・定住を支援する仕組みづくりや地元定着に向けた取組を進めます。
- 地域資源を生かした魅力ある地域づくりによる交流人口の増加、関係人口の創出を図ります。

KPI (重要業績評価指標)	基準値	目標値 (2030年度(令和12年度))
観光入込客数	608,320人	776,000人
市民意向調査における「ふるさとづくりの促進」満足度 ※	43.2%	49.0%
市民意向調査における「観光と交流による活性化」満足度 ※	35.0%	40.0%

※ 基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

政策パッケージ 3

ふるさとづくりの促進

【関連するSDGs】



政策
1

湖南市版小規模多機能自治の推進

- 1) 小規模多機能自治の推進
- 2) 地域コミュニティの活性化
- 3) 中間支援組織の検討
- 4) 幅広い層の市民参画の促進
- 5) 行政からの情報公開の拡充

政策
2

地域まちづくりの担い手の確保

- 1) 多様な主体のつながりの形成
- 2) ふるさとへの愛着づくり

政策
3

多様な市民が参画する仕組みづくり

- 1) 移住・定住の促進
- 2) 関係人口の創出



【主な具体的事業】

	事業例
地域が主役のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">○地域コミュニティ活性化支援事業 地域コミュニティの基盤である区・自治会などへの支援を行い、活性化を図る。併せて地域で活動するNPOなどの中間支援組織への支援として地域とのコーディネート業務を行う。○人財活躍支援事業 地域における多様な主体のつながりを形成するため、こなんSDGsカレッジを軸に若者の主体的なまちづくり活動の定着化を推進すると共に、人財登録制度との連携を図る。○まちづくりセンター等大規模改修事業 小規模多機能自治（中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）の推進を図るため、地域の活動団体の活動拠点となるまちづくりセンターなどの大規模改修を行う。○まちづくり教育・主権者教育推進事業 子どもがまちづくりに関わる機会を提供すると共に、地域まちづくり協議会と協働で、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を育む主権者教育を推進する。○高校での地域探究学習連携事業 地域と高校が連携・協働して、キャリア教育・地域学習・地域課題の解決などの探究的な学びを実現する取組を推進する。○地域活性化起業人事業 企業の専門的なノウハウや知見を生かしながら即戦力人財として情報発信などの業務に従事することで地域活性化を図る。
情報公開の拡充	<ul style="list-style-type: none">○見やすく利用しやすいホームページ作成事業 ホームページのナビゲーションの改善、市民が欲しいと思う情報の掲載、だれにでも見やすく分かりやすいホームページとして再構成する。
移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none">○湖南市移住定住サイト情報発信事業 移住定住サイトに、まちの魅力や移住相談の支援、地域交流体験など移住希望者にとって有益な情報の発信を行う。○結婚新生活支援事業 低所得者の婚姻に伴う新生活に対して、少子化対策の強化に資することを目的として、住居費および引越費用について一部を補助する。○空き家バンク活用促進事業 古民家をはじめとする空き家情報を発信することで、移住希望者が地域に溶け込みやすい住環境を選択できる環境を整える。



事業例	
関係人口の創出	<ul style="list-style-type: none">○オープンスペース等施設整備支援事業 人の輪がつながる新たな交流の場の創出に向け、商業施設を活用したコワーキングスペース（多様な働き方をする人々が空間を共有し、それぞれの業務を行うための場所）の施設整備などを支援する。○空き家対策総合支援事業 関係人口の創出につながる新たな交流の場の創出に向け空き家の活用または除去を推進する。○ふるさときらめき湖南づくり寄附事業 ふるさと納税制度の活用により財源確保と、返礼品などを通じたプロモーションの推進を行う。○企業版ふるさと納税寄附事業 企業版ふるさと納税に係る寄附企業とのマッチング支援に関する事業を行う。○クラウドファンディング活用促進事業 インターネットを通じて、事業目的に必要な経費の支援金を募る市民活動を支援する。○友好交流提携都市との交流事業 友好交流提携都市との人財の交流、イベント事業などの相互参加、共同実施、民間企業のマッチングを支援する。
ふるさとへの愛着の醸成	<ul style="list-style-type: none">○地産地消のNEWソウルフードづくり事業 学生のアイデアなどによる地産地消のNEWソウルフードを生み出す。地元企業や学生との連携・協働で地域の活性化を図る。○ローカル10,000プロジェクト事業 ふるさとへの愛着づくりの一環として産官学金労言士の連携により地域密着型事業の創業・第二創業・新規事業立ち上げを支援する。地域資源の活用、地域課題への対応、地域金融機関などによる融資・地域活性化ファンドによる出資・民間クラウドファンディング、新規性、モデル性の要件を満たすプロジェクトを組成する。



政策パッケージ 4

観光と交流による活性化

【関連するSDGs】



政策
1

外国人市民の地域
定着、生活支援の
充実

- 1) コミュニケーションの支援
- 2) 安心できる生活の支援
- 3) 異文化コミュニケーションの充実

政策
2

観光の振興

- 1) 地域資源を生かした観光・交流の創出
- 2) 観光情報の一元化・情報発信の促進
- 3) 観光ルートの整備

政策
3

歴史文化遺産の保
存・継承と活用

- 1) 歴史文化遺産の保存・継承
- 2) 歴史文化遺産の活用

【主な具体的事業】

	事業例
観光資源の魅 力化・観光交流 の活性化	<ul style="list-style-type: none">○第2のふるさとづくり促進事業 地域との交流・地域運営への参画などを通じて地域とのつながりを創出し、継続的な来訪の反復を促進する第2のふるさとづくりにつなげる。○ウツクシマツ自生地保護・活用事業 天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」内の環境保護および活用を図る。○観光推進事業 効果的な情報発信などにより湖南市の認知度向上、ブランドの確立を図り、市民の誇りと愛着の醸成により、関係人口の増加を図る。○大人の社会見学事業 湖南市が誇るモノづくりなどの技術を新しい産業観光プラットフォームとして市内はもとより市外からも人を呼び込むための仕組みづくりを推進する。○市民観光交流事業 観光交流協定や友好交流都市に向けての市民ツアーや企画し、市民同士の交流を図る。



事業例	
	<ul style="list-style-type: none">○文化財多言語化事業 外国人観光客が歴史文化遺産に対する正しい理解や愛着を持つために、市内各所の文化財に設置する解説文の多言語化整備を行う。○文化財調査事業 貴重な歴史文化遺産を次世代へ継承するため、調査やデータ整備を進め、記録保存を行う。○十二坊温泉ゆらら活性化事業 十二坊温泉ゆららを中心とする、湖國十二坊の森一帯の活性化を図る。○文化財保護対策事業 文化財保存活用地域計画の策定や指定文化財の管理および修繕に対する補助を行う。○体験型観光推進事業 産業ツーリズム（地域に根差した産業や歴史的価値のある工場、製品、職人の技などを観光資源として活用し、ものづくりの心や技術、文化にふれることを目的とした観光）や農業体験・工場見学など、体験型観光の企画・運営を推進する。○地域資源を生かした観光交流事業 湖南市にゆかりのある歴史上の偉人や魅力的な地域固有資源の観光資源化の取組を行う。○観光資源整備事業 湖國十二坊の森をはじめ、地域の観光資源を整備すると共に、適切な維持管理を行う。
多文化共生のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">○外国人総合窓口設置事業 一元的外国人相談窓口を設定し、外国人のさまざまな悩みごとの相談に応じる。○やさしい日本語教室運営事業 日本語初期指導が必要な児童生徒およびその保護者に対し、やさしい日本語からの学びの環境を整える。○友好交流推進事業 湖南市国際協会との事業連携、市民への啓発などを行う。○人権教育推進事業 人権・同和教育の推進、市民向けの講座を開催する。



③ こどもまんなかプラン

基本目標

- ・結婚から妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援や女性を含めだれもが働きやすい環境づくりを進めます。
- ・こどもや若者がいきいきと育つまちづくりを進めます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値	目標値 (2030年度(令和12年度))
子ども家庭総合センターでの延べ相談件数	1,111件	1,130件
市民意向調査における「若者への支援、希望の実現」満足度 ※	35.8%	41.0%

※ 基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合

政策パッケージ 5

子どもの幸せ、将来の希望の実現

【関連するSDGs】



政策
1

子育て環境の充実

- 1) 安心できる出産と子どもの成長への支援
- 2) 地域の支えあいによる支援の充実
- 3) 保育サービスの充実・就学前教育の充実
- 4) 学童保育の充実

政策
2

教育環境の充実

- 1) 「楽しくて力のつく湖南市教育」の実現
- 2) 教育環境の充実
- 3) 外国人児童生徒への日本語教育支援の充実
- 4) 児童生徒への支援・相談体制の充実
- 5) 家庭・地域との連携と協働

政策
3

子育て世代、若い世代への支援

- 1) 子どもの遊び場の整備
- 2) 児童虐待防止への取組の推進
- 3) 経済的負担の軽減とひとり親家庭への支援



政策
4

発達支援シス
テム・特別支援教育
の推進

- 1) 発達支援システム（チャレンジサポート）の充実
- 2) 特別支援教育の推進
- 3) つまずきのある子どもの多様な居場所・学びの場の確保

【主な具体的事業】

事業例	
出産・子育ての支援	<ul style="list-style-type: none">○母子保健事業 安心して出産・子育てができるよう、妊婦健診費用の助成、乳幼児訪問事業、各種乳幼児健診、子育て相談などを実施する。○認定こども園施設管理事業 認定こども園での、年齢に応じた教育および保育を一体的に行い、健やかな成長が図れるよう環境を整備する。子の心身の発達を助長すると共に、保護者への支援を行う。○認定こども園振興対策事業 安定的な保育の実施に向け認定こども園運営費および各種補助金を交付する。○地域子育て支援拠点事業 良質な子育て支援を提供すると共に、全ての子どもの健やかな育ちを保障するため、地域子育て支援拠点となるつどいの広場を開設する。○病児保育事業 子どもが病気のときでも仕事が休めない家庭の支援として、病児保育事業を安定的に実施する。○学校環境整備事業 児童・生徒のよりよい学習環境の整備を行う。



事業例	
楽しくて力の つく教育環境 の整備	<ul style="list-style-type: none">○地域と学校の協働推進事業 地域と学校が連携・協働して質の高い学びを支援する、地域と共にあゆむ学校づくりを進め、地域ぐるみの教育力の活性化に取り組む。○理科教育振興事業 理科教育振興法に基づき、観察・実験を通じた科学的知識・技能の育成、科学的思考力を養うため、必要な器具・機器を整備する。○就学援助事業 経済的理由で就学困難な児童および特別支援学級に就学する児童の保護者などに必要な費用の一部を援助する。○給食センター運営事業 児童生徒などの給食について、地場産物を使用しながら、学校給食センターにおいて主食、副食、牛乳の完全給食を実施する。○夜間学級運営事業 義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や、不登校などさまざまな事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、外国籍の人などの義務教育を受ける機会を実質的に保障するための夜間学級を運営する。○学校環境整備事業 児童・生徒のよりよい学習環境の整備を行う。
安心できるこ どもの居場所 づくり	<ul style="list-style-type: none">○児童福祉推進事業 地域における多様な子どもの居場所づくりなどの取組を支援すると共に、天候に左右されず遊びや体験の機会を確保できるよう、全天候型の遊び場を整備する。○学童保育所運営事業 労働などにより、保護者が家庭にいない小学校に通う子どもたちに、遊びや生活の場を提供する。
配慮が必要な 子育て家庭へ の支援	<ul style="list-style-type: none">○ひとり親家庭等福祉推進事業 ひとり親家庭や低所得子育て世帯などの子どもに対して、大学受験料の支援や、模擬試験受験料の支援を行う。○児童虐待防止対策事業 関係機関が連携し、要保護児童対策地域協議会代表者会議や実務者会議、個別ケース会議などを通じて児童虐待防止を図ると共に、市民への啓発を強化する。
発達支援シス テム・特別支援 教育の推進	<ul style="list-style-type: none">○インクルーシブ教育事業 特別な支援を必要とする子どもの就学前から社会参加まで切れ目ない支援体制を整備する。○教育振興対策推進事業 関係機関の連携強化によりさまざまな支援を必要とする児童生徒への支援・相談体制の充実に取り組む。○教育相談事業 学校に行きづらい子どもの教育相談室（ふれあい教育相談室）を運営し、相談・指導を提供すると共に、保護者や学校へのサポートを行う。



④ まちづくりプラン

基本目標

- だれもが居場所と役割を持ち、活躍できるインクルーシブ（包摂的）な地域社会づくりを進めます。
- 産官学金労言士（産業界、行政機関、学界、金融機関、労働組合、言論界、士業）が連携し、脱炭素社会（温室効果ガスの排出を実質ゼロにする社会）の実現や地域活性化・イノベーションの創出に向けて取り組む持続可能なまちづくりを進めます。
- 助け合いと地域との協働が根付く暮らしがやすいまちづくりを進めます。
- だれもが安全・安心で快適に暮らすことができる都市づくりを進めます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値	目標値 (2030年度(令和12年度))
地域まちづくり協議会が主体となる協働事業の参加者数	39,160人	52,400人
官民連携によるESG投資額（環境、社会、企業統治に配慮している企業に行う投資額）	333,645,424円	465,000,000円
健康寿命※1	男性 79.02歳 女性 81.37歳	男性 79.41歳 女性 81.77歳
市民意向調査における「持続可能なまちづくり」満足度※2	47.4%	53.0%
市民意向調査における「安心して暮らせる基盤づくり」満足度※2	45.7%	51.0%

※1 基準値は2023年（令和5年）の要支援・要介護認定者などの基礎数値から算出

※2 基準値は総数から「どちらともいえない」「無回答」を除いた数に対する「満足」「まあ満足」の割合



政策パッケージ 6

持続可能なまちづくり

【関連するSDGs】



政策
1

こなんSDGs未
来都市の推進

- 1) 地域自然資源を活用したエネルギーと経済の循環による地域活性化の推進
- 2) 地域資源との関わりを見つめ直し、だれもが参画できるまちづくりの推進

政策
2

脱炭素の地域づく
り

- 1) 地球温暖化対策の推進
- 2) 強靭性と脱炭素を両立した持続可能なまちづくりの推進

政策
3

自然環境・生態系
の保全

- 1) 生物多様性の保全
- 2) 自然資源の保全
- 3) 水辺の環境の保全
- 4) 人と地域を結ぶ体制づくり

政策
4

循環型社会の形成

- 1) 省資源・リサイクルの推進
- 2) 適正なごみ処理、不法投棄の防止
- 3) 循環型の暮らしの定着

政策
5

企業、大学、行政に
による連携機会の創
出

- 1) 産学官連携の推進

政策
6

若者の社会参画の
促進

- 1) 若者の社会参画の促進
- 2) 地域を担う若者的人財育成

政策
7

人の輪が広がる場
づくり

- 1) 人の輪が広がる居場所づくり
- 2) ふれあい・つながる地域学習環境の充実



政策
8

生涯学習環境の充実、教育プログラムの充実 1) 生涯学習環境の充実
2) 生涯学習拠点の整備
3) 夜間学級における教育活動の充実

政策
9

人権教育の推進 1) 人権教育・啓発活動の推進
2) 職員研修の推進

【主な具体的事業】

事業例	
担い手の確保・育成	<ul style="list-style-type: none">○まちづくりの担い手育成事業 身近で楽しく続けられるまちづくり活動に関する情報の発信など、地域社会の一員としてまちづくりを担う人財の裾野拡大を図る。○次世代のまちづくり参加促進事業 若い世代を巻き込みまちづくりへの関心を高め、新しい視点でのまちづくりを促進する。
S D G s 未来都市の推進	<ul style="list-style-type: none">○脱炭素先行地域づくり事業 福祉施設や公共施設などへ太陽光発電設備や省エネルギー設備を官民連携により導入し、温室効果ガス排出量削減に取り組むことに加え、特定エリアにおいてマイクログリッド（地域や建物単位で電力の発電・供給・管理を行う小規模な電力網）を構築し非常時の電源を確保する。さらに林福連携事業（林業と障がいのある人の就労による掛け合わせ）として木質バイオマスボイラー・ストーブを設置し、障がいのある人の雇用を創出する。○地方創生 S D G s 未来都市推進事業 S D G s の視点による協議会運営事業、S D G s ×地域資源など教育推進事業、林福連携事業、農福連携事業（農業と障がいのある人の就労による掛け合わせ）を行う。○リサイクルプラザ管理運営事業 リサイクルプラザの計画的な修繕により、施設の適切な維持管理と長寿命化を図る。○市民共同発電事業 市民などの出資により地域の自然エネルギーを活用した発電事業を行い、地域内のエネルギー自給力の向上や経済循環を活性化させる。○地域自然エネルギーを活用した地域雇用創出事業 バイオマス（化石燃料を除く、再生可能な生物由来の有機資源全般）を活用した地域自然エネルギーの発掘と活用により、障がいのある人を含む新たな雇用を支援する。



事業例	
	○地域新電力事業 こなんウルトラパワー株式会社を核とした自然エネルギーを活用した取組により、地域循環共生圏（地域の多様な資源を最大限生かしながら、環境・社会・経済の同時解決をめざす自立・分散型の持続可能な社会）を実現する。
人財の育成	○職員研修事業 人権啓発リーダーとして市職員に対し人権研修を実施する。 ○広報・広聴活動推進事業 湖南市の魅力・利便性の向上を図る情報発信活動や、市民からの意見を市政に反映させる広聴活動を行う。

政策パッケージ 7

安心して暮らせる基盤づくり

【関連するSDGs】



政策
1

地域防災の推進

- 1) 地域の自主防災組織の充実
- 2) 防災体制の確立
- 3) 避難所の機能の充実

政策
2

地域福祉の推進

- 1) 地域福祉体制の充実
- 2) 住民主体の地域福祉活動の促進

政策
3

人権尊重と恒久平和の追求

- 1) 人権尊重の徹底とあらゆる差別の撤廃
- 2) 相談体制の充実
- 3) 「非核平和都市宣言」の啓発

政策
4

ジェンダー平等の達成

- 1) ジェンダー平等の啓発
- 2) だれもが参画できる環境整備と社会参加の促進
- 3) 相談および支援体制の充実
- 4) 性的マイノリティへの理解促進



政策
5

魅力的で個性的な
拠点となる公園の充実

1) 拠点的公園の充実

政策
6

身近な公園の再編

1) 身近な公園の再編
2) 公園の利用・維持管理の効率化

政策
7

上下水道の整備

1) 上水道施設の整備と管理
2) 下水道施設の整備と管理

政策
8

公共交通の見直し

1) 地域公共交通の再構築
2) JR草津線複線化の促進
3) 地域の支えあいによる移動支援の推進

政策
9

バスの利便性向上

1) バスの利便性向上
2) モビリティ・マネジメントの推進

政策
10

駅周辺のまちづくり

1) 3駅周辺のまちづくりの推進

政策
11

計画的な市街地・
住環境整備

1) 都市計画の推進と市街地の整備
2) 良好的な景観の形成
3) 住環境の整備・地籍調査の実施
4) 住宅環境の改善
5) 空き家対策の推進
6) 火葬場の整備、靈園・墓地の適正管理

政策
12

道路網・河川の整備

1) 幹線道路の整備と管理
2) 生活道路・水路の整備と管理
3) 河川の整備

政策
13

高齢者福祉の充実

1) 地域ネットワーク体制の確立
2) 生きがい支援の充実
3) 介護予防の推進
4) 介護サービスの充実



政策
14

障がいのある人への生活支援サービスの充実

- 1) 生活支援サービスの充実
- 2) 安心して移動ができるまちづくり
- 3) 情報提供・相談体制の充実
- 4) 障がいに対する理解の促進
- 5) 就労への支援
- 6) 生涯学習・文化芸術・スポーツ活動の場づくり

政策
15

健康づくりの推進

- 1) 健全な生活習慣の形成
- 2) 健康に関する正しい情報提供
- 3) 疾病予防・早期発見の推進

政策
16

医療環境の充実

- 1) 地域医療体制の充実
- 2) 地域包括ケアシステムの拡充

政策
17

持続可能な地域共生社会の実現

- 1) 多様な主体の参画の推進
- 2) 多様な福祉サービスの提供と事業者などの確保・育成
- 3) 人権の尊重とノーマライゼーションの理念の浸透
- 4) ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
- 5) 自立支援・相談体制の強化
- 6) 生活困窮者への支援

政策
18

危機管理体制の強化

- 1) 危機管理体制の整備
- 2) 防災体制の充実
- 3) 防災施設の整備
- 4) 災害の未然防止

政策
19

安全な地域づくりの推進

- 1) 防犯体制の強化
- 2) 消費者市民社会の形成
- 3) 交通安全の推進
- 4) 総合的獣害への対策

政策
20

スポーツ環境・拠点の充実

- 1) スポーツ活動の推進
- 2) スポーツに親しむ環境づくり
- 3) スポーツ施設の充実

政策
21

読書環境の充実

- 1) 図書館機能の充実
- 2) 人と本をつなぐ環境づくり



政策
22

文化芸術活動の振興 1) 文化芸術活動への支援
2) 湖南市の魅力となる文化芸術の創出

政策
23

自治体DXの推進 1) DXによる行政改革
2) 人財の育成

政策
24

近隣市町との連携 1) 近隣市町との連携の推進
2) 地域間交流の推進

【主な具体的事業】

	事業例
災害に強いまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none">○防犯カメラ設置促進事業 自治会などに対し行う防犯カメラの設置に係る経費に対し交付金を交付し、防犯カメラの設置を行う。○非常用トイレ整備事業 災害時に対応可能なトイレを確保することにより、災害時の指定避難所における衛生管理を高める。○災害情報伝達手段更新事業 簡易無線電波改善工事や防災行政無線設備の更新を通じて、音達エリアの拡大による更なる情報伝達サービスの向上を図る。○防災マップ作成事業 洪水浸水想定区域図における被害規模・区域などの見直しに対応した防災マップの全面改訂を行う。○ブロック塀撤去改修補助事業 地震などにより倒壊の危険性があるコンクリートブロック塀の撤去または改修を行う所有者に対して補助を行う。○土砂災害防止推進事業 雨量や土砂災害情報の伝達通信により住民にその状況を広く周知すると共に、危険区域での住戸に対する居住環境の改善を促す。○防災活動推進事業 災害などの非常時に市民に情報伝達を行うと共に、避難に備えて非常食料などの備蓄や自主防災組織の育成を行う。



事業例	
安心できる地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none">○重層的支援体制整備事業 地域住民の複合的な支援ニーズに対応するため、相談支援、多様な参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する。支援者間のネットワークから潜在的な相談者を見つけ、社会とのつながりをつくり、定着支援と受け入れ先の支援を行う。○地域包括支援センター運営事業 総合相談、在宅医療、介護連携、認知症施策の推進、生活支援サービス体制の構築などの包括的な支援事業や介護予防・日常生活支援総合事業の実施により、地域包括ケアシステムの構築を図る。○健康づくり習慣化モデル事業 運動実施率の向上をめざし、健康ポイント事業や魅力ある運動・食の講座を通じて、市民が楽しみながら自然に運動習慣が身につくモデル事業を展開する。○福祉医療助成事業 社会的・経済的に弱い立場にある障がいのある人や子ども、高齢者などの医療費を助成する。
公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none">○コミュニティバス運行対策事業 利用実態を踏まえコミュニティバスの路線、ルートの見直しを行い効率が良く持続可能な運行を推進する。○官民連携による企業共同運行バスの実現に向けた人財育成プロジェクト事業 湖南工業団地協会や周辺企業などを対象に、企業が協働してバスを運行する実証事業を実施するなど官民連携による移動手段の確保を推進する。○JR草津線の複線化事業 公共交通の利便性向上のために、増便に向けた企業との協働による利用促進や、草津線複線化促進期成同盟会を通じてJR西日本に働きかけ複線化を推進する。○地域を支える新たな公共交通モデル事業 自動運転などの新たな技術による移動手段の導入可能性の検討を行う。
効率的な都市構造の形成	<ul style="list-style-type: none">○3駅周辺整備促進事業 市内のJR草津線3駅（石部駅、甲西駅、三雲駅）の周辺において、バリアフリー化や安全な歩行空間確保などウォーカブル（居心地が良く歩きたくなる）な市街地整備などを推進する。○コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくり事業 湖南市都市計画マスターplanおよび湖南市立地適正化計画に基づく届出制度などによって都市機能や居住機能の緩やかな立地誘導を推進する。
地域の特性に応じたまちづくり	<ul style="list-style-type: none">○商工業土地利用増進事業 都市計画法に基づく区域区分制度および用途地域により地域の特性に応じた都市機能の誘導、商工業の土地利用の増進、主要市街地の振興を推進する。



事業例	
	<ul style="list-style-type: none">○きめ細かなまちづくり事業 都市計画法に基づく地区計画（地方自治体が区域の特性に合わせて地区独自のまちづくりルールを定める制度）の申出や都市計画提案制度（住民などが行政の提案に対して意見するだけではなく、より主体的かつ積極的に都市計画に関わることを目的として都市計画を提案できる制度）の申出を活用した地域の特性を生かし住民の意向が反映されたまちづくりに対応する。○良好な景観づくり事業 景観計画（景観法に基づき、地域の景観形成に応じて区域や良好な景観形成を図るための方針などを定めた計画）に基づく届出制度などによって地域の特性を生かした良好な景観づくりを推進する。
住環境の改善	<ul style="list-style-type: none">○公園の適正な維持管理・利活用・再配置推進事業 公園の遊具施設の更新などの老朽化対策、適正な維持管理、地域のニーズを踏まえた利活用の促進、再配置を推進する。○市営住宅管理・整備事業 住宅に困窮する低額所得者への住宅供給のため、市営住宅の適正な管理や整備を行う。○空家対策推進事業 空家の発生予防、適正管理指導や利活用の促進に向けた空き家バンクによるマッチング業務などの取組を行う。○民間建築物耐震事業 民間建築物の耐震性確保を計画的に推進する。○アスベスト対策事業 既存の民間建築物の安全性の向上のため、アスベストの含有調査の実施を補助金交付により支援し、実態把握および除去の推進を図る。
インフラ施設の充実、適正管理	<ul style="list-style-type: none">○道路整備事業 国道1号の4車線化などの高規格道路や地域幹線道路の早期整備実現を推進する。その他の道路についても湖南市道路整備計画に基づき、計画的に道路整備を推進する。○市道の整備・維持管理事業 個別施設計画に基づき、市道の用地や施設の適正管理を推進する。併せて舗装修繕計画に基づく効果的かつ効率的な補修などの維持管理の実施により、市道の利便性や走行性の向上を図る。○橋りょう修繕・点検事業 道路橋の維持管理手法を予防保全型に転換し、ライフサイクルコスト（維持管理費用と更新費）の縮減、計画的な長寿命化対策に向け、定期点検および予防的な修繕対策を実施する。○交通安全施設整備推進事業 交通事故の発生しやすい危険箇所などを解消するため、交通安全施設の整備・維持管理を推進する。○上下水道基盤強化事業 上下水道の適切な維持管理を行うと共に、効率化・基盤強化の取組を進める。



事業例	
	<p>○安全な通学路整備事業 　　湖南省通学路交通安全プログラムに基づき関係機関の参画による湖南省通学路安全推進会議が主体となり、通学路の点検を実施し、緊急性が高い箇所から安全対策を順次推進する。</p> <p>○一級河川整備促進事業 　　近年の気候変動による水災害の頻発化・激甚化に備えるため、一級河川の早期整備に向けて要望活動、調査分析などを継続して実施する。</p> <p>○河川対策推進事業 　　近年頻発する大雨などによる浸水対策として、湖南省管理の河川・水路の緊急的な浚渫（しゅんせつ）を実施する。</p> <p>○河川愛護活動推進事業 　　河川の美化や総合治水対策、利水向上のため河川愛護の考え方の普及、地域住民の河川愛護活動の推進に取り組む。</p>
生涯学習・生涯スポーツの環境づくり	<p>○文化施設改修事業 　　甲西文化ホールおよび石部文化総合センターの機能を集約化のため統合する。</p> <p>○文化芸術振興事業 　　湖南省文化芸術振興計画に基づき、文化芸術活動を次の世代に継承するため、担い手となる人財の発掘、育成を推進する。</p> <p>○社会体育施設長寿命化事業 　　総合体育館、雨山体育館、雨山文化運動公園、地域開放を行っている学校体育館・グラウンドの施設や設備の修繕・長寿命化、省エネルギー機器への更新などを計画的に推進する。</p> <p>○社会体育施設活性化事業 　　社会体育施設を多くの利用者が安心して利用できるよう活性化を図る。</p> <p>○図書館施設管理事業 　　甲西図書館の修繕・工事などを行い施設の長寿命化を図る。また、甲西図書館のリニューアルに向けて事業構想の実現に取り組む。</p> <p>○甲西図書館リニューアル事業 　　公立図書館の基本的機能に加え、今後の社会の変化を見据えたニーズに対応するため、子育て世代や若者をはじめ、世代を問わず、より多くの市民に利用され親しまれる図書館にリニューアルを行う。</p>
庁舎の整備	<p>○庁舎整備事業および周辺整備事業 　　大規模災害時の機能維持と、市民の利便性向上、行政運営の効率化を図り、持続可能な地域づくりを後押しする新庁舎の整備と市民の憩いの場の創出を行う。</p>



事業例	
自治体DX・行財政改革の推進	<ul style="list-style-type: none">○生成AIを活用した利便性向上と業務効率の改善事業 生成AI（テキスト、画像、音声などを自動的に生成する人口知能）の導入・活用により市民への行政サービスの利便性向上および業務の効率化を推進する。○情報共有システム構築事業 市内4箇所の地域包括支援センター（おおむね中学校区ごとに設置された高齢者の保健医療の向上や福祉の増進を包括的に支援する中核的な機関）との情報共有を確実に行うシステムを導入する。○在宅勤務推進事業 在宅勤務制度の利用促進を図るため運用方法の改善、制度を利用しやすい職場環境づくりを推進する。○職員研修事業 人材育成基本方針に基づき研修プログラムを推進すると共に、研修に関する情報提供を積極的に行い、研修機会を確保する。○行政改革推進事業 健全な行財政運営を進めると共に、市民サービスの質の向上と行政事務の効率化を図るため、書かない窓口に加え来庁することなく手続が完結できるようオンライン手続を拡充させる。